

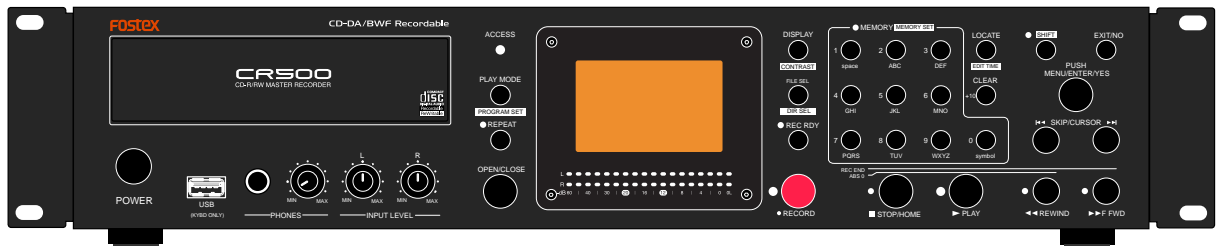


438101  
8588077000

# 取扱説明書

# CR500

CD-R/RW マスター・レコーダ



# Fostex®

## 安全上のご注意

ここでは、本機をご使用いただく上での安全に関する項目を記載しています。あなたや他の人々へ与える危害や、財産などへの損害を未然に防止するため、ここに記載されている事項をお守りいただくものです。本機をご使用になる前には、必ずお読みください。

### 警告

この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 注意

この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示について

本書、および製品の表示には、あなたや他の人々へ与える危害や財産の損害を未然に防ぎ、本機を安全にご使用いただくために、警告または注意を促す絵表示を使用しています。これら絵表示の意味をよく理解して、本書をお読みください。



記号は、注意しなければならぬ内容(警告も含む)を示しています。具体的な注意事項は、の中や近くに絵や文章で示しています。上記例は「感電注意」を示しています。



記号は、禁止内容(してはいけないこと)を示しています。具体的な禁止事項は、の中や近くに絵や文章で示しています。上記例は「分解禁止」を示しています。



記号は、強制内容(必ずすること)を示しています。具体的な強制事項は、の中や近くに絵や文章で示しています。上記例は「電源プラグをコンセントから抜く」を示しています。

## 警告

### 異常が発生した場合



万一、煙が出ている、変な匂いや音がするなどの異常のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに機器本体の電源を切り、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いてください。異常が無くなったことを確認して、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。お客様ご自身での修理は大変危険ですので、絶対にお止めください。



万一、機器内部に水や異物が入った場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いて、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



電源ケーブルの断線、芯線の露出などケーブルが傷んだ場合には、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



万一、機器を落としたり、カバーを破損した場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いて、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

### 設置する場合








機器本体に直接水のかかる場所には置かないでください。火災・感電の原因となります。特に屋外での使用(雨天、降雪時、海岸、水辺)はご注意ください。




製品本体の上に、花瓶、コップや水などの入った容器、または小さな金属物類を置かないでください。何らかの理由で水がこぼれたり、本機の中に金属物が入ったりした場合、火災・感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、電源ケーブルのプラグには絶対手を触れないでください。感電の原因となります。

使用する場合	
 <p>本機の分解 / 修理 / 改造は、絶対にしないでください。また、本体カバーは絶対に外したりしないでください。火災・感電の原因となります。</p>	 <p>電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、あるいは加熱しないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。</p>
 <p>電源ケーブルの上に重い物を載せたり、ケーブルが本機の下敷きにならないようにしてください。ケーブルが傷ついて、火災・感電の原因となります。</p>	 <p>機器本体、または取扱説明書に表記されている電源電圧以外では、使用しないでください。なお、電源ケーブルは家庭用100ボルトのコンセントに確実に差し込んでください。火災・感電の原因となります。</p> 

**⚠️ 注意**

設置する場合	
<p>油煙や湯気の当たるような場所、あるいは湿気やホコリの多い所へ置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p>  <p>電源ケーブルを熱器具に近付けないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>本機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。</p> <p>窓を閉め切った車の中や、直射日光が長時間当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。</p>	 <p>電源ケーブルがコンセントに接続されたまま電源スイッチを切っても、機器は電源から完全に断路状態になっていません。長期間使用しないときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。</p>  <p>濡れた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p>  <p>電源が入った状態で、本機を布や布団で被ったりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p>  <p>大きなモニター音を長時間ヘッドホンでモニターするのはお止めください。聴力障害の原因となることがあります。</p>
 <p>この製品は精密な部品でできています。製品を運ぶときなどは、慎重に行ってください。</p>	<p style="text-align: center;"><b>製品をお手入れする場合</b></p>  <p>本機をお手入れする場合は、安全のため電源ケーブルをコンセントから抜いてください。電源ケーブルを差し込んだまま行うと、感電の原因となることがあります。</p>  <p>5年に1度位は機器内部の清掃が必要です。販売店または当社営業窓口へご相談ください。長期間掃除しないと内部にホコリがたまり、そのまま使用すると火災・感電の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時期の前に行うと、より効果的です。</p>
 <p>本機を移動する場合には必ず電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、接続されている外部機器の接続ケーブルも外してください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	<p style="text-align: center;"><b>その他のご注意</b></p> <p>本機の近くで携帯電話を使用すると、機器にノイズが入ることがあります。携帯電話は、本機から離れた場所でご使用ください。</p> <p>この製品をラジオやテレビの近くで使用すると、ノイズや雑音が生じることがあります。このような場合には、本機をラジオやテレビから離してご使用ください。</p>
使用する場合	
 <p>本機に他のオーディオ機器を接続する場合には、必ず本機および接続する機器の電源を切り、接続する機器の説明書をよく読んで、説明に従って正しく接続してください。また、接続に使用するケーブルなどは、指定された製品を使用してください。</p>	
 <p>本機の電源を入れる前には、音量（ボリュームなど）を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。</p>	

# 目次

はじめに.....	7
ご使用になる前の注意.....	7
設置上のご注意.....	8
アフターサービスについて.....	8

## 第1章 製品の概要.....9

CR500の主な特長.....	10
-----------------	----

## 第2章 ご使用になる前の準備.....13

電源の接続.....	14
リアルタイム・クロックの設定.....	14
CD-R/RWディスクの初期フォーマット.....	16
使用可能なディスクについて.....	16
フォーマット・タイプについて.....	16
ディスクの取り扱いについて.....	16
ディスクの出し入れ.....	17
初期フォーマットの操作手順.....	18
ディスプレイのコントラスト調整.....	22

## 第3章 各部の名称と機能.....23

フロント・パネル部.....	24
リア・パネル部.....	29
LCDディスプレイの詳細.....	30
Home画面.....	30
インプットモニター画面.....	32
MENUモード画面.....	34

## 第4章 接続.....35

外部機器の接続.....	36
アナログ・オーディオ信号の接続.....	36
デジタル・オーディオ信号の接続.....	36
外部フェーダースタートの接続.....	37
USBキーボードの接続.....	37

**第5章 記録.....39**

<b>記録を開始する前に.....</b>	<b>40</b>
クローズ処理とファイナライズ処理.....	40
<b>記録の準備.....</b>	<b>41</b>
外部音源の接続.....	41
インプット・セレクトの設定.....	42
録音レベルの調整(アナログ・オーディオ信号の記録時のみ).....	42
<b>WAVファイルの記録.....</b>	<b>44</b>
記録の開始.....	44
記録の終了.....	44
記録したオーディオ・ファイルの確認.....	45
記録したオーディオ・ファイルの再生.....	45
ディスクのクローズ処理.....	46
<b>CD-DAの記録(オーディオCDの作成).....</b>	<b>47</b>
記録の開始.....	47
記録の終了.....	47
記録したオーディオ・トラックの確認.....	48
記録したオーディオ・トラックの再生.....	48
ディスクのファイナライズ処理.....	49
<b>再生する曲のセレクト.....</b>	<b>50</b>
<セレクト方法1> [SKIP/CURSOR ◀◀▶▶] キーを使う.....	50
<セレクト方法2> [MEMORY/[MEMORY SET]] キーを使う.....	50
<セレクト方法3> ファイルセレクト・モードを使う.....	51

**第6章 再生/ロケート.....53**

<b>プレイ・モードについて.....</b>	<b>54</b>
<b>ALL PLAYモードによる再生.....</b>	<b>55</b>
<b>SINGLE PLAYモードによる再生.....</b>	<b>55</b>
<b>キューイング/デジタル・スクラブでの再生.....</b>	<b>56</b>
CUEモードによる再生(キューイング).....	56
スクラブ・モードによる再生.....	56
<b>PROGRAM PLAYモードによる再生.....</b>	<b>57</b>
プレイ・リストの登録.....	58
プレイ・リストから任意の曲を削除.....	60
プレイ・リストから全ての曲を削除.....	60
<b>MEMORY PLAYモードによる再生.....</b>	<b>61</b>
メモリー・データの登録.....	62
メモリー・データの置き換え.....	63

メモリー・ネームの編集.....	64
再生開始 / 終了時間を入力して編集.....	64
デジタル・スクラブで微調整して再生開始 / 終了時間を編集.....	65
任意のメモリー・データを削除.....	66
<b>ISO9660フォーマットディスクの再生.....</b>	<b>67</b>
<b>ロケート / スキップ機能.....</b>	<b>68</b>
オーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)単位のロケート.....	68
オーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)単位のスキップ.....	69
ABSタイムのロケート( Locate ABS 0 / Locate REC END ).....	69
任意のタイム・データを入力してロケート.....	70

## **第7章 MENUモード.....71**

### **MENUモードについて.....72**

#### **SYS SETUPメニュー.....73**

SYS SETUPメニューの選択 / 設定手順.....	74
デフォルト・ファイル・ネームの設定( Default File Name ).....	75
入力信号の設定( Select Input ).....	76
デジタル出力のフォーマット設定( Digital Out ).....	77
ピーク・ホールド時間の設定( Peak Hold ).....	77
リファレンス・レベルの設定( Ref. Level ).....	78
USBキーボードの設定( Keyboard ).....	78
SYS SETUPデータの保存( Sys User Save ).....	79
SYS SETUPデータのロード( Sys User Load ).....	79
セットアップ・データの初期化( Sys Default Set ).....	80
フラッシュ・メモリーの初期化( Sys Initial Memory ).....	80
ROMバージョンの確認( Version ).....	81

#### **PLAY SETUPメニュー.....82**

PLAY SETUPメニューの設定手順.....	82
プレイ・モードの設定( Play Mode ).....	83
リピート・モードの設定( Repeat ).....	83
オートプレイ・モードの設定( Auto Play ).....	84
パワーON時のオートプレイ設定( Power On PLayer ).....	84

#### **DISK UTILITYメニュー.....85**

ディスクのフォーマット( Format ).....	86
ファイル・システムの再保存( Rewrite File Sys ).....	88
ファイル・ネームの編集( Edit File Name ).....	89
不要なオーディオ・ファイルの削除( Delete File ).....	90
削除したオーディオ・ファイルの復活( Restore Del. File ).....	91
ディスクのファイナライズ( Finalize ).....	92

## **第8章 製品の主な仕様.....93**

## はじめに

この取扱説明書は、フォステクス CD-R/RW MASTER RECORDER Model CR500 をご使用いただくためのガイド・ブックです。

本書の記載内容は、業務用デジタル・レコーダの使用経験と基礎知識がおりになる方々を対象に書かれています。したがって、本書の「第1章 製品の概要」および「第3章 各部の名称と機能」をお読みいただければ、CR500のおおよその使用方法がお分かりいただけるよう、簡潔にまとめてあります。

特に、「第3章 各部の名称と機能」では、各部の説明とともに参照ページを記載してありますので、詳細な説明を必要とするインデックスとしてもご利用いただけます。

また、「第2章 ご使用になる前の準備」には、CR500を初めてご使用になるために必要な「リアルタイム・クロックの設定」、「CD-R/RWディスクの初期フォーマット」について記載していますので、ご使用になる前に必ずお読みください。

なお、初めて CD-R/RW MASTER RECORDER をご使用になる方は、是非本書を通読されることをお勧めします。

## ご使用になる前の注意 (冒頭記載の「安全上のご注意」と併せてお読みください)

本機に電源を供給する場合には、必ず当社指定の電源ケーブルをご使用ください。指定以外のケーブルをご使用になった場合、十分な性能が得られないばかりか、本機を壊す恐れがありますのでご注意ください。

本機は、日本国内 (AC100V 電源仕様) でのみ使用できます。電源電圧の異なる地域でご使用になる場合は、弊社サービス部門 (042-546-3151、FAX: 042-546-3198) へご相談ください。なお、電源周波数は 50Hz、60Hz いずれの地域でもご使用いただけます。

本機には、定格以外の電源電圧を供給しないでください。

電源プラグの抜き差しは、必ず本機の主電源を切ってから行ってください。電源が入っている状態では、常にデータのやり取りを行っているため、本体のメモリ内容を壊す恐れがあります。

記録 / 再生中などディスクのアクセス中は、絶対に電源を切らないでください。電源を切るときは、ディスクが完全に停止していることを確認してください。記録したデータを失うことはもとより、CD-R/RW ディスクの故障の原因となります。

**< 注意 >** : 本機を使用中に生じるあらゆるデータの消失に関しては、当社では一切の責任を負いませんのでご注意ください。

**< 注意 >** : 本機を使用して生じる「直接的損害」・「間接的損害」については、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知置きください。

本機の内部 (特にトレイ内部) に水などの液体や可燃物、あるいはピンなどの金属類を入れないでください。万一、水などが入った場合にはすぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、弊社サービス部門へご相談ください。

本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。内部回路やディスプレイ / パネルなどが破損することがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

本機外装カバーを取り外したり、本機の内部に手を触れないでください。故障の原因となります。



LCDディスプレイには強い衝撃を与えないでください。LCD内部の液体は有害物質です。万一、破損流失した液晶は、なめたり吸い込んだりしないでください。手など他の皮膚に液晶が付着した場合には、速やかに水などで完全に洗い流してください。

#### <リチウムバッテリーの交換について>

本機にはリチウムバッテリーが内蔵されています。バッテリーの交換は正常に行われないと、爆発などの危険を生じる場合があります。交換作業は、弊社サービス部門にお任せください。

## 設置上のご注意

本機を下記のような条件下では、使用しないでください。

- \* 極端に暑いところや、寒いところなど、気温の変化の激しい場所。
- \* 湿気の多い場所。
- \* 激しく振動する場所。
- \* ホコリの多い場所。
- \* 強い磁気を発生する場所、あるいは磁気を発生させる機器の傍。
- \* 長時間直射日光が当たる場所。
- \* 直接雨などの水が当たる場所。

結露について

極端に寒いところから急に暖かい部屋などへ本機を移動すると、結露が生じてドライブ部をはじめ、ディスプレイ/パネルなどに水滴が付くことがあります。このような場合には、移動した場所の温度になじむまで本機をしばらく放置することをお勧めします。

## アフターサービスについて

この製品には、製品保証書が添付されています。

お買い上げの際に、販売店で所定の事項を記入してお渡ししますので、記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

保証期間中は保証書の記載内容に基づき、弊社サービス部門で修理致します。その他詳細については、添付されている保証書をご覧ください。

保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理についてご不明な点は、お買い上げの販売店、もしくは弊社営業窓口( 042-546-6355, FAX. 042-546-6067 )へご相談ください。

保証期間経過後でも、修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理致します。修理費用/期間などについては、弊社サービス部門( 042-546-3151, FAX. 042-546-3198 )へお問い合わせください。

この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。



# 第1章 製品の概要

ここでは、CR500の主な特長について記載しています。

## CR500 の主な特長

CR500は、記録メディアにCD-RおよびCD-RWディスクを使用した、2トラック デジタル・マスターレコーダです。

ディスクのファイル・フォーマットには、BWF-P (インターリーブ) とCD-DAを採用し、用途に合わせて使い分けができます。また、本機はUDF rev1.02 (Universal Disk Format)、CD-DA (Compact Disc Digital Audio)、ISO9660のファイル・システムに対応し、高品位で高音質の記録/再生が可能です (注意: ISO9660は再生のみ可能)。

本機で記録したCD-R/CD-RWディスクは、ファイナライズ処理することでPCへ取り込むことが可能になります。また、CD-DAで記録したディスクをファイナライズして、オーディオCDの作成も可能です。

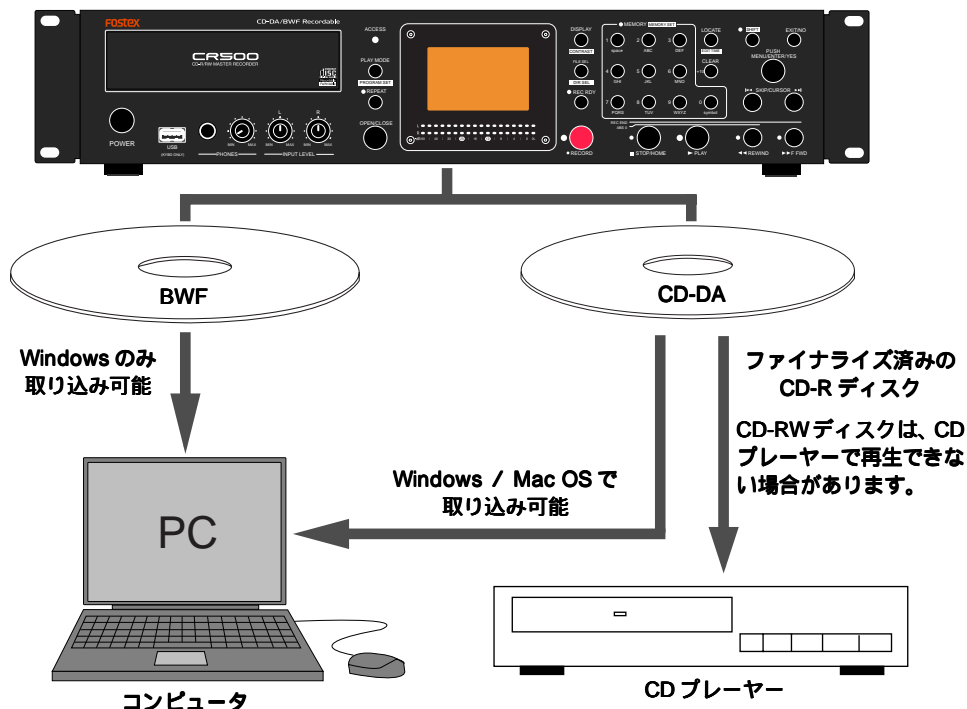
さらに本機には、オートプレイ・モードやプログラムプレイ・モードなど多彩な再生機能を備え、長時間のイベント再生機としても幅広く活用することができます。

### 2つの記録フォーマットを採用

CR500では、CD-R/RWディスクの記録フォーマットに、BWF (Broadcast Wave Form) フォーマットとCD-DA (Compact Disc Digital Audio) フォーマットを採用し、用途に応じて使い分けが可能です。

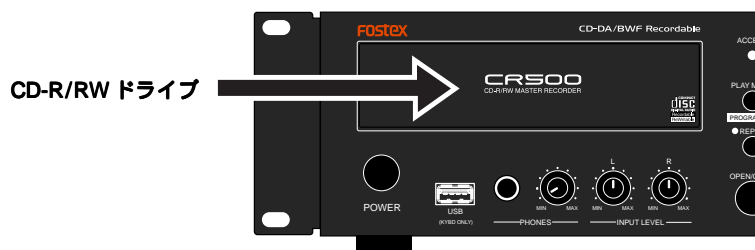
BWFフォーマットのディスクにはWAVファイルのオーディオ・ファイルが記録され、CD-DAフォーマットのディスクにはCD-DAのオーディオ・トラックが記録されます。BWFのディスクはクローズ処理することでPC (Windowsのみ) へ取り込むことが可能となり、フォステクス製フリーソフトウェア (WAV Manager) を使いPC上でモノトラック・ファイルに分割することが可能です (WAV Managerについては、弊社営業窓口へお問い合わせください)。また、CD-DAのディスクはファイナライズ処理することでPC (Windows/Mac OS) へ取り込んだり、他のCDプレーヤーで再生可能なオーディオCDが作成できます。

**<注意>**：本機では、BWFディスクに記録されるオーディオ・データを「**オーディオ・ファイル**」と呼び、CD-DAディスクに記録されるオーディオ・データを「**オーディオ・トラック**」と呼んでいます。



## 高性能CD-R/RWドライブを採用

CR500では、高性能のCD-R/RWドライブを搭載し、Buffer-Under-run防止機能による、信頼性の高いステレオ録音/再生が可能です。



## 多彩な再生機能を搭載

CR500には多彩な再生機能（プレイ・モード）を搭載して、多種多様な再生に対応することができ、イベント用再生機などに活用が可能です。

プレイ・モードには次の4つのモードがあり、用途に応じて使い分けができます。

- (1) ALL PLAY モード（ディスクに記録されている曲を連続再生）
- (2) SINGLE PLAY モード（1曲ごとに再生）
- (3) PROGRAM PLAY モード（任意のプレイ・リストに従って連続再生）
- (4) MEMORY PLAY モード（メモリーされた曲のインスタント・スタート）

## 用途に合わせたFS/BITでの記録が可能（BWFのみ）

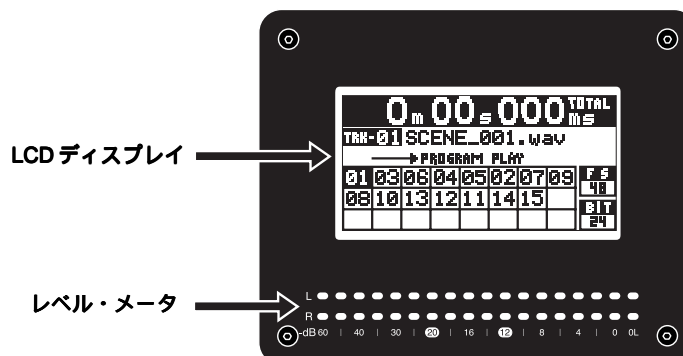
BWFでフォーマットしたCD-R/RWディスクに記録する場合、用途に合わせたFS/BITで記録が可能です。FS/BITはディスクのフォーマット時に、以下の中から選択できます（注意：CD-DAでの記録は、44.1kHz/16Bit固定になります）。

- (1) 44.1kHz/16Bit
- (2) 44.1kHz/24Bit
- (3) 48kHz/16Bit
- (4) 48kHz/24Bit
- (5) 88.2kHz/24Bit
- (6) 96kHz/24Bit

## 視認容易な大型ディスプレイとレベル・メータ搭載

132 × 64 ドット・マトリクス of LCDディスプレイを採用し、タイム情報ははじめ本機の設定状況が容易に視認できます。また、レベル・メータにはドットLEDを採用し、正確な録音レベルの調整や、再生レベルの確認が可能です。

また、本機にはピーク・ホールド機能を搭載しており、レベル・メータで入力信号の監視が可能です。ピーク・ホールド時間は初期設定で3秒に設定されていますが、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Peak Hold”で、0秒～9秒の範囲を1秒ステップで設定できます（77ページ）。



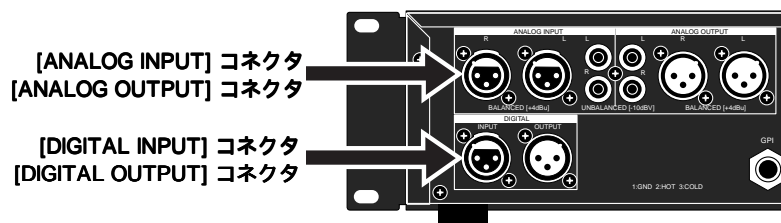
## USB キーボードを接続し、ファイル・ネームの入力などに利用可能

CR500 には、USB キーボード専用の [USB] ポートを搭載し、USB キーボード（または 10 キーボード）を接続してショート・キー機能で MENU モードへ入ったり、ファイル・ネームの入力などに利用できます。さらには、トランスポートのコントロールなどのリモート・コントロールとしても使用できます（ 37 ページ）。



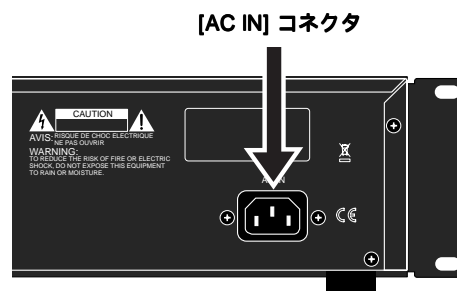
## プロ仕様のアナログ/デジタル入出力コネクタを搭載

アナログ・オーディオ信号の入出力にはバランスの XLR コネクタと、アンバランスの RCA を搭載し、用途に合わせて使用できます。また、デジタル・オーディオ信号の入出力にもバランスの XLR コネクタを搭載し、AES/EBU または S/P DIF フォーマットのデジタル信号が入出力できます。



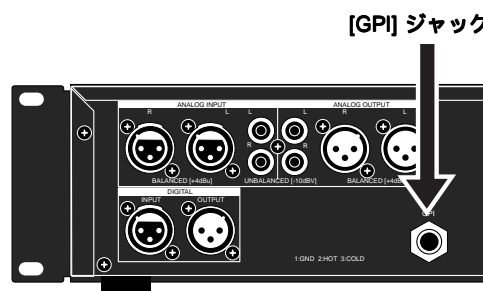
## ワールド・ワイドな電源入力に対応

CR500 の電源は AC インレット・タイプを採用し、ワールド・ワイドな電源に対応しています。電源ケーブルを交換するだけで、国内外問わずご使用いただけます。



## フェーダー・スタートが可能

フェーダー・スタート機能を搭載し、フェーダー・スタート端子を備えたミキサーと接続し、ミキサーから CR500 のプレイ/ストップなどのコントロールが可能です。



## 第2章 ご使用になる前の準備

ここでは、CR500をご使用いただくために必要な「電源の接続」、「リアルタイム・クロックの設定」、「CD-R/RWディスクの初期フォーマット」さらには「ディスプレイのコントラスト調整」について記載しています。

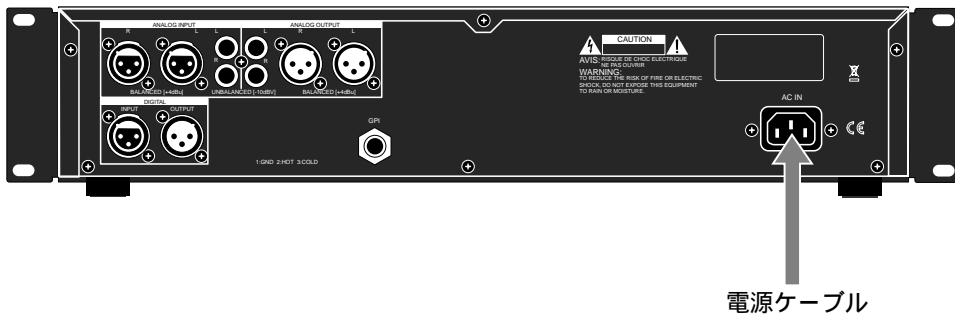
ここに記載されている事項は、本機で記録/再生の操作を行うための、大切な準備作業です。ご使用いただく前に、必ずお読みください。

### 目次

電源の接続.....	14
リアルタイム・クロックの設定.....	14
CD-R/RWディスクの初期フォーマット.....	16
使用可能なディスクについて.....	16
フォーマット・タイプについて.....	16
ディスクの取り扱いについて.....	16
ディスクの出し入れ.....	17
初期フォーマットの操作手順.....	18
ディスプレイのコントラスト調整.....	22

## 電源の接続

付属の電源ケーブルを、リアパネルの [AC IN] コネクタに接続した後コンセントに接続します。

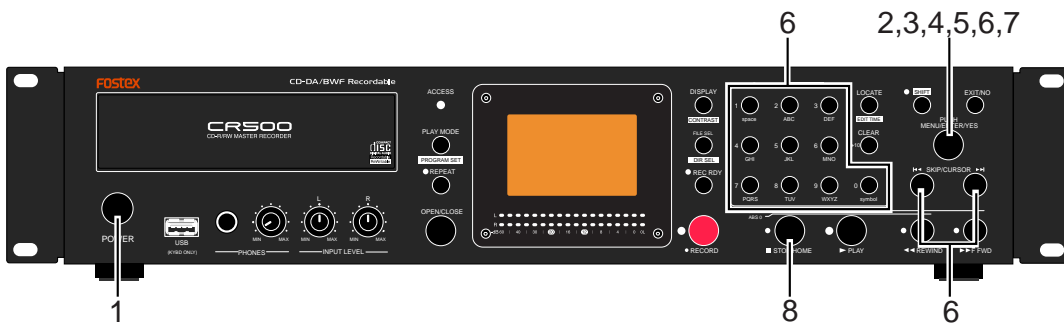


**<注意>**： 電源ケーブルは、必ず AC 100 ボルトのコンセントに接続してください。エアコン専用のコンセントなどには接続しないでください。  
また、本機に付属している電源ケーブルは国内専用です。本機を海外で使用する場合は、弊社営業窓口またはサービス部門へお問い合わせください。

## リアルタイム・クロックの設定

電源ケーブルを接続した後本機の電源を入れ、本機に内蔵しているリアルタイム・クロックを正しい日時に設定します。

リアルタイム・クロックのタイム・データは、BWFフォーマットのCD-R/RWディスクへ記録するとき作成されるオーディオ・ファイルの、ファイル作成日時に利用されます（75ページ）。そのため、本機をご使用いただく前には、リアルタイム・クロックの日時を、正しい値に設定することが必要です。製品の開梱後は、工場出荷時の年月日/時刻で駆動していますので、下記操作手順で設定し直してください。



- 1) [POWER] スイッチを押して、CR500の電源を入れます。

本機の電源を入れてしばらくすると、下記画面が表示されます。  
この画面は、ドライブにディスクがロードされていない状態でCR500が立ち上がったことを示し、タイム表示は“- m - - s - - ms”になっています。

- m - - s - - ms		TOTAL
TRK-		ms
→ ALL PLAY		
		F S
		44.1
		BIT
		16

- 2) [ENTER/YES] キーを押します。  
本機のMENUモードへ入り、メイン・メニューを選択する画面に変わります。初めてMENUモードへ入ったときは、“SYS SETUP ▶”が反転します。

MENU ▶	
▼ SYS SETUP ▶	
PLAY SETUP ▶	
DISK UTILITY ▶	
FILE SEL ▶	
DIRECTORY SEL ▶	
PROGRAM SET ▶	

- 3) “SYS SETUP ▶” が反転している状態で、  
[ENTER/YES] キーを押します。

“SYS SETUP”メニューのサブ・メニューを選択する階層画面に変わり、初めてこの階層に入ったときは “Default file name ▶” が反転します。

```

MENU▶
▼SYS SETUP ▶
PLAY SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
FILE SEL ▶
DIRECTORY SEL▶
PROGRAM SET ▶

```

```

M▶SYS▶
▼Default File Name▶
Select Input:Analog
Digital Out :AES/EBU
Peak Hold :3sec
Ref.Level :-12dB
Keyboard Sel:US

```

- 4) [MENU] ダイアルでカーソルをスクロールさせて、“Adjust RTC ▶” を選択した後  
[ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されている年/月/日/時間が表示され、リアルタイムに時を刻む画面に変わります。

```

M▶SYS▶
Sys User Save▶
Sys User Load▶
Sys Default Set▶
Sys Initial Memory▶
◆Adjust RTC▶
Version▶

```

```

M▶SYS▶Adjust RTC
---Lookup RTC---
'06Y03M31D 10h15m36s
EDIT: Push ENTER

```

- 5) 続けて [ENTER/YES] キーを押します。  
[ENTER/YES] キーを押したときの時刻がホールドされ、任意に編集が可能になります。

```

M▶SYS▶Adjust RTC
---Lookup RTC---
'06Y03M31D 10h15m36s
EDIT: Push ENTER

```

```

M▶SYS▶Adjust RTC
---Adjust RTC---
'06Y03M31D 10h15m38s

```

- 6) [MENU] ダイアルまたは10キーを使って、正しい値を入力します。

[MENU] ダイアルでの入力:

カーソルが点滅している位置でのみ入力できます。カーソル位置は [SKIP/CURSOR |◀◀ ▶▶|] キーで移動します。

10キーでの入力:

カーソル位置で10キーを押すごとに、入力した数字が左へ移動していきます。

例えば、現在ホールドされた日時を “06Y 04M 01D 10h 00m 00s” に変更する場合は、

[0] [6] [0] [4] [0] [1] [1]  
[0] [0] [0] [0] [0] の順で押します。

- 7) 入力後 [ENTER/YES] キーを押します。  
入力した値に設定され、再度リアルタイムに時を刻む画面に変わります。

<注意> : 万一不適当な数字を入力して決定しようとする、下記画面のように “Void data!” を表示して再度入力画面に戻ります。  
正しい日時を入力し直してください。

```

M▶SYS▶Adjust RTC
Void Data!

```

- 8) [STOP/HOME] キーを押して MENU モードから抜け出します。

<リチウム電池の交換について> :

CR500 には、リアルタイム・クロックを駆動するための「リチウム電池」が内蔵されています。

電池の寿命は約5年です。電池の交換は、弊社サービス部門が行ないますので、必ず弊社サービス部門へご依頼ください。

<注意> : CR500 のファイル作成時間はリアルタイム・クロックのデータを元に記録されますが、UDF\* の GMT\* がオフセット “0” に設定されているため、PC等で作成時間を読み込むと、誤差が生じます。

UDF: Universal Disk Format の略。  
GMT: Greenwich Mean Time の略。  
グリニッジ標準時。



## CD-R/RW ディスクの初期フォーマット

### 使用可能なディスクについて：

CR500では、下記マークが付いているCD-Rディスク、またはCD-RWディスクが使用できます。なお、お買い求めの際は下記メーカーのディスクをお選びください。



推奨メーカー： CD-R      Sony、TDK、太陽誘電、RICOH、三菱ケミカル、Maxell  
 CD-RW      Sony、TDK、RICOH、三菱ケミカル

<注意>：CD-RW ディスクはX4～X12倍速、CD-R ディスクはX12倍速以上のディスクをお使いください。

### フォーマット・タイプについて：

CR500では、CD-R/RW ディスクをフォーマットする場合、**BWF (Broadcast Wave Form)**と**CD-DA (Compact Disc Digital Audio)**の2つのフォーマット・タイプを採用し、用途に合わせてフォーマットできます。

**BWF タイプ**：WAV ファイルで記録するとき選択します。

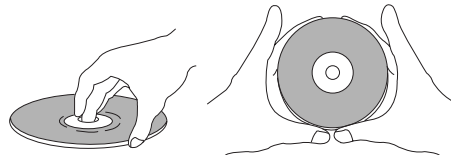
BWFタイプでフォーマットしたCD-R / CD-RWディスクは、ディスクの記録可能な範囲でファイナライズするまで追記録が可能です。また、記録後Close処理したディスクはPC (**Windowsのみ**)で読み込むことが可能です(詳細はこの後20ページを参照)。

**CD-DA タイプ**：オーディオCDを作成するときを選択します。

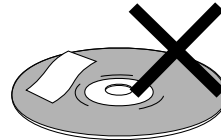
CD-DAタイプでフォーマットしたCD-R / CD-RWディスクは、ディスクの記録可能な範囲でファイナライズ処理するまで追記録が可能です。また、記録後ファイナライズ処理したCD-R/RWディスクはPC (**Windows/Mac OS**)で読み込むことが可能です。なお、ファイナライズしたCD-Rディスクのみは、一般的なCDプレーヤーで再生することが可能です(詳細はこの後20ページを参照)。

### ディスクの取り扱いについて：

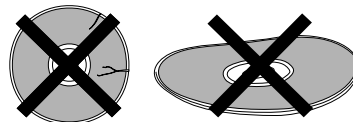
CD-R/RWディスクを持つ場合は、信号面に指紋やホコリ、傷などが付かないよう気を付けてください。ディスクの両端をはさむように持つか、ディスク中央の穴と端を挟んで持ってください。



ディスクのレーベル面に、紙やシールを貼らないでください。特に、レーベル面に傷を付けないでください。傷が付くと記録/再生ができなくなることがあります。また、レーベル面には、市販のフェルト・ペン、またはそれと同等のペン以外は使用しないでください。先の硬いペン(ボールペン、エンピツなど)などは、絶対に使用しないでください。ディスクを破損させてしまいます。



ヒビが入ったり、反っているディスクは、絶対に使用しないでください。ドライブの故障の原因となります。



ディスクにホコリや指紋などの汚れが付いた場合には、柔らかく乾いた布、またはエチルアルコールを含ませた布で、ディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。ディスクの円周方向へは拭かないでください。



ご使用にあたっては、ディスクに付属している説明書を必ずお読みください。

## ディスクの出し入れ

電源投入後、[OPEN/CLOSE] キーを押すとディスク・トレイが前面に出てきます。  
CD-R/RW ディスクをセットした後、再度 [OPEN/CLOSE] キーを押してトレイをクローズします。



<注意> : トレイにディスクをセットするときは、ディスクの表/裏に注意してください。ラベル面を上にしてセットしてください。

本機では、ローディングしたディスクによってつぎの状態で立ち上がります。  
なお、下記記載以外のディスクをローディングした場合は、自動的にイジェクトされます。

### 未フォーマットのCD-R/RW ディスク

本機が未フォーマットのディスクであることを認識し、“Blank Disk” を表示した後、自動的に MENU モードの “DISK UTILITY” メニューにある “Format” へ進みます（次ページを参照）。

### フォーマット済みの未記録 CD-R/RW ディスク

BWF タイプでフォーマット済みのディスクをローディングしたときは、ディスク上の BWF ファイルをスキャンし、BWF ファイルが存在しないことを示す画面で立ち上がります。また、CD-DA タイプでフォーマット済みのディスクをローディングしたときは、再度 “Blank Disk” を表示して、自動的に MENU モードの “DISK UTILITY” メニューにある “Format” へ進みます。

### 記録済みの CD-R/RW ディスク

BWF タイプ（または CD-DA タイプ）でフォーマットされ、オーディオ・ファイル（またはオーディオ・トラック）が既に記録されているディスクをローディングしたときは、一番最初に記録したオーディオ・ファイル（またはオーディオ・トラック）で立ち上がります。なお、MENU モードの “PLAY SETUP” メニューにある “Power On PPlay” が “On” になっているときは、ディスクがセットされている状態で電源を投入して立ち上がると同時に再生を開始します（ 83 ページ）。初期設定は “Off” になっています。

### CD-DA フォーマットのオーディオ CD（市販のオーディオ CD も含む）

本機が Red Book 対応のオーディオ CD であることを認識し、オーディオ CD の 1 曲目（トラック 1）の先頭で立ち上がります。オーディオ CD は再生のみが可能です。ただし、各種 CD コピー防止機能がセットされているオーディオ CD では、再生できない場合もあります。

### ISO9660 フォーマットのディスク

ISO9660 でフォーマットされた記録済みディスク（CD-ROM、CD-R、CD-RW）をローディングしたときは、ディスク上に存在する WAV ファイルが立ち上がり、再生のみが可能です（ 67 ページ）。

なお、記録終了後ディスクを取り出すとき、BWF のディスクでは「クローズ処理」、CD-DA のディスクでは「ファイナライズ処理」を行うか否かを尋ねるメッセージが表示されます。これは、記録後のディスクを PC で取り込んだり、あるいは CD プレーヤーで再生可能にするための処理を示し、用途に応じて実行します（ 46/49 ページ）。

## 初期フォーマットの操作手順

下記操作は、CR500の電源が入り、ドライブにはまだディスクがセットされていない状態を前提にしています。

### <フォーマット後の記録可能な時間とトラック数>

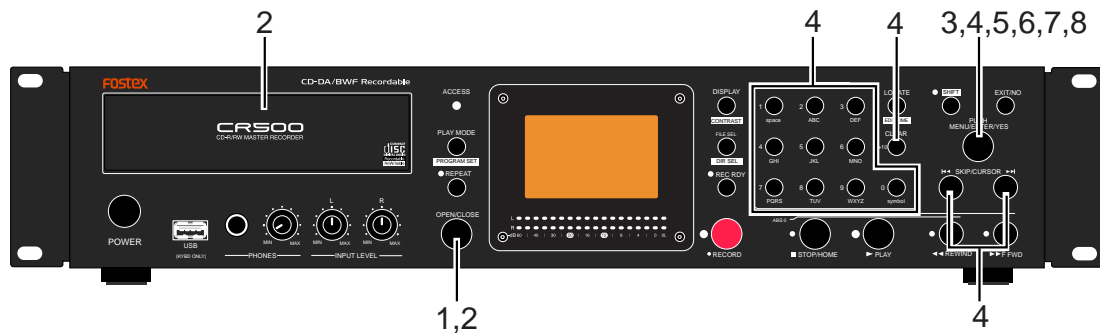
右記表に記載している値は、ディスク容量700MBのCD-R/RWディスクを例として、フォーマット直後におけるおおよその記録可能な時間と、記録可能なトラック数です。

ご使用になるメーカーのディスクによって若干異なりますが、フォーマットする際の目安としてご利用ください。

なお、記録可能な時間と、記録可能なトラック数は、インプットモニター画面に切り替えると確認できます。

フォーマット・タイプ	記録可能な時間	記録可能なトラック数
CD-DA (44.1/16)	約 79 分	最大 99 tracks
BWF (44.1/16)	約 66 分	最大 97 tracks
BWF (44.1/24)	約 44 分	最大 97 tracks
BWF (48/16)	約 61 分	最大 97 tracks
BWF (48/24)	約 40 分	最大 97 tracks
BWF (88.2/24)	約 22 分	最大 97 tracks
BWF (96/24)	約 20 分	最大 97 tracks

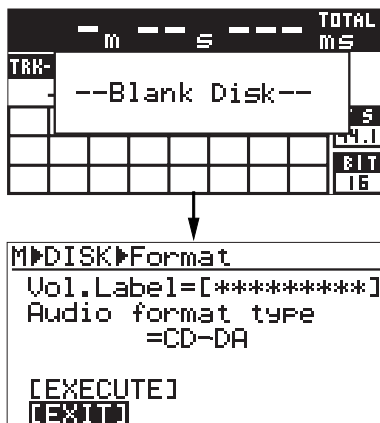
**<注意>**：上記BWFにおける記録可能な時間およびトラック数は、記録を繰り返す以外に、記録後ディスクのクローズ処理(46ページ) およびファイル・システムの再保存(88ページ)を実行する度に減少していきますのでご注意ください。



1) [OPEN/CLOSE] キーを押して、トレイをオープンします。

2) トレイに未フォーマットのCD-R/RWディスクをセットし、[OPEN/CLOSE] キーを押してクローズします。

未フォーマットのディスクがローディングされるとブランク・ディスクであることを認識し、MENUモードの「DISK UTILITY」メニューにある「Format」の実行画面に変わります。



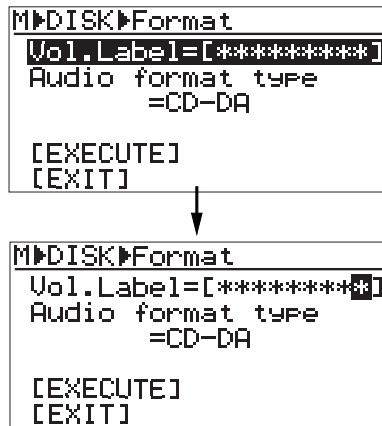
この画面では、ディスクのボリューム・ラベル(=Reelナンバー)とフォーマット・タイプを任意に設定してからフォーマットが実行できます。

ボリューム・ラベルは、BWFでフォーマットしたディスクに記録する際、記録されるオーディオ・ファイルのデフォルト・ファイル・ネームに利用できますので、必要に応じて設定することをお勧めします(75ページ)。編集の必要がない場合は、次の操作を省略してフォーマット・タイプの選択へ進んでください。

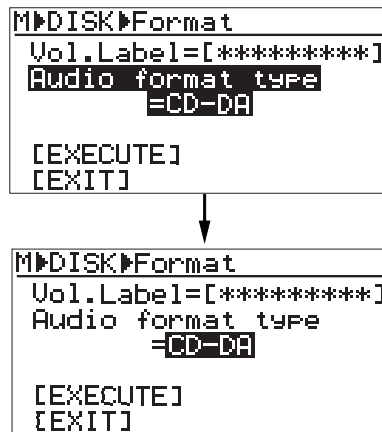
**<注意>**：CD-DAでは、ボリューム・ラベルの設定は無効となり、記録されません。

3) [MENU] ダイヤルでカーソルを一番上の「Vol. Label」へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在表示されているボリューム・ラベルの右端が点滅し、編集が可能になります。



- 4) 10 キー、または [MENU] ダイアルでボリューム・ラベルを編集します。  
カーソルが点滅している箇所まで文字 / 数字などが入力でき、[SKIP/CURSOR |◀▶|] キーでカーソルの位置が移動できます。また、[CLEAR/+10] キーを押すとカーソル位置の文字 / 記号などがクリアできます。
- 5) 入力終了後、[ENTER/YES] キーを押してボリューム・ラベルを決定します。
- 6) [MENU] ダイアルでカーソルを “ Audio format type ” へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在表示されているフォーマット・タイプが点滅して、選択可能になります（初期設定では “ CD-DA ” が点滅します）。

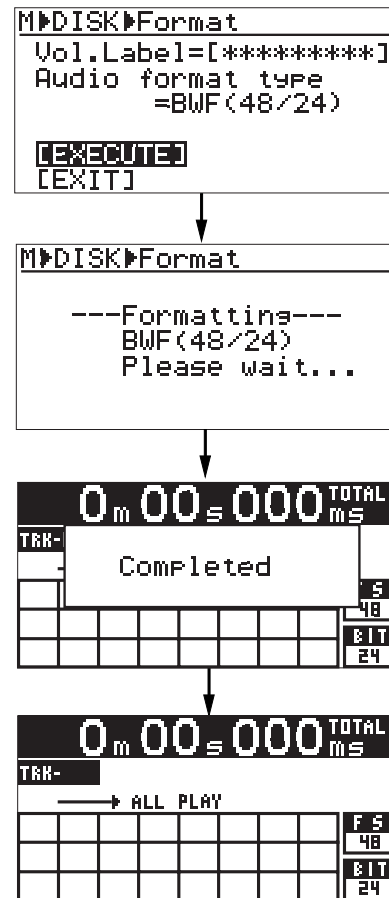


フォーマット・タイプは、初期設定の “ CD-DA ” 以外に下記 “ BWF ” タイプが選択可能です。オーディオCDを作成するには “ CD-DA ” を選択し、WAV ファイルを記録するには “ BWF (\*\*/\*\*) ” のいずれかを選択します。

CD-DA: 44.1kHz/16Bit (初期設定)
BWF (44.1/16): 44.1kHz/16Bit
BWF (44.1/24): 44.1kHz/24Bit
BWF (48/16): 48kHz/16Bit
BWF (48/24): 48kHz/24Bit
BWF (88.2/24): 88.2kHz/24Bit
BWF (96/24): 96kHz/24Bit

- 7) [MENU] ダイアルで希望のフォーマット・タイプを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
- 8) 続いて、[MENU] ダイアルでカーソルを “ [EXECUTE] ” へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します（フォーマットを中止するには “ [EXIT] ” を選択します）。フォーマットが開始され、実行中の画面に変わります。下記画面は、 “ BWF (48/24) ” でフォーマットしている例です。

フォーマットが終了すると “ Completed ” が点灯した後、MENU モードから抜け出して Home 画面に変わります。



フォーマット直後の Home 画面は未記録の状態を示し、トラック表示部はすべて空白になっています。また、ステータス表示部にはフォーマット時に選択したFSとBIT情報が点灯します。

CD-R/RW ディスクの初期フォーマットが済んだら、CR500で記録を始めることができます。39ページからの「第5章 記録」を参照してください。

<注意> : フォーマット済みのディスクを再フォーマットするには、後述 MENU モードの “ DISK UTILITY ” メニューにある “ Format ” を参照してください（ 86 ページ ）。

<注意>：“CD-DA”タイプでのフォーマットは瞬時に行われ、“Completed”が点灯した後、下記 Home 画面に変わります。

```

M>DISK>Format
Vol.Label=[*****]
Audio format type
=CD-DA
[EXECUTE]
[EXIT]
    
```

```

0m 00s 000 TOTAL
ms
TRK-
Completed
S
44.1
BIT
CDDA
    
```

```

0m 00s 000 TOTAL
ms
TRK-
-> ALL PLAY
FS
44.1
BIT
CDDA
    
```

```

FS
44.1
BIT
CDDA
    
```

<注意>：“CD-DA”タイプでフォーマットしたディスクに何も記録しないままイジェクトしたり、ディスクの入ったまま電源を入れ直した場合は、再度“Blank Disk”を表示した後フォーマットの実行画面に変わります。

“CD-DA”タイプでフォーマットしたディスクは、フォーマット後記録を行うことで、ファイナライズするまでCD-DAでの追記録が可能になります。

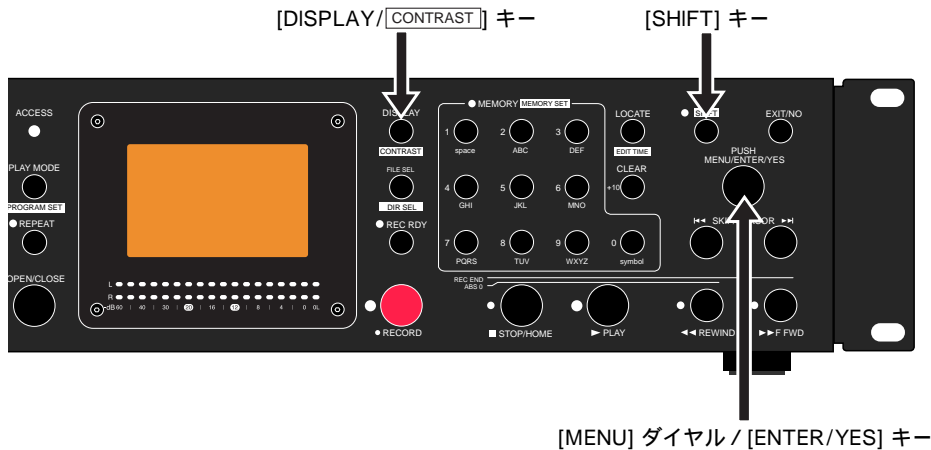
下記表は、CD-RまたはCD-RWディスクのフォーマット・タイプによって、記録可能なFS/BITや追記録の可・否、記録済みディスクの再フォーマット、PCへの取り込み、さらにはCDプレーヤーで再生などの可・否についてまとめてあります。

フォーマット・タイプ			
BWF		CD-DA	
使用するディスク			
CD-R	CD-RW	CD-R	CD-RW
記録可能なFS/BIT			
フォーマット時選択 44.1kHz/16Bit or 24Bit 48kHz/16Bit or 24Bit 88.2kHz/24Bit 96kHz/24Bit	フォーマット時選択 44.1kHz/16Bit or 24Bit 48kHz/16Bit or 24Bit 88.2kHz/24Bit 96kHz/24Bit	44.1kHz/16Bit 固定	44.1kHz/16Bit 固定
追 記 録			
ファイナライズを実行するまで、追記録が可能。	ファイナライズを実行するまで、追記録が可能。	ファイナライズを実行するまで、追記録が可能。	ファイナライズを実行するまで、追記録が可能。
記録済みディスクの再フォーマット			
不 可	可 能	不 可	可 能
ファイル・ネームの編集 / ファイルの削除 / ファイルの復活			
ファイナライズを実行するまで可能 編集後はファイル・システムの再保存が必要 <b>&lt;注意&gt; : ディスクの記録可能な領域がなくなった場合は不可。</b>	ファイナライズを実行するまで可能 編集後はファイル・システムの再保存が必要 <b>&lt;注意&gt; : ディスクの記録可能な領域がなくなった場合は不可。</b>	不 可	不 可
PC への取り込み			
クローズ処理、またはファイナライズしたディスクのみ取り込み可能。	クローズ処理、またはファイナライズしたディスクのみ取り込み可能。	ファイナライズ処理したディスクのみ取り込み可能。	ファイナライズ処理したディスクのみ取り込み可能。
* Windows のみ取り込みが可能		* Windows / Mac OS で取り込みが可能	
一般的な CD プレーヤーでの再生			
再生不可	再生不可	ファイナライズ処理したディスクのみ再生可能。	再生不可

**<再フォーマット時のご注意>** : PCなど他の機器で記録済みのCD-RWディスクを本機で再フォーマットすることは、極力お止めください。他の機器で記録したCD-RWディスクを本機で再フォーマットしても、完全にデータが消去されないことがあります。MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Format”での再フォーマットは、同一のCR500で記録したCD-RWディスクをフォーマットするようにしてください。

## ディスプレイのコントラスト調整

本機 LCD ディスプレイのコントラストは、工場出荷時に最適なレベルに調整してあります。電源投入後、好みのコントラストに調整するには、下記操作手順で行うことができます。



- 1) 本機が停止している状態で、[SHIFT] キーを押してShiftモードをONにした後、[DISP/CONTRAST] キーを押します。  
Home 画面上に下記ポップアップ表示が現れ、コントラストの調整が可能になります。



- 2) 上記画面が表示されている状態で、[MENU] ダイアルを回してコントラストを調整します。  
ダイアルを時計方向へ回すとコントラストが弱くなり、反時計方向へ回すと強くなります。



<コントラスト弱>



<コントラスト強>

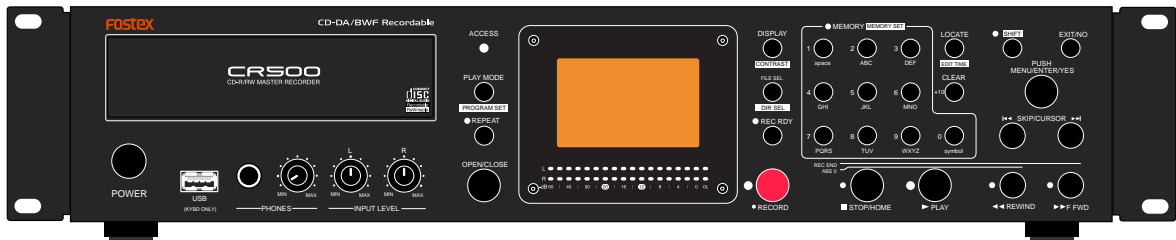
- 3) 好みのコントラストを調整した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。  
コントラストが決定すると同時に、調整モードから抜け出しポップアップ表示も消えます。

**<注意>**：設定したコントラストは電源をオフしても保持されますが、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Sys Initial Memories”、または“Sys Default Set”を実行した後電源を入れ直すと、設定は工場出荷時のコントラスト・レベルに初期化されます（80ページ）。

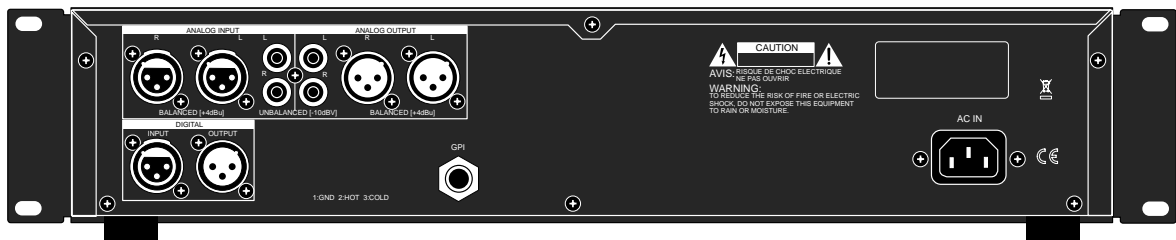


# 第3章 各部の名称と機能

## フロント・パネル



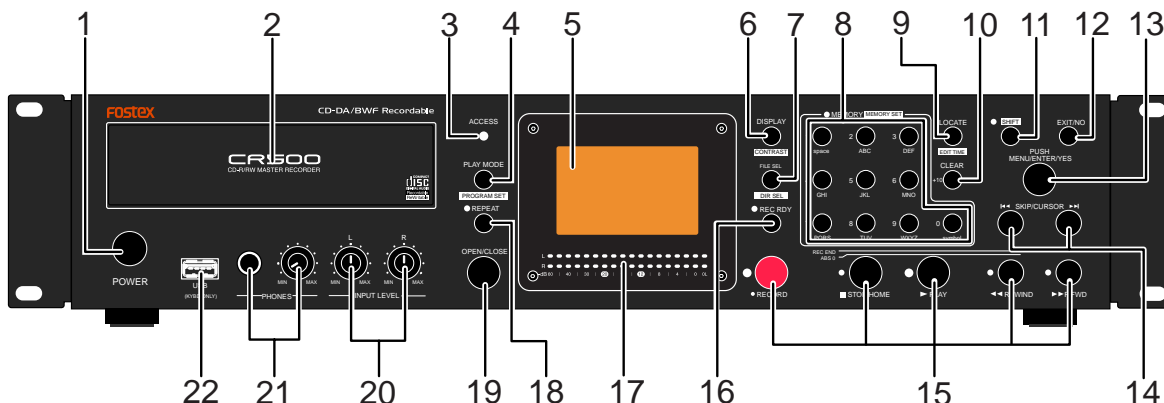
## リア・パネル



## 目次

フロントパネル部.....	24
リアパネル部.....	29
ディスプレイの詳細.....	30
Home画面( REC READY: OFF ).....	30
インプットモニター画面( REC READY: ON ).....	32
MENUモード画面.....	34

## フロント・パネル部



**Non-Shift モードと Shift モード :**  
 本文中に記載されている“ Non-Shift モード ”と“ Shift モード ”は、本機がそれぞれ下記の状態にあることを表しています。

Non-Shift モード : 操作パネルにある“ SHIFT インジケータ ”が消灯している状態で、本機が立ち上がったときは、常に“ Non-Shift モード ”になっています。

Shift モード : 操作パネルにある“ SHIFT インジケータ ”が消灯している状態で [SHIFT] キーを押すと、インジケータが点灯して Shift モードに入ります。この状態で Shift 機能を兼備したキーを押すことで、本機が Shift モードで機能します。Shift 機能を兼備したキーとは、パネル面の白枠で表示されているキーを指しています。

**オーディオ・ファイルとオーディオ・トラック :**  
 本書では、BWFのフォーマット・タイプでフォーマットしたディスクに記録されるオーディオ・データを「オーディオ・ファイル」と呼び、CD-DAのフォーマット・タイプでフォーマットしたディスクに記録されるオーディオ・データを「オーディオ・トラック」と呼んでいます。

1. **電源スイッチ [POWER]**  
本機の主電源をオン / オフします。
2. **ディスク・トレイ**  
CD-R/RW ディスクをセットします。  
トレイの開閉は [OPEN/CLOSE] キーで操作します。  
手でトレイ前面を軽く押してもトレイを閉めることができます。
3. **[ACCESS] インジケータ**  
CD-R/RW ドライブの動作状態を表示します。

消 灯	ドライブにディスクが入っていない。
緑色の点灯	ディスクが停止中。
橙色の点滅	ディスクを再生中。
赤色の点滅	ディスクへ記録中。

4. **[PLAY MODE/PROGRAM SET] キー**

Non-ShiftモードまたはShiftモードにおいて、以下の機能を果たします。

<p><b>Non-Shift モード</b></p>	<p>停止中にキーを押していくと、プレイ・モードが下記順に切り替ります ( 54 ページ )</p> <p>“ ALL PLAY ” “ SINGLE PLAY ” “ PROGRAM PLAY ” “ MEMORY PLAY ” “ ALL PLAY ”</p> <p><b>注意：“ PROGRAM PLAY ” 表示は、プレイ・リストが設定されているときのみ表示されます。</b></p>
<p><b>Shift モード</b></p>	<p>Shift モードでこのキーを押すとプログラムのセット・モードに入り、プログラム・プレイに必要なプレイ・リストの登録や、変更ができます ( 57 ページ )</p>

5. **LCD ディスプレイ**

132 x 64 ドットの LCD を採用し、ファイル情報や各種設定情報を表示します ( 30 ページ )

6. **[DISPLAY/CONTRAST] キー**

Non-ShiftモードまたはShiftモードにおいて、以下の機能を果たします。

<p><b>Non-Shift モード</b></p>	<p>再生または停止中、キーを押すごとにタイム表示部を以下の順で切り換えます ( 30 ページ )</p> <p>TOTAL 時間 TRACK 時間 TOTAL 時間の再生残時間 TRACK 時間の再生残時間 TOTAL 時間</p>
<p><b>Shift モード</b></p>	<p>Shift モードでこのキーを押すと、ディスプレイのコントラストを調整するモードへ入ります。[MENU] ダイアルでコントラストを調整し、[ENTER/YES] キーを押して決定します ( 22 ページ )</p>

7. **[FILE SEL/DIR SEL] キー**

Non-ShiftモードまたはShiftモードにおいて、以下の機能を果たします。

<p><b>Non-Shift モード</b></p>	<p>キーを押すと、再生するオーディオ・ファイル (またはオーディオ・トラック) のセレクト・モードへ入ります ( 51 ページ )</p>
<p><b>Shift モード</b></p>	<p>Shift モードでこのキーを押すと、ディレクトリをセレクトするモードへ入ります ( 67 ページ )</p> <p><b>&lt;注意&gt;</b> : ディレクトリの選択モードは、BWF フォーマットのディスクがロードされているときのみ有効で、CD-DA フォーマットのディスクがロードされているときは機能しません。</p>

[STOP/HOME] キー (または [EXIT/NO] キー) を押すと、各モードから抜け出すことができます。

8. **[MEMORY/**MEMORY SET**]** キー

Non-ShiftモードまたはShiftモードにおいて、以下の機能を果たします。

Non-Shift モード	<p>現在設定されているプレイ・モードによって、以下のように機能します。</p> <p><b>“ ALL PLAY ”、“ SINGLE PLAY ”または“ PROGRAM PLAY ” 設定時</b>                  押したキー番号のオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)がダイレクトに選曲できます。</p> <p><b>“ MEMORY PLAY ” 設定時</b>                  押したキーに登録されているオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)の、インスタント・スタートを開始します。</p>
Shift モード	<p>プレイ・モードが“ MEMORY PLAY ”になっているときのみ機能します。</p> <p>Shift モードでいずれかの [MEMORY] キーを押すと、キーと同じメモリー・ナンバーに任意のオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)に登録したり編集するための、メモリーセット・モードへ入ります ( 62 ページ )</p>

また、MENUモードでは10キーとして機能し、文字/数字が入力できます。

9. **[LOCATE/**EDIT TIME**]** キー

Non-ShiftモードまたはShiftモードにおいて、以下の機能を果たします。

Non-Shift モード	<p>[LOCATE/</p> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">EDIT TIME</span> <p>] キーで一番最後にロケートした位置へ、再度ロケートします ( 70 ページ )</p>
Shift モード	<p>Shift モードでこのキーを押すと、現在時間のタイムエディット・モードに入ります ( 70 ページ )。任意の時間にエディットした後このキーを押すと、エディットした時間へロケートします。エディット・モードから抜け出すには、[STOP/HOME] キー (または [EXIT/NO] キー) を押します。</p>

10. **[CLEAR/+10]** キー

10以上のオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)を選曲するとき、このキーを押した後 [MEMORY] キーの0~9を押します ( 50/68 ページ )。例として、曲番号15を選曲するには、[CLEAR/+10] キーを一度押した後 [5/JKL] キーを押します。また、MENUモードの“ DISK UTILITY ”メニューにある“ Edit File Name ”では、カーソル位置の文字/記号などをクリアすることができます ( 89 ページ )。

11. **[**SHIFT**]** キー

ShiftモードをON/OFFします。  
 ShiftモードをON(インジケータが点灯)にしてShift機能を持ったキーを押すと、Shift機能の動作が行なえます (Shift機能名は、該当するキーの下または横に白枠で表示しています)。

**12. [EXIT/NO] キー**

[ENTER/YES] キーに相対するキーで、設定 / 実行などをキャンセルするときに押します。また、MENUモードのセットアップ・メニューにあるときは、キーを押すごとに一つ前の階層へ戻り、最終的にはMENUモードから抜け出します。

**13. [MENU] ダイアル / [ENTER/YES] キー**

設定項目を選択する [MENU] ダイアル機能と、選択した項目を決定する [ENTER/YES] キーの機能を兼備しています。

[ENTER/YES] キーを押すとMENUモードへ入り、[MENU] ダイアルで希望のメニューが選択できます。また、数値 / 文字などの入力時では、10 キーと同様数値 / 文字の入力が可能です。

**14. [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キー**

オーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)のスキップを実行します( 50/69 ページ )

また、MENUモードなどにおける文字 / 数値の入力時では、カーソルの移動ができます。

**15. トランスポート操作キー****▶▶▶▶ PLAY] キー**

現在立ち上がっているオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)を再生します。

[STOP/HOME] キーを押しながらこのキーを押すと、デジタル・スクラブが可能になります。

**■ STOP/HOME] キー**

記録 / 再生時など、ドライブの走行を停止します。

このキーを押しながら [PLAY] キーを押すと、デジタル・スクラブが可能になります。

各種エディット・モードやMENUモードから抜け出します。

このキーを押しながら [F FWD] キー(または [REWIND] キー)を押すと、以下の動作を実行します。

[STOP/HOME] + [F FWD]	現在セットされている記録済みディスクの、最終記録位置( REC END )へロケートします( LOCATE REC END )。
[STOP/HOME] + [REWIND]	現在セットされている記録済みディスクの、先頭( ABS 0 )へロケートします( LOCATE ABS 0 )。

**▶▶▶▶ F FWD] キー**

停止状態でこのキーを押すと、最大30倍速でのファースト・フォワードを実行します。

再生時にこのキーを押すと、フォワード方向のCUE再生(キューイング)を実行します。

停止状態で [STOP/HOME] キーを押しながらこのキーを押すと、LOCATE REC END を実行します。

**[◀◀◀◀ REWIND] キー**

停止状態でこのキーを押すと、最大30倍速でのファースト・リワインドを実行します。

再生時にこのキーを押すと、リワインド方向のCUE再生(キューイング)を実行します。

停止状態で [STOP/HOME] キーを押しながらこのキーを押すと、LOCATE ABS 0 を実行します。

**【● RECORD】キー**

REC RDY (Record Ready)をONにしてこのキーを押すと、新たなオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)を自動的に作成して、記録を開始します。

**16. 【REC RDY (Record Ready)】キー**

REC READY のON/OFF を切り換えます。REC READY をONにすると入力モニターとなり、録音レベルの調整など記録の準備が行なえます( 32/42/47 ページ)。

REC READY がON のとき “ REC RDY インジケータ ” が点滅し、記録開始と同時に点灯に変わります。

**17. レベル・メーター**

記録 / 再生レベルを表示します。

本機の基準入力レベルは初期設定で “ -12dB ” になっており、用途に応じてMENUモードの “ SYS SETUP ” メニューにある “ Ref. Level ” で、 “ -20dB ” に切り換えが可能です( 78 ページ)。

**18. 【REPEAT】キー**

リピート・モードのON/OFF を切り換えます。

リピート・モードをONにするとインジケータが点灯し、現在設定されている「プレイ・モード」の動作を、[STOP/HOME] キーを押して停止させるまで繰り返します。

**<注意> : プレイ・モードが “ MEMORY PLAY ” 設定時では、リピートは機能しません。**

**19. 【OPEN/CLOSE】キー**

ディスク・トレイをオープン / クローズするとき押します。

なお、トレイ前面を手で軽く押しても、クローズできます。

**20. 【INPUT LEVEL】つまみ**

アナログ・オーディオ信号を記録するときの、入力レベル ( L / R ) を調整します( 42 ページ)。

**21. 【PHONES】つまみ / 【PHONES】ジャック**

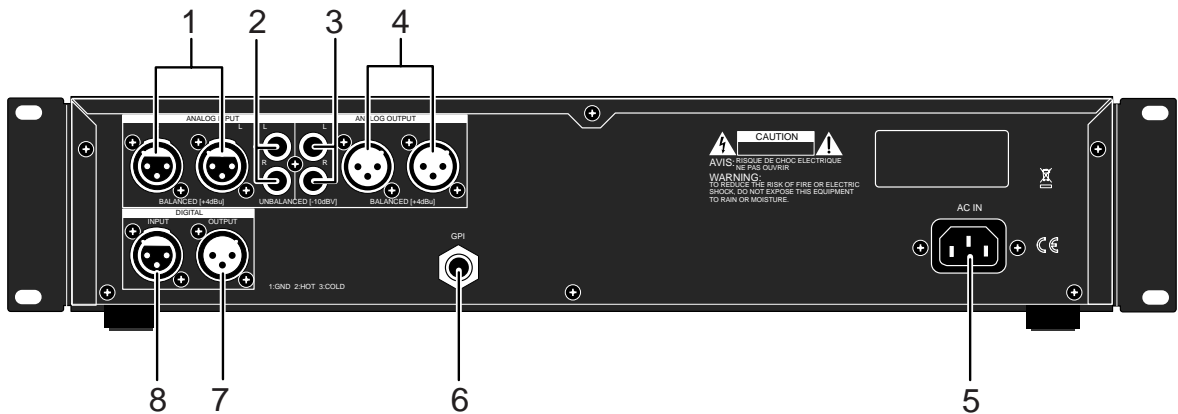
モニター用のヘッドホンを接続し、モニター音量を調整します。

**22. 【USB (KYBD ONLY)】ポート**

USB キーボード、または10キーボードを接続し、ファイル・ネームの入力や本機の動作をコントロールします( 37 ページ)。

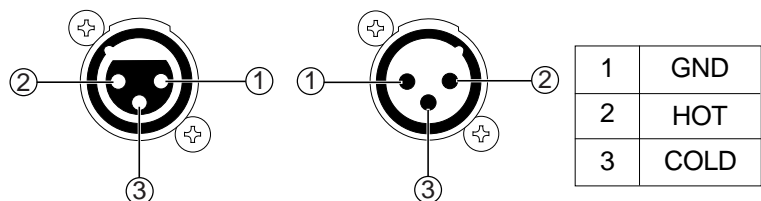
接続するUSBキーボードのタイプ ( JAPAN または US ) によって、MENUモードの “ SYS SETUP ” メニューにある “ Keyboard Sel ” で、設定を切り換えます( 78 ページ) 。初期設定は “ US ” になっています。

## リア・パネル部



1. **[ANALOG INPUT] コネクタ (XLR-3-31 タイプ/バランス)**  
 基準入力レベル+4dBuのアナログ・オーディオ信号を入力します。  
 RCAジャックにプラグが接続されるとアンバランス入力端子が優先となり、バランス入力コネクタはカットされます ( 36 ページ )
2. **[ANALOG INPUT] ジャック (RCA タイプ/アンバランス)**  
 基準入力レベル-10dBVのアナログ・オーディオ信号を入力します  
 ( 36 ページ )
3. **[ANALOG OUTPUT] ジャック (RCA タイプ/アンバランス)**  
 基準出力レベル-10dBVのアナログ・オーディオ信号を出力します  
 ( 36 ページ )
4. **[ANALOG OUTPUT] コネクタ (XLR-3-32 タイプ/バランス)**  
 基準出力レベル+4dBuのアナログ・オーディオ信号を出力します  
 ( 36 ページ )
5. **[AC IN] コネクタ**  
 付属の AC ケーブルを接続します ( 14 ページ )
6. **[GPI] ジャック**  
 フェーダー・スタート機能を装備したミキサーなどと接続し、ミキサーからのプレイ/ストップ動作をコントロールします ( 36 ページ )
7. **[DIGITAL OUTPUT] コネクタ (XLR-3-32 タイプ/バランス)**  
 AES/EBUまたはS/P DIFフォーマットのデジタル・オーディオ信号を出力します ( 36 ページ )。デジタル出力信号のフォーマット ( AES/EBUまたはS/P DIF ) は、MENU モードで設定します ( 77 ページ )
8. **[DIGITAL INPUT] コネクタ (XLR-3-31 タイプ/バランス)**  
 AES/EBUまたはS/P DIFフォーマットのデジタル・オーディオ信号を入力します。デジタル入力信号のフォーマット ( AES/EBUまたはS/P DIF ) は自動選択になります ( 36 ページ )

### < XLR コネクタのピンアサイン >

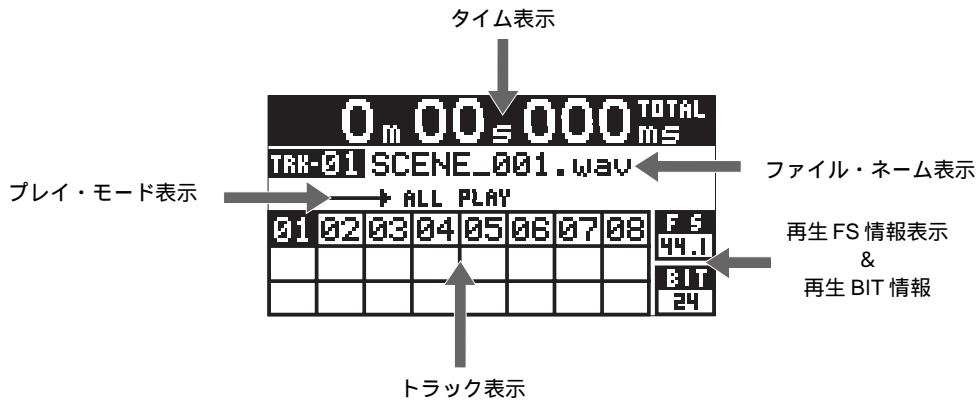




## ディスプレイ部の詳細

### Home 画面 (REC READY が OFF の状態)

下記図は、記録済みのCD-R/RWディスクがロードされ、停止または再生中に表示する画面で、本書ではこの画面を「Home 画面」と呼んでいます。このHome画面には、タイム情報やファイル・ネームなどオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)の情報を表示します。



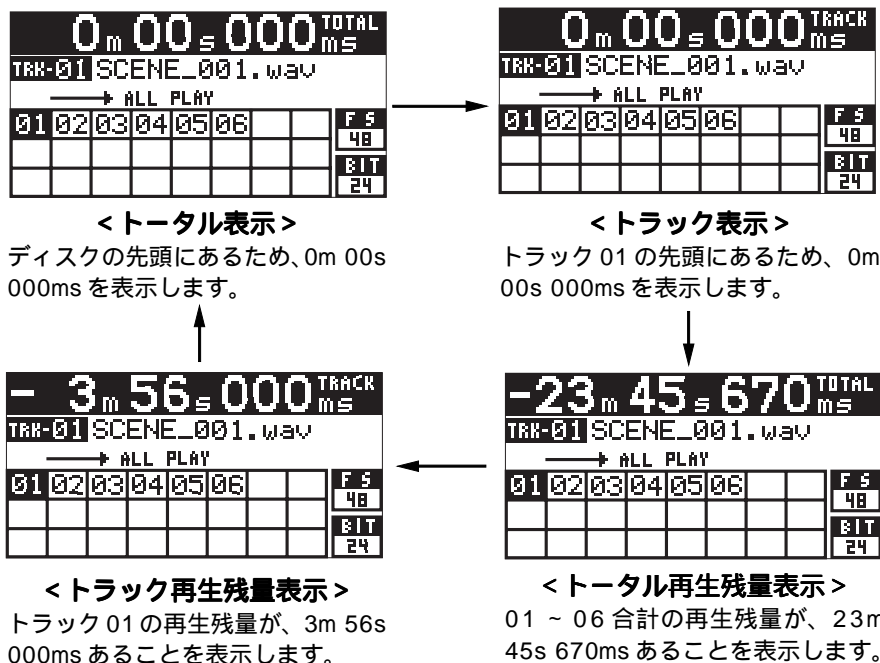
#### タイム表示

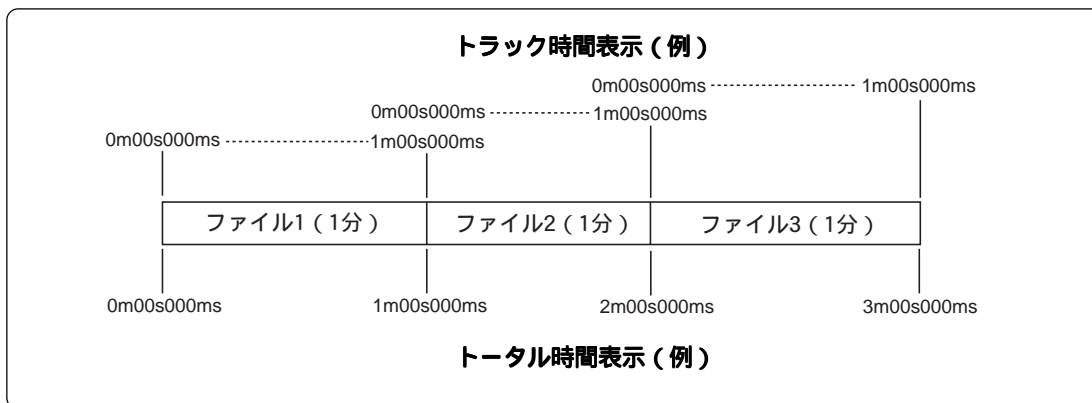
停止 / 再生中の現在位置を、時間 (m / s / ms) で表示します。初期設定ではディスクに記録されている全ファイル (全トラック) のトータル時間を表示します (画面上部に "TOTAL" が点灯)。

このタイム表示は、[DISPLAY/[CONTRAST]] キーで「トータル時間」「トラック時間」「トータル再生残量時間」「トラック再生残量時間」の順に切り換えができます (注意: 記録中は「トータル再生残量時間」と「トラック再生残量時間」は表示しません)。再生時間残量に切り換えたときは、時間表示がマイナス (-) 表示になります (下記図参照)。

また、再生中や FF/REWIND 動作中は、動作を示すアイコン ("▶"、"●"、"■" または "◀◀" / "▶▶" など) も点灯します。

下記画面は、現在ディスクの先頭にあることを前提に、「トータル表示」「トラック時間」「トータル再生残量時間」「トラック再生残量時間」の順にディスプレイ表示を切り換えた例です。





### ファイル・ネーム表示

現在選択されているオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)の、トラック・ナンバーとファイル・ネームを表示します。

#### オーディオ・ファイル (WAVファイル) の場合 :

記録時に、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Default File Name”の設定に準じたファイル・ネームが表示され、“DATE 情報”、“Scene Name + Take Number”あるいは“Reel Number + File Number”を表示します ( 75 ページ )

#### オーディオ・トラック (CD-DA) の場合 :

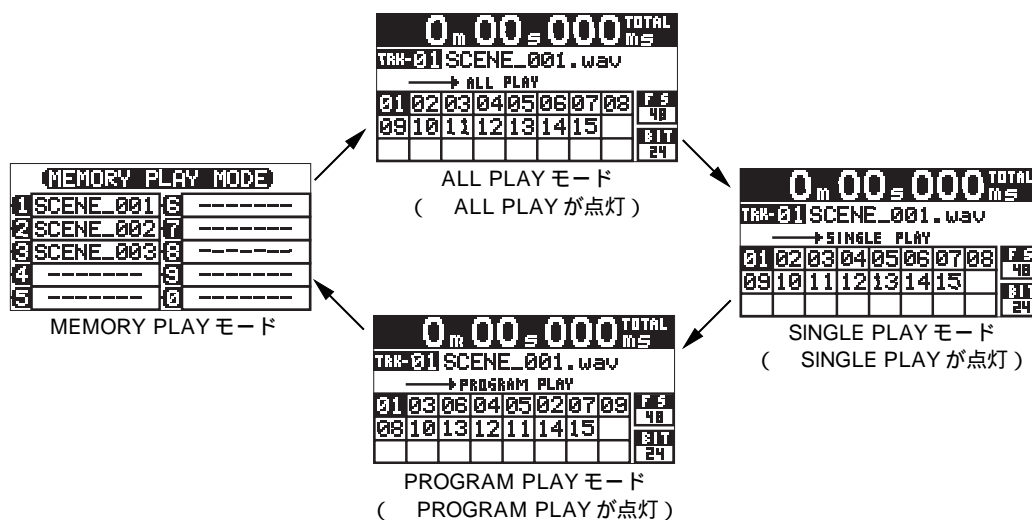
CD-TEXTによってファイル・ネームが書かれているときはそのファイル・ネームを表示し、CD-TEXTによって何も書かれていない場合は、トラック・ナンバーのみでファイル・ネームは空白となります。

### プレイ・モード表示

現在選択されているプレイ・モード名を表示します ( MEMORY PLAY のみ表示が異なります )。

プレイ・モードは、[PLAY MODE/PROGRAM SET] キーを押すことで“ ALL PLAY ” “ SINGLE PLAY ” “ PROGRAM PLAY ” “ MEMORY PLAY ” “ ALL PLAY ” の順で切り換えができます ( 初期設定 : “ ALL PLAY ” )。なお、プレイ・モードの切り換えは、MENUモードの“PLAY SETUP”メニューにある“Play Mode”でも実行できます ( 83 ページ )

**< 注意 >** : “ PROGRAM PLAY ” モードの画面は、再生するファイルがプレイ・リストに設定されていないときは表示できません (“ No Play List ” が点灯します )  
 また、“ MEMORY PLAY ” モードの画面は、何もメモリーに登録されていないときは [1] ~ [0] 全てが “ - - - - - ” を表示し、[MEMORY] インジケータが速い点滅になります。



### オーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)表示

記録済みのオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)の番号を表示し、白黒反転になっている番号が現在再生できることを表しています(何も記録されていないディスクでは、すべて空白になります)。

プレイ・モードが“ALL PLAY”または“SINGLE PLAY”に設定されているときは、左上から右へ記録順に、最大24まで表示します(24以上記録されていても選曲は可能です)。

01	02	03	04	05	06	07	08
09	10	11	12	13	14	15	

プレイ・モードが“PROGRAM PLAY”に設定されているときは、プレイ・リストに登録された順に表示し、最大24まで表示します(24以上登録されていても再生は可能です)。

04	12	03	02	05	14	07	08
09	10	11	06	13	15	01	

### 再生FS情報/再生BIT情報表示

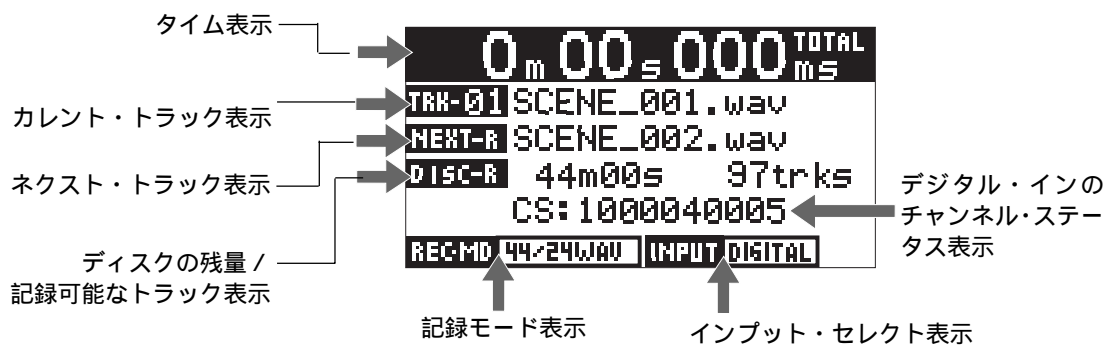
再生するファイルのFS情報とBIT情報を表示し、CD-DAまたはWAVファイルによって以下のように表示します。

CD-DA (FS44.1/BIT CDDA を表示)	WAVファイル (下記例のようなFS/BIT を表示)																				
<table border="1"> <tr><td>FS</td></tr> <tr><td>44.1</td></tr> <tr><td>BIT</td></tr> <tr><td>CDDA</td></tr> </table>	FS	44.1	BIT	CDDA	<table border="1"> <tr> <td>FS</td><td>FS</td><td>FS</td><td>FS</td> </tr> <tr> <td>44.1</td><td>48</td><td>88.2</td><td>96</td> </tr> <tr> <td>BIT</td><td>BIT</td><td>BIT</td><td>BIT</td> </tr> <tr> <td>24</td><td>16</td><td>24</td><td>24</td> </tr> </table>	FS	FS	FS	FS	44.1	48	88.2	96	BIT	BIT	BIT	BIT	24	16	24	24
FS																					
44.1																					
BIT																					
CDDA																					
FS	FS	FS	FS																		
44.1	48	88.2	96																		
BIT	BIT	BIT	BIT																		
24	16	24	24																		

## インプットモニター画面 (REC READY がONの状態)

下記図は、未記録または追記録可能なディスクがロードされ、Home画面を表示している状態で[REC RDY]キーをオン(LED点灯)にしたときの画面です。

これは、本機がインプット・モニターになっている状態を示し、記録スタンバイまたは記録中に表示されます。アナログ・オーディオ信号を記録するとき入力レベルの調整が可能になります。インプット・モニター画面では、以下の情報を表示します。



### タイム表示

記録中の現在位置を、時間(m/s/ms)で表示します。初期設定ではディスクに記録されている全ファイル(=トラック)のトータル時間を表示します(画面上部に“TOTAL”が点灯)。

### カレント・トラック表示

現在セレクトされているファイル(またはトラック)のトラック・ナンバーを表示し、WAVファイルの記録時にはファイル・ネームも表示します(未記録ディスクのインプット・モニターでは、トラック・ナンバーのみを表示)。CD-DAの記録時にはトラック・ナンバーのみを表示します。

### ネクスト・トラック表示

WAVファイルの記録時、次に記録するオーディオ・ファイルの、ファイル・ネームを表示します。CD-DAの記録時には、次に記録されるトラック・ナンバーのみを表示します。

### ディスクの残量/記録可能なトラック表示

設定されている記録FS/BITモードで記録可能なディスクの残量と、記録可能なトラック数を表示します。

### 記録モード表示

現在ロードされているディスクの記録FS/BITと記録フォーマットを表示します。この表示は、ディスクをフォーマットするときの「フォーマット・タイプ」に準じていて、以下のように表示します。

CD-DAのディスク	BWFのディスク(下記例のようなFS/BIT WAVを表示)
REC MD 44/16 CD-DA	REC MD 44/16 WAV      REC MD 48/24 WAV REC MD 88/24 WAV      REC MD 96/24 WAV

### インプット・セレクト表示

現在設定されているインプット・セレクト(AnalogまたはDigital)状態を表示します。インプット・セレクト表示は、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Select Input”の設定によって変わります(76ページ)。

INPUT ANALOG	“Select Input”が“Analog”(初期設定)に設定されているとき表示します。リアパネル[ANALOG INPUT]端子からの、アナログ・オーディオ信号が記録可能な状態を示しています。
INPUT DIGITAL	“Select Input”が“Digital”に設定されているとき表示します。リアパネル[DIGITAL INPUT]端子からの、デジタル・オーディオ信号が、記録可能な状態を示しています。“DIGITAL”が点滅するときは、ミュート状態になります。

### デジタル・インのチャンネル・ステータス表示

インプット・セレクトが“Digital”設定され、正しいデジタル信号が入力されているとき、入力されているデジタル信号の「チャンネル・ステータス」を表示します。

0 m 00 s 000	TOTAL MS
TRK-01 SCENE_001.wav	
NEXT-R SCENE_002.wav	
DISC-R 44m00s 97trks	
CS:1000040005	
REC MD 44/24WAV	INPUT DIGITAL

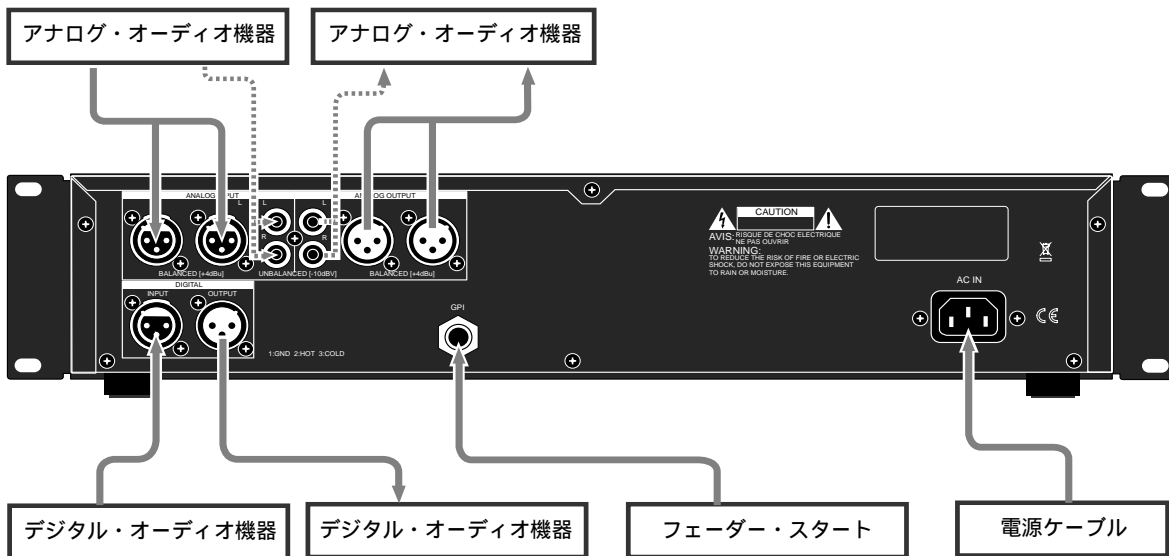
右から16進でByte0, 1, 2, 3, 4のL CHデータを表示しています。



## 第4章 接 続

ここでは、CR500の入出力端子に接続するアナログ・オーディオ機器やデジタル・オーディオ機器の接続に関する情報、さらにはUSBキーボード / 10キーボードを接続して機能する各キーボードの役目などについて記載しています。

## 外部機器の接続



### アナログ・オーディオ信号の接続 (バランス / アンバランス)

本機の [ANALOG INPUT] 端子には、バランス入力端子 (XLR-3-31 タイプ) とアンバランス入力端子 (RCA ジャック) が装備されており、バランス出力端子またはアンバランス出力端子を搭載した機器が接続できます。バランス入力端子には基準入力 “+4dBu” のアナログ・オーディオ信号が入力でき、アンバランス入力端子には基準入力 “-10dBV” のアナログ・オーディオ信号が入力できます。

バランスまたはアンバランスの [ANALOG INPUT] 端子を使用して記録するときは、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Select Input” を “Analog” に設定して使用します ( 76 ページ )。 “Select Input” は初期設定で “Analog” になっていますが、“Digital” に設定されている場合には、変更が必要です。

[ANALOG OUTPUT] 端子にもバランス出力端子 (XLR-3-32 タイプ) とアンバランス出力端子 (RCA ジャック) を装備し、基準出力レベル “+4dBu” または “-10dBV” のアナログ・オーディオ信号が出力できます。

<注意> : [ANALOG INPUT] 端子は、バランス (XLR) / アンバランス (RCA) 同時に接続した場合、アンバランス (RCA) 優先となり、XLR コネクタは機能しなくなります。

### デジタル・オーディオ信号の接続 (AES/EBU、S/P DIF)

本機の [DIGITAL INPUT] 端子は XLR-3-31 タイプのコネクタを搭載し、IEC 60958 (AES/EBU) フォーマットと、IEC 60958 (S/P DIF) フォーマットに準拠した、デジタル・オーディオデータを受け付けます。デジタル入力のフォーマット (AES/EBU または S/P DIF) は自動認識し、入力信号の FS/BIT 情報に関係なくディスクのフォーマット時に設定する FS/BIT で記録されます。

[DIGITAL INPUT] 端子を使用して記録するときは、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Select Input” を “Digital” に設定して使用します ( 76 ページ )。

[DIGITAL OUTPUT] は XLR-3-32 タイプのコネクタを搭載し、入力同様 IEC 60958 (AES/EBU) フォーマットと IEC 60958 (S/P DIF) フォーマットに準拠した、デジタル・オーディオ信号が出力できます。出力するデジタル信号のフォーマット (AES/EBU または S/P DIF) は、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Digital Out” で、用途に合わせて設定します ( 77 ページ )。 “Digital Out” の初期設定は “AES/EBU” になっています。

**<注意>**： デジタル・オーディオ信号の記録時、正しいデジタル信号が [DIGITAL INPUT] 端子に入力されるとPLL (Phase-locked lock) がオンになり、本機の REC READY をONにすることで入力同期信号にロックします。本機が入力同期信号にロックした場合は、Home ディスプレイ下の“DIGITAL”が点滅から点灯に変わります。“DIGITAL”が点滅するときは、正しいデジタル信号が入力されていないか、入力信号にロックしていないことを示し、ミュート状態になります。

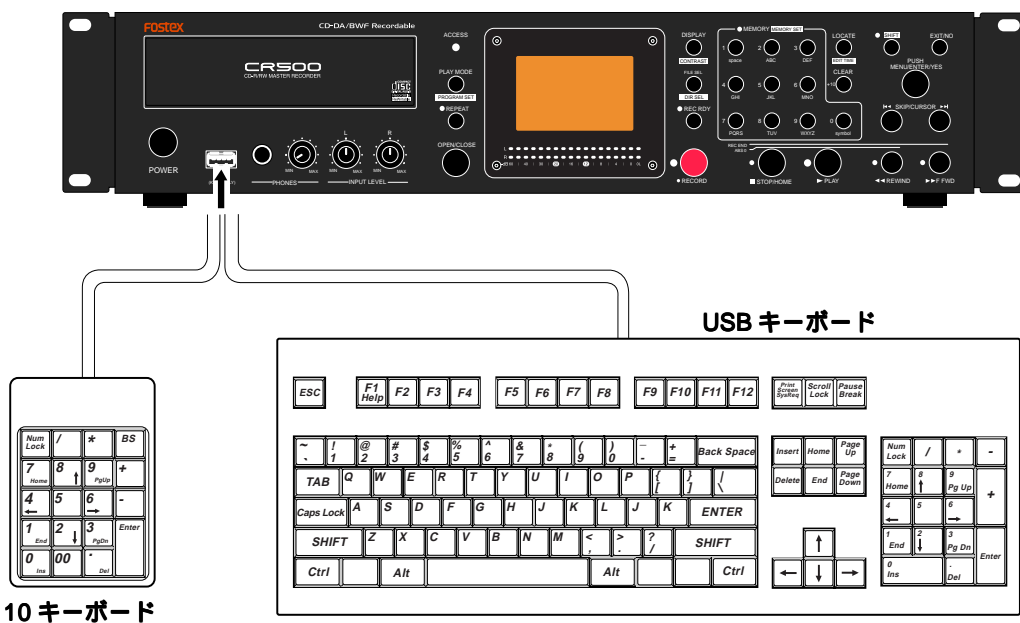
### 外部フェーダー・スタートの接続

本機には [GPI] ジャック (PHONE) を搭載し、フェーダー・スタート端子を搭載したミキサーなどと接続し、ミキサーからのプレイ/ストップがコントロールできます。

### USB キーボード / 10 キーボードの接続

本機には、USB キーボード / 10 キーボードの接続が可能な [USB (KYBD ONLY)] ポートを搭載しています。USB キーボード / 10 キーボードを接続することで、MENU モードにおけるファイル・ネームやボリューム・ネーム (Reel Number) などの編集や設定変更に加え、トランスポートのコントロールが可能になります。

10キーボードが果たす役目については下記表を参照し、USBキーボードの役目については次ページ表を参照してください。



10 キーボード

**<注意>**： USBキーボードで本機を操作するには、ご使用いただくキーボードによってMENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Keyboard sel”で、キーボードのタイプ(“US”または“JAPAN”)を設定してください( 78 ページ)。なお、“Keyboard Sel”の初期設定は“US”になっています。

### 10 キーボード

0 ~ 9 キー	本体の [MEMORY] キーと同じ機能を果たします。
. Del キー	本体の [CLEAR/+10] キーと同じ機能を果たします。
Enter キー	本体の [STOP/HOME] キーと同じ機能を果たします。
/ キー	本体の [SKIP/CURSOR ◀◀] キーと同じ機能を果たします。
* キー	本体の [SKIP/CURSOR ▶▶] キーと同じ機能を果たします。
+ キー	本体の [PLAY] キーと同じ機能を果たします。
- キー	本体の [SHIFT] キーと同じ機能を果たします。



## USB キーボード

ファンクション・キー	
F1 キー	MENU モードの “ DISK UTILITY ” メニューにある “ Edit File Name ” へ入ります。
F3 キー	MENU モードの “ DISK UTILITY ” メニューにある “ Default File Name ” へ入ります。
F5 キー	プレイ・モードを ALL PLAY に切り換えます。
SHIFT + F5 キー	プレイ・モードを SINGLE PLAY に切り換えます。
F6 キー	プレイ・モードを MEMORY PLAY に切り換えます。
SHIFT + F6 キー	プレイ・モードを PROGRAM PLAY に切り換えます。
F7 キー	REC READY を ON にします。
SHIFT + F7 キー	REC READY を OFF にします。
F8 キー	本体 [RECORD] キーと同じ機能を果たします。
F9 キー	本体 [STOP/HOME] キーと同じ機能を果たします。
F10 キー	本体 [PLAY] キーと同じ機能を果たします。
F11 キー	本体 [REWIND] キーと同じ機能を果たします。
F12 キー	本体 [F FWD] キーと同じ機能を果たします。

ショートカット・キー	
ALT+ F キー	MENU モードの “ FILE SEL ” メニューへ入ります。
ALT+ D キー	MENU モードの “ DIRECTORY SEL ” メニューへ入ります。
ALT+ S キー	MENU モードの “ SYS SETUP ” メニューへ入ります。
ALT+ P キー	MENU モードの “ PLAY SETUP ” メニューへ入ります。
ALT+ L キー	MENU モードの “ PROGRAM SET ” メニューへ入ります。
ALT+ U キー	MENU モードの “ DISK UTILITY ” メニューへ入ります。

コントロール・キー	
Ctrl+ L キー	本体の [LOCATE] キーと同じ機能を果たします。

固有キー	
/ / /	MENU モードなどにおいて、桁移動やスクロール機能を果たします。
BS キー	バックスペースの機能を果たします。
DEL キー	本体の [CLEAR/+10] キーと同じ機能を果たします。
Esc キー	本体の [EXIT/NO] キーと同じ機能を果たします。
Enter キー	本体の [ENTER/YES] キーと同じ機能を果たします。
HOME キー	本体の [STOP/HOME] キーと同じ機能を果たします。
スペース・キー	本体の [STOP/HOME] キーと同じ機能を果たします。
	FOWARD 方向へのスキップ
	REWIND 方向へのスキップ

<注意> : USB キーボードおよび 10 キーボードで操作できる機能は、将来拡張されることがあります。

## 第5章 記 録

ここでは、CR500を使ったオーディオ・データの記録方法について記載しています。CR500では、BWFの記録モードで記録する方法とCD-DAの記録モードで記録する方法の、2つの方法があります。

記録モードBWFのディスクにはWAVファイルのオーディオ・ファイルが記録され、記録後ディスクのクローズ処理をすることでPC (Windowsのみ) への取り込みが可能になります。また、記録モードCD-DAのディスクにはCD-DAのオーディオ・トラックが記録され、記録後ディスクをファイナライズ処理することで、他のCDプレーヤでも再生したり、PC (Windows/Mac OS) への取り込みが可能になります。

**<注意>** : CR500では、BWFの記録モードでフォーマットしたディスクへ記録するデータを「オーディオ・ファイル」と呼び、ディスクの記録可能な範囲で最大97個のオーディオ・ファイルを記録して管理できます (注意: 記録可能なオーディオ・ファイルの数は、クローズ処理の回数により異なります)。また、CD-DAの記録モードでフォーマットしたディスクへ記録したデータを「オーディオ・トラック」と呼び、最大99個のオーディオ・トラックを記録して管理できます。

### 目 次

<b>記録を開始する前に</b> .....	<b>40</b>
クローズ処理とファイナライズ処理.....	40
<b>記録の準備</b> .....	<b>41</b>
外部音源の接続.....	41
インプット・セレクトの設定.....	42
録音レベルの調整.....	42
<b>WAVファイルの記録</b> .....	<b>44</b>
記録の開始.....	44
記録の終了.....	44
記録したオーディオ・ファイルの確認.....	45
記録したオーディオ・ファイルの再生.....	45
ディスクのクローズ処理.....	46
<b>CD-DAの記録(オーディオCDの作成)</b> .....	<b>47</b>
記録の開始.....	47
記録の終了.....	47
記録したオーディオ・トラックの確認.....	48
記録したオーディオ・トラックの再生.....	48
ディスクのファイナライズ処理.....	49
<b>再生する曲のセレクト</b> .....	<b>50</b>
<セレクト方法1> : [SKIP/CURSOR  ◀◀▶▶ ] キーを使う.....	50
<セレクト方法2> : [MEMORY/ MEMORY SET] キーを使う.....	50
<セレクト方法3> : ファイル・セレクト・モードを使う.....	51

## 記録を開始する前に

### <クローズ処理とファイナライズ処理>

CR500では、記録済みのディスクを必要に応じてクローズ処理、またはファイナライズ処理を実行します。これらの処理は以下の目的で行います。

#### クローズ処理：

BWFでフォーマットしたディスクに対して行う処理で、CR500で記録したディスクをPC (Windowsのみ)で読み込み可能にするための処理です。クローズ処理は、記録後ディスクを取り出す過程で実行できます(46ページ参照)。もちろん、記録したディスクをPCで使用しない場合は、クローズ処理の必要はありません(下記<注意>を参照)。

万一、クローズ未処理のディスクをPCで使用したい場合は、そのディスクを一旦CR500にロードした後、ディスクのイジェクト操作を行ってください。クローズ処理するための画面に変わり、改めてクローズ処理することができます(46ページ参照)。

**<注意>**：BWFのディスクにおいてクローズ処理を実行すると、記録可能な時間と記録可能なトラック数を消費してしまいます。そのため、クローズ処理は必要最低限に抑えて実行してください。

**<注意>**：BWFのディスクでも、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Finalize”において、ファイナライズすることができます(92ページ)。なお、ファイナライズしたBWFのディスクは、追記録やファイル・ネームの編集/ファイルの削除/ファイルの復活はできなくなります。

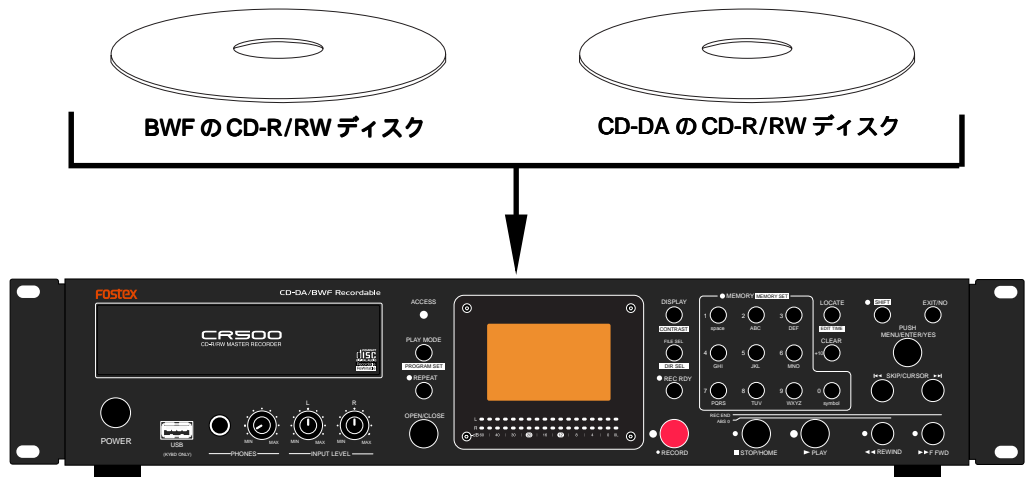
#### ファイナライズ処理：

CD-DAでフォーマットしたディスクに対して行う処理で、上記同様PC (Windows/Mac OS)で読み込み可能にしたり、CDプレーヤーで再生可能にするための処理です( CDプレーヤーでの再生はCD-Rディスクのみ可能)。ファイナライズ処理は、記録後ディスクを取り出す過程(49ページ参照)またはMENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Finalize”で実行できます(92ページ参照)。

**<注意>**：ファイナライズしたCD-DAのディスクは、追記録できなくなりますのでご注意ください。

## 記録の準備

アナログまたはデジタル・オーディオ信号を記録する前に、記録の準備を行います。下記操作は、CR500の電源がオンになっている、BWFまたはCD-DAでフォーマットした未記録のCD-R/RWディスクが、トレイにセットされていることを前提としています。WAVファイルを記録するには“**BWF**”タイプでフォーマットしたディスク、オーディオCDを作成するには“**CD-DA**”タイプでフォーマットしたディスクを使います。



ここからの操作は、セットされているディスクによって以下のHome画面が表示されていることを前提としています（BWFのHome画面は、“**BWF (48/24)**”タイプでフォーマットした場合の例です）。

0m 00s 000 TOTAL MS				
TRK-				
→ ALL PLAY				
				F S
				48
				BIT
				24

< BWF (48/24) のディスク >

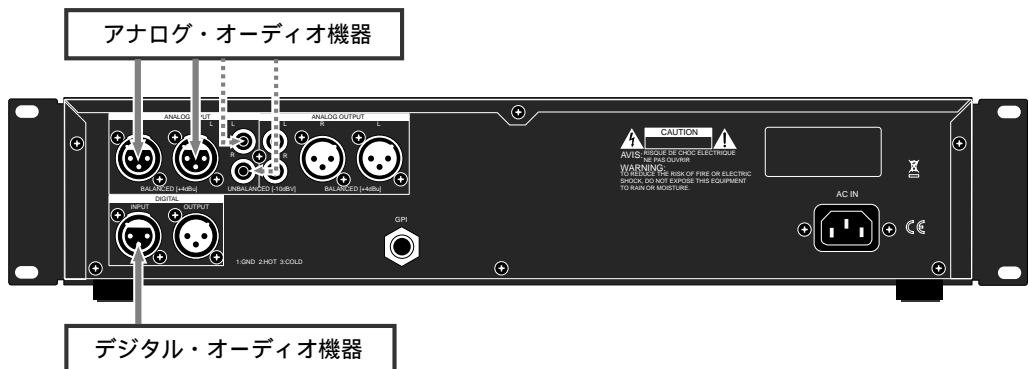
0m 00s 000 TOTAL MS				
TRK-				
→ ALL PLAY				
				F S
				44.1
				BIT
				CD-DA

< CD-DA のディスク >

## 外部音源の接続

アナログ・オーディオ信号を記録するときは [ANALOG INPUT] (バランスまたはアンバランス) に接続し、デジタル・オーディオ信号を記録するときは、[DIGITAL INPUT] に接続します。

<注意> : [ANALOG INPUT] 端子は、バランス / アンバランス同時に接続すると、アンバランス (RCA) が優先となり、バランス (XLR) は機能しなくなります。



## インプット・セレクトの設定

記録するオーディオ信号（アナログまたはデジタル）に合わせて、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Select Input”を、“Analog”または“Digital”に設定します（初期設定は“Analog”に設定されています）。“Select Input”の設定については76ページを参照してください。

```

M>SYS>Select Input
Default File Name▶
Select Input:Analog
Digital Out :AES/EBU
Peak Hold   :3sec
Ref.Level   :-12dB
Keyboard Sel:US
    
```

アナログ・オーディオ信号の記録時：  
“Analog”に設定します。

```

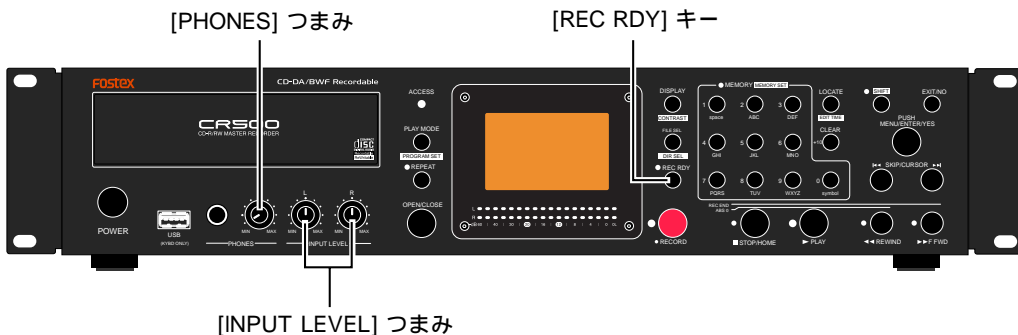
M>SYS>Select Input
Default File Name▶
Select Input:Digital
Digital Out :AES/EBU
Peak Hold   :3sec
Ref.Level   :-12dB
Keyboard Sel:US
    
```

デジタル・オーディオ信号の記録時：  
“Digital”に設定します。

<注意>：“Select Input”の設定は必須事項です。正しく設定されていないと、接続したオーディオ信号が入力されません。

## 録音レベルの調整（アナログ入力時のみ）

アナログ・オーディオ信号を記録するときのみ、[INPUT LEVEL]つまみで録音レベルを調整します。デジタル・オーディオ信号の記録時は、入力されるデジタル信号のレベルで記録されますので、調整の必要はありません。



入力レベルを調整するには、[REC RDY] キーを押して録音スタンバイにします [REC RDY] インジケータが点滅。

本機を録音スタンバイにするとHome画面がインプットモニター画面に変わり、アナログ信号の入力レベルが調整できるようになります。インプットモニター画面には、フォーマット時選択したフォーマット・タイプと、前述のインプット設定の情報などが表示されます。下記画面のインプット設定情報は“Analog”に設定した場合の例です。

```

0m 00s 000 TOTAL
TRK-
  ALL PLAY
          FS
          48
          BIT
          24
    
```

```

0m 00s 000 TOTAL
TRK-
NEXT-R SCENE_001.wav
DISC-R 40m00s 97trks
REC-MD 48/24WAV INPUT ANALOG
    
```

< BWF のインプットモニター画面 >

```

0m 00s 000 TOTAL
TRK-
  ALL PLAY
          FS
          44.1
          BIT
          CD00
    
```

```

0m 00s 000 TOTAL
TRK-
NEXT-R 01
DISC-R 79m00s 99trks
REC-MD 44/16CD-DA INPUT ANALOG
    
```

< CD-DA のインプットモニター画面 >

<注意> : インプット・セレクトが“ Digital ”に設定されているときは、下記例のように“ **INPUT DIGITAL** ”を表示します。

```

0 m 00 s 000 TOTAL
M s
TRK-
NEXT-R 01
DISC-R 79m00s 99trks
CS: 1000040005
RECMO 44/16CD-DA INPUT DIGITAL

```

< CD-DA ディスクの表示列 >

```

0 m 00 s 000 TOTAL
M s
TRK-
NEXT-R SCENE_001.wav
DISC-R 40m00s 97trks
CS: 1000040005
RECMO 48/24WAV INPUT DIGITAL

```

< BWF ディスクの表示列 >

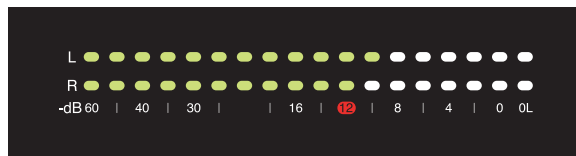
“ Select Input ”が“ Digital ”設定時、正しいデジタル信号が入力され、かつ入力信号にロックしているときは、“ **INPUT DIGITAL** ”表示部の“ **DIGITAL** ”が点灯します。また、“ **DISC-R** ”表示部の下には、現在入力されているデジタル信号チャンネルのステータス情報も表示します。なお、“ **DIGITAL** ”が点滅するときは、正しいデジタル信号が入力されていないか、入力信号にロックしていないことを示し、ミュート状態になります。このような場合は、外部機器のデジタル出力設定や、本機 [DIGITAL INPUT] 端子の接続を再確認してください。

<注意> : BWFのインプットモニター画面に表示されているファイル・ネームは、初期設定の“ **Scene Name + Take Number** ”になっています。ファイル・ネームは、MENUモードの“ **SYS SETUP** ”メニューにある“ **Default File Name** ”で、初期設定以外に“ **Reel Number + Take Number** ”または“ **Date** ”に設定することができます（ 75 ページ参照）。なお、ファイル・ネームは、記録終了後でもMENUモードの“ **DISK UTILITY** ”メニューにある“ **Edit File Name** ”で任意に変更することも可能です（ 89 ページ参照）。

<注意> : CD-DAのインプットモニター画面には、通常ファイル・ネームは表示されませんが、CD-TEXTによってファイル・ネームが書かれているときのみ表示します。ただし、CD-DAで記録したオーディオ・トラックのファイル・ネームは編集することができません。

**アナログ・ソースを入力し、[INPUT LEVEL] つまみで最適な録音レベルを調整します（デジタル入力時は、入力レベルのみ確認できます）。**

アナログ入力時は、[INPUT LEVEL] つまみを時計方向へ回していくと、レベル・メータのインジケータが点灯（点滅）していきます。メータのインジケータを目視、およびヘッドホン（またはモニター・スピーカ）などでモニターしながら、最適な録音レベルを調整します。

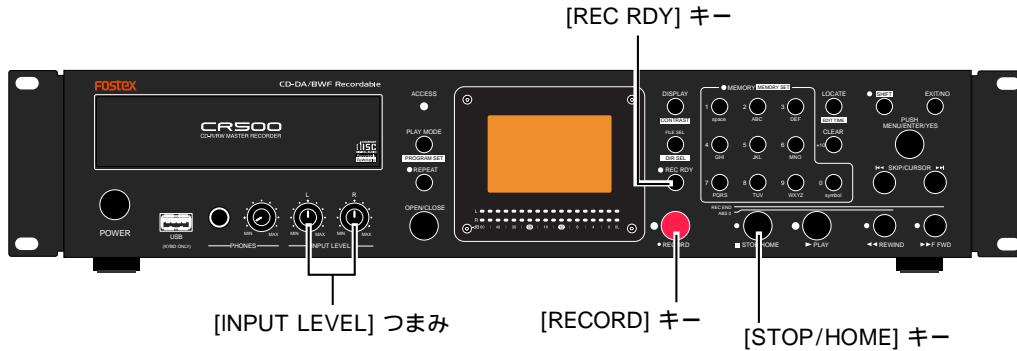


**\* デジタル入力時は、レベル調整は必要ありません。**

<注意> : 録音レベルは、レベル・メータの“ **0dB** ”を越えないよう調整してください。最善のS/Nを実現するため、“ **0dB** ”に近くかつ“ **0dB** ”を超えて“ **OL (Over Level)** ”が点灯しないよう設定することをお勧めします。本機のリファレンス・レベルは、初期設定が“ **-12dBFS** ”になっていて、24bitフルスケール・レベル（0dB）から、-12dBのポイントがリファレンス・マーカーになっています。リファレンス・レベルは、MENUモードの“ **SYS SETUP** ”メニューにある“ **Ref. Level** ”で“ **-20dB** ”に設定することができます（ 78 ページ参照）。

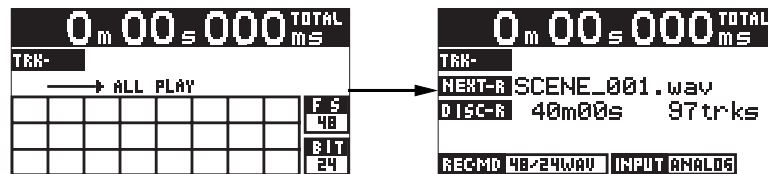
## WAV ファイルの記録

アナログまたはデジタル・オーディオ信号を WAV ファイルで記録します。  
 下記操作は、BWF でフォーマットされた未記録の CD-R (または CD-RW) ディスクがロードされていることを前提にしています。



### 記録の開始

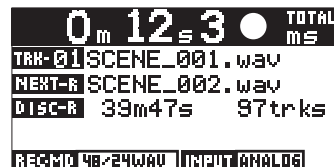
**[REC RDY] キーを押して、REC READY を ON (録音スタンバイ) にします。**  
 インputモニター画面にvari、記録可能なディスク残量とトラック数が表示されます。アナログ・オーディオ信号の記録時には入力レベルが調整でき、デジタル・オーディオ信号の記録時は、入力レベルの確認が可能です。  
 アナログ・オーディオ信号を記録するときは、前述「記録の準備」の要領で最適な入力レベルを調整します。



**[RECORD] キーを押して、記録を開始します。**  
 記録を開始するとインputモニター画面は下記例のようにvari、記録の進行とともにタイム表示はカウントアップし、ディスクの記録可能な時間はカウント・ダウンしていきます (記録中はタイム表示部に “ ” が点灯します)。

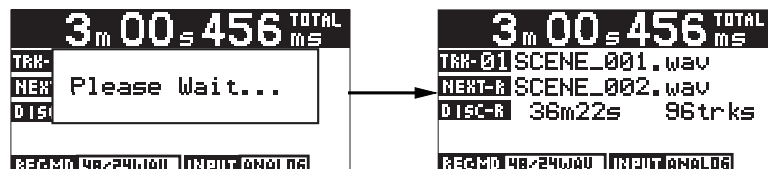
**<注意>** : 入力するソースの先頭が記録漏れしないよう、本機を先に記録スタートさせることをお薦めします。

“ TRK-01 ” は現在記録しているオーディオ・ファイルを示し、“ NEXT-R ” には次回記録するオーディオ・ファイルのファイル・ネームが表示されます。ファイル・ネームはMENUモードの “ SYS SETUP ” メニューにある “ Default File Name ” の設定で異なります ( 75 ページ )。



### 記録の終了

記録を終了するには、[STOP/HOME] キーを押します。  
 記録の後処理を示す “ Please Wait...” が点灯した後、最終記録位置でディスクが停止します。



## 記録したオーディオ・ファイルの確認

[REC RDY] キーを押して、録音スタンバイを解除します（インジケータ消灯）。録音スタンバイを解除するとHome画面が下記例のように表示され、ディスク上に1つのオーディオ・ファイルが記録されたことを確認できます。なお、現在表示しているタイム表示は、最終記録位置を示しています。

現在選択されているオーディオ・ファイル →

3m 00s 456		TOTAL
		ms
TRK-01 SCENE_001.wav		
→ ALL PLAY		
01		7.5
		48
		BIT
		24

- 連続して他の記録を行うには、前述同様の操作を繰り返してください。なお、繰り返し記録を行うときは、インプットモニター画面に表示される、記録可能な時間とファイル数を確認してください。

<注意>：連続して複数記録した場合は、ファイル・ナンバーが記録順にHome画面のトラック表示部に表示されます。右の例は、6つのオーディオ・ファイルを連続記録し、最終ファイルの記録が終了した状態を示しています。

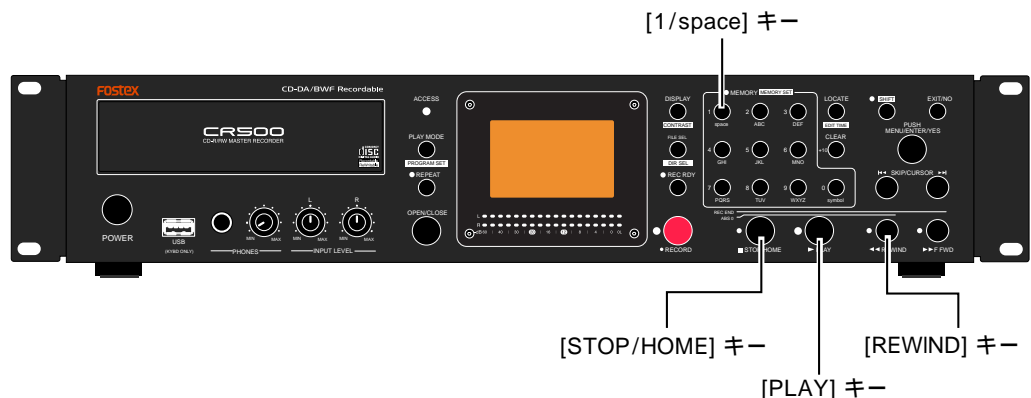
23m 34s 456		TOTAL
		ms
TRK-06 SCENE_006.wav		
→ ALL PLAY		
01	02	03
04	05	06
		7.5
		48
		BIT
		24

<注意>：WAVファイルの記録では、CD-RまたはCD-RWディスクであっても、ディスクの記録可能な範囲で追記録が可能です。また、不要なファイルは任意に削除も可能です（90ページ）。記録済みのディスクは、後述の「ディスクのクローズ処理」を実行することで、PC（Windowsのみ）への取り込みが可能になります。なお、記録済みのCD-Rディスクは、再フォーマットできなくなります。

## 記録したオーディオ・ファイルの再生

記録を終了したときは最終記録位置で停止していますので、下記いずれかの方法でオーディオ・ファイルの先頭へ戻してから再生します。下記操作は、ディスクに1つのオーディオ・ファイルが記録されていることを前提にしています（複数記録した場合のファイル・セレクトは、後述50ページを参照してください）。

<ヒント>：本機には「プレイ・モード」があり、初期設定では“ALL PLAYモード”になっています。そのため、1つのファイルあるいは複数のファイルが記録されている状態でも、一番最初のファイルから連続して再生することができます。その他のプレイ・モードについては、後述の「再生とロケート」を参照してください。

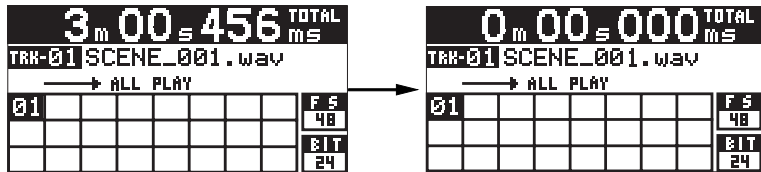


[STOP/HOME] キーを押しながら [REWIND] キーを押すか、[MEMORY] キーの [1/space] キーを押します。

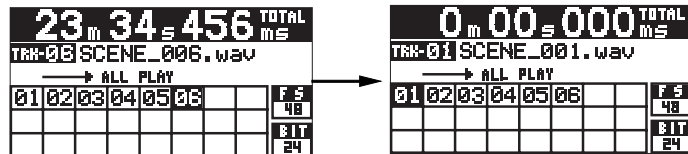


[STOP/HOME] キーを押しながら [REWIND] キーを押すと “Locate ABS 0” を実行して、速やかにディスクの先頭にロケートして停止します。また、[MEMORY] キーの [1/space] キーを押したときは、オーディオ・ファイル1の先頭へロケートした後、自動的に再生を開始します。

<注意> : [MEMORY] キーを押してロケートしたときは、MENUモードの “PLAY SETUP” メニューにある “Auto Play” の初期設定が “On” になっているため、ロケート終了後自動的に再生を開始します ( 84 ページ参照 )。



<注意> : 複数のオーディオ・ファイルが記録されている状態で “Locate ABS 0” を行うと、下の図のように一番最初に記録されたオーディオ・ファイルの先頭にロケートします。つまり、 “Locate ABS 0” では個々のファイルの先頭ではなく、常にディスクの先頭位置 (ABS 0) へロケートします。そのため、複数のオーディオ・ファイルから再生したいファイルを選択するには、この後 50 ページを参照してください。



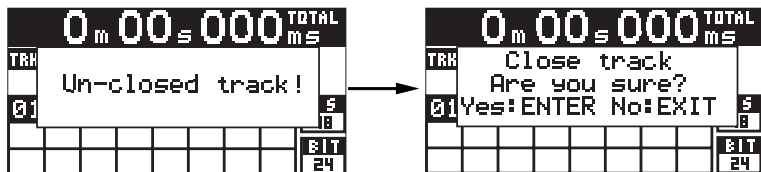
“Locate ABS 0” を実行したときは、[PLAY] キーを押して再生します。

### ディスクのクローズ処理

WAVファイルの記録済みディスクは、クローズ処理することでPC (Windowsのみ) に取り込むことができます。クローズ処理は、ディスクをイジェクトする過程で行なえます。なお、クローズ処理した後のディスクでも、再ロードして追記録が行なえます。

<注意> : MENUモードの “DISK UTILITY” メニューにある “Finalize” を実行したディスクは、追記録できなくなります ( 92 ページ )。また、クローズ処理を一回実行すると記録可能なトラック数一つ消費されるとともに、ディスクの記録可能な領域 (リメイン) が約1分~2分減少します (インプットモニター画面に表示される記録可能なファイル数は、「97- (記録回数+クローズ処理回数)」が表示されます)。そのため、必要以外のクローズ処理は極力控えるようにしてください。

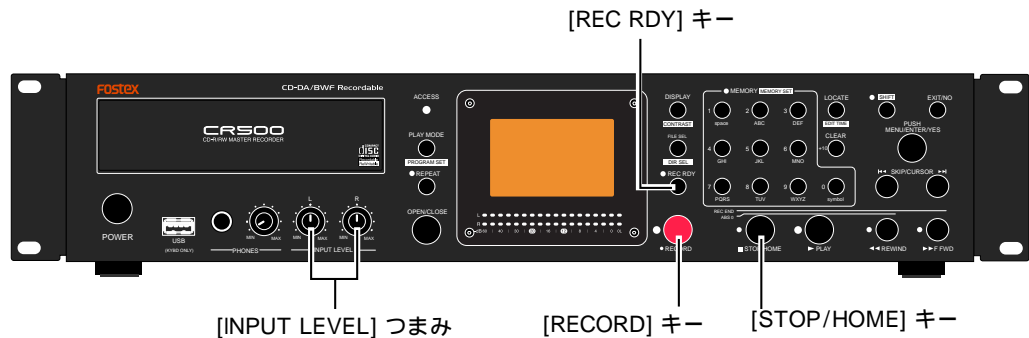
停止状態で [OPEN/CLOSE] キーを押します。  
 “Un-closed track!” のメッセージを表示した後、クローズ処理するかどうかを尋ねる画面に変わります。



クローズ処理するときは [ENTER/YES] キーを押し、処理しないときは [EXIT/NO] キーを押します。  
 [ENTER/YES] キーを押すと “Please Wait Closing track...” を表示して、クローズ処理した後ディスクがイジェクトされます (注意:処理にしばらく時間がかかります)。また、[EXIT/NO] キーを押したときは、クローズ処理しないで速やかにイジェクトされます。

## CD-DA の記録（オーディオ CD の作成）

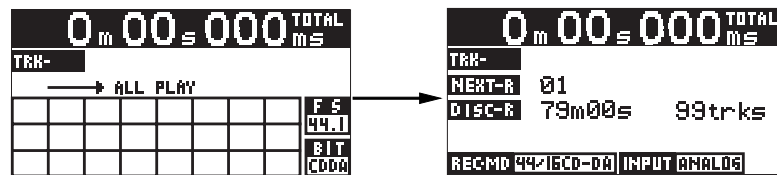
アナログまたはデジタル・オーディオ信号を CD-DA で記録します。CD-DA で記録したディスクは、ファイナライズすることでオーディオ CD が作成され、PC で取り込んだり、CD プレーヤーで再生が可能になります。下記操作は、CD-DA でフォーマットされた未記録の CD-R（または CD-RW）ディスクがロードされていることを前提にしています（CD-DA のディスクは FS44.1kHz/16Bit 固定になります）。**<注意>：CD-DA で記録した CD-RW ディスクは、CD プレーヤーで再生できない場合があります。**



### 記録の開始

**[REC RDY] キーを押して、録音スタンバイにします。**

インプットモニター画面にvari、記録可能なディスク残量とトラック数が表示されます。アナログ・オーディオ信号を記録するときは、前述「記録の準備」の要領で最適な入力レベルを調整します。デジタル・オーディオ信号の記録時は、入力レベルの確認が可能です。



**[RECORD] キーを押して、記録を開始します。**

記録を開始するとインプットモニター画面は下記例のようにvari、記録の進行とともにタイム表示がカウントアップしていき、ディスクの記録可能な時間はカウント・ダウンしていきます（記録中はタイム表示部に“ ”が点灯します）。

**<注意>：入力するソースの先頭が記録漏れしないよう、本機を先に記録スタートさせることをお勧めします。**

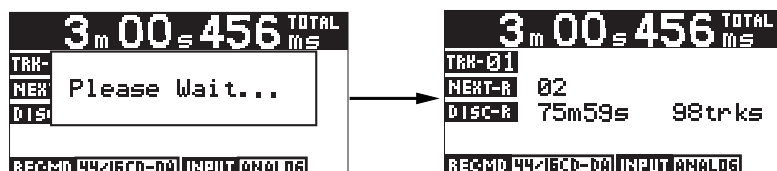
“NEXT-R”には現在記録しているオーディオ・トラックの番号を表示します。



### 記録の終了

**記録を終了するには、[STOP/HOME] キーを押します。**

記録の後処理を示す“Please Wait...”が点灯した後、最終記録位置でディスクが停止します。



## 記録したオーディオ・トラックの確認

[REC RDY] キーを押して、録音スタンバイを解除します（インジケータ消灯）。録音スタンバイを解除するとHome画面が下記例のように表示され、ディスク上に1つのオーディオ・トラックが記録されたことを確認できます。なお、現在表示しているタイム表示は、最終記録位置を示しています。

現在選択されているオーディオ・トラック →

3m 00s 456		TOTAL
TRK-01		MS
→ ALL PLAY		
01		F 5
		44.1
		BIT
		CD/DA

- \* 連続して他の記録を行うには、前述同様の操作を繰り返してください。なお、繰り返し記録を行うときは、インプットモニター画面に表示される、記録可能な時間とトラック数を確認してください。

<注意>：連続して複数記録した場合は、トラック・ナンバーが記録順にHome画面のトラック表示部に表示されます。右の例は、6つのトラックを連続記録して、最終トラックの記録が終了した状態を示しています。

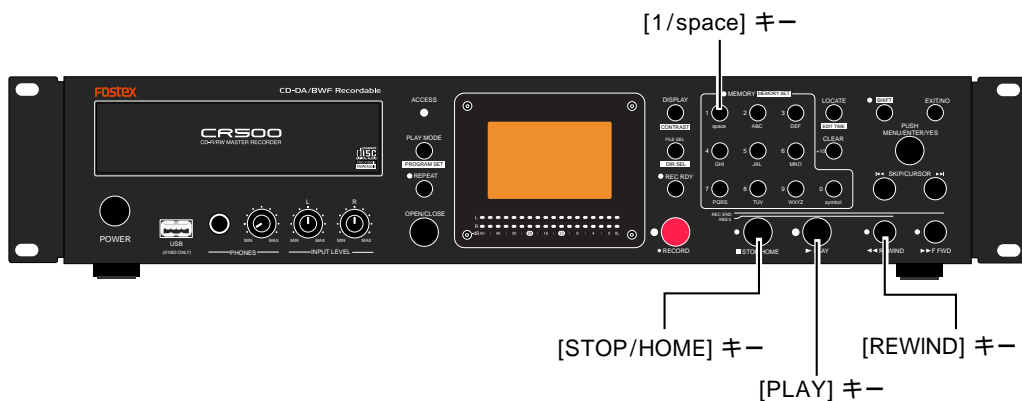
23m 34s 456		TOTAL
TRK-06		MS
→ ALL PLAY		
01	02	03
04	05	06
		F 5
		44.1
		BIT
		CD/DA

<注意>：CD-DAの記録では、CD-RまたはCD-RWディスクであっても、ファイナライズ処理するまで追記録が可能です。なお、ファイナライズ処理したディスクは、他のCDプレーヤーで再生したり、PC(Windows/Mac OS)への取り込みが可能になります。ただし、CDプレーヤーによっては、CD-RWディスクの再生ができない機種もありますのでご注意ください。なお、記録済みのCD-Rディスクは再フォーマットできません。

## 記録したオーディオ・トラックの再生

記録を終了したときは最終記録位置で停止していますので、下記いずれかの方法でオーディオ・トラックの先頭へ戻してから再生します。下記操作は、ディスクに1つのオーディオ・トラックが記録されていることを前提にしています。

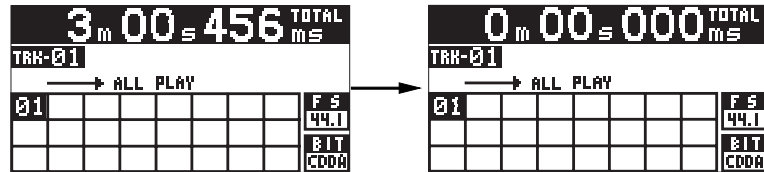
<ヒント>：本機には「プレイ・モード」があり、初期設定では“ALL PLAYモード”になっています。そのため、1つのトラックあるいは複数のトラックが記録されている状態でも、一番最初のトラックから連続して再生することができます。その他のプレイ・モードについては、後述の「再生とロケート」を参照してください。



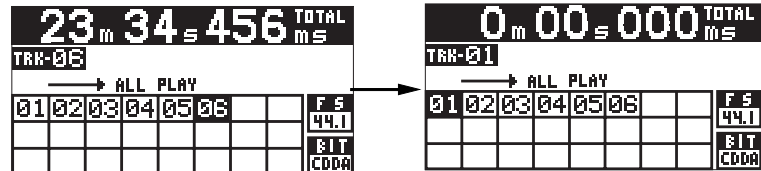
[STOP/HOME] キーを押しながら [REWIND] キーを押すか、[MEMORY] キーの [1/space] キーを押します。

[STOP/HOME] キーを押しながら [REWIND] キーを押すと “Locate ABS 0” を実行して、速やかにディスクの先頭にロケートして停止します。また、[MEMORY] キーの [1/space] キーを押したときは、オーディオ・トラック1の先頭へロケートした後、自動的に再生を開始します。

<注意>：[MEMORY] キーを押してロケートしたときは、MENUモードの“PLAY SETUP”メニューにある“Auto Play”の初期設定が“On”になっているため、ロケート終了後自動的に再生を開始します（84ページ参照）。



<注意>：複数のオーディオ・トラックが記録されている状態で“Locate ABS 0”を行うと、下の図のように一番最初に記録されたオーディオ・トラックの先頭にロケートします。つまり、“Locate ABS 0”では個々のトラックの先頭ではなく、常にディスクの先頭位置（ABS 0）へロケートします。そのため、複数のオーディオ・トラックから再生したいトラックを選択するには、この後50ページを参照してください。



“Locate ABS 0”を実行したときは、[PLAY] キーを押して再生します。

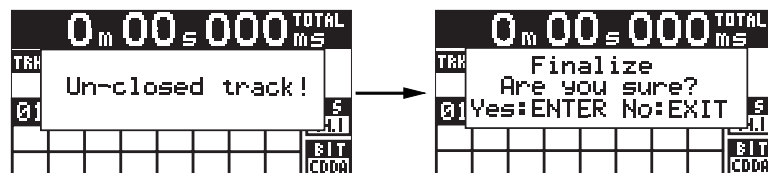
## ディスクのファイナライズ処理

CD-DAで記録済みのディスクは、ファイナライズ処理することで他のCDプレーヤーで再生したり、PC（Windows/Mac OS）に取り込むことができます。ファイナライズ処理は、ディスクをイジェクトする過程で行なえます。また、ファイナライズは、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Finalize”でも実行できます（92ページ参照）。

<注意>：ファイナライズ処理したCD-RディスクおよびCD-RWディスクは、追記録できなくなりますのでご注意ください。

停止状態で [OPEN/CLOSE] キーを押します。

“Un-closed track!” のメッセージを表示した後、ファイナライズ処理するかどうかを尋ねる画面に変わります。



ファイナライズ処理するときは [ENTER/YES] キーを押し、処理しないときは [EXIT/NO] キーを押します。

[ENTER/YES] キーを押すと “Please Wait Finalizing...” を表示して、ファイナライズ処理した後ディスクがイジェクトされます（注意：処理にしばらく時間がかかります）。また、[EXIT/NO] キーを押したときは、ファイナライズ処理しないで速やかにディスクがイジェクトされます。

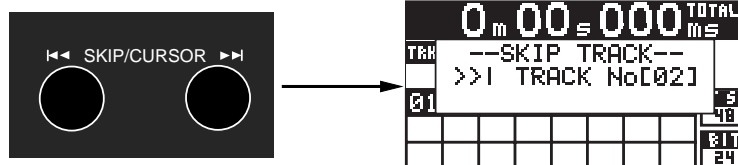
## 再生する曲のセレクト

ディスクに複数の曲(オーディオ・ファイルまたはオーディオ・トラック)が記録されているとき、再生する曲をセレクトするには、下記いずれかの方法で行ないます。

### <セレクト方法1>

**[SKIP/CURSOR |◀◀| キーまたは[SKIP/CURSOR ▶▶|] キーを使う。**

[SKIP/CURSOR |◀◀| キー (または [SKIP/CURSOR ▶▶|] キー) を押すと下記例のポップアップ表示が点灯して、現在セレクトされている曲より後、または前に記録されている曲の先頭へサーチして停止します(キーを押す回数分サーチを実行します)。

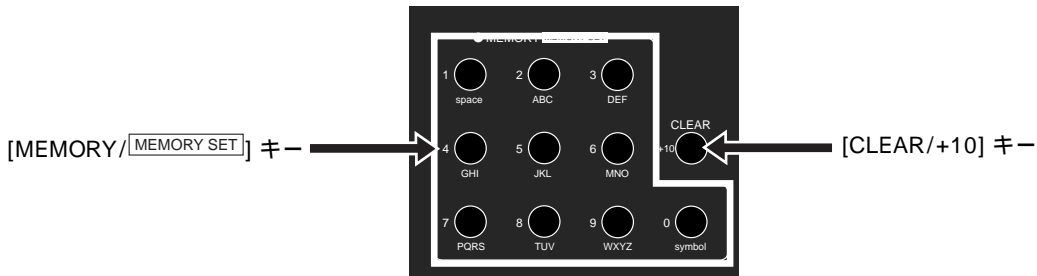


**<注意>** : 上記操作は、停止中または再生中でも実行できますが、再生中に実行したときのみサーチ終了後自動的に再生を開始します。また、リピート機能をON( [REPEAT] キーまたはMENUモードの“PLAY SETUP”メニューで設定) にしておくと、繰り返し再生を続けます。

### <セレクト方法2>

**[MEMORY/ MEMORY SET] キーを使う。**

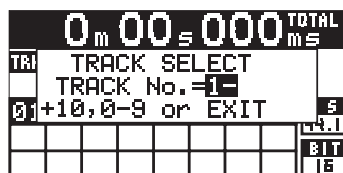
再生したいトラック・ナンバーと同じ番号の [MEMORY/ MEMORY SET] キーを押すと、押したキーの番号と同じ曲の先頭にロケートして停止します。10以上の曲番をセレクトするには、[CLEAR/+10] キーを押した後、[MEMORY/ MEMORY SET] キーの [0] ~ [9] キーを押してください(下記例を参照してください)。



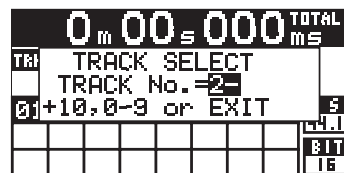
**<注意>** : 上記操作は、停止中または再生中でも実行できます。いずれも、ロケート終了後自動的に再生を開始します。また、リピート機能をON( [REPEAT] キーまたはMENUモードの“PLAY SETUP”メニューで設定) にしておくと、繰り返し再生を続けます。

#### [CLEAR/+10] キーの使い方 :

[CLEAR/+10] キーを一度押すと下記ポップアップ表示が点灯し、反転している“1-”は10を表しています。続けてもう一度押すと反転部分が“2-”となり、20を表します。つまり、[CLEAR/+10] キーを押すごとに、10、20、30・・・というように増えていきます。



[CLEAR/+10] キーを1回押した場合



[CLEAR/+10] キーを2回押した場合

例えば、トラック15をセレクトするには [CLEAR/+10] キーを一度押した後、[MEMORY/ MEMORY SET] キーの [5/JKL] キーを押し、トラック24をセレクトするときは [CLEAR/+10] キーを二度押した後、[MEMORY/ MEMORY SET] キーの [4/GHI] キーを押します。

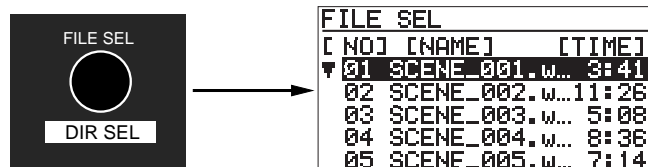
**<セレクト方法3>****ファイル・セレクト・モードを使う。**

ファイル・セレクトモードに入るには、つぎの2つの方法があります。

**<注意>**：ファイル・セレクト・モードでセレクトしたときは、自動的に再生を開始することはありません。

**[FILE SEL/ DIR SEL] キーを押して、ダイレクトにファイル・セレクト・モードへ入る。**

停止状態で [FILE SEL/ DIR SEL] キーを押すとファイル・セレクト・モードの画面に変わり、現在記録されている曲のリストが表示されます。反転している曲が現在セレクトされている曲を示しています(下記画面は、BWFのディスクに記録されたオーディオ・ファイルの例です。CD-DAのディスクではトラック・ナンバーと記録時間を表示します)。



上記画面が表示されている状態で、[MENU] ダイアル(または [SKIP/CURSOR |◀◀ ▶▶|] キー)で希望の曲を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、選択した曲の Home 画面に変わり再生が可能になります。

**MENU モードからファイル・セレクト・モードへ入る。**

**(1) 停止状態で [ENTER/YES] キーを押します。**

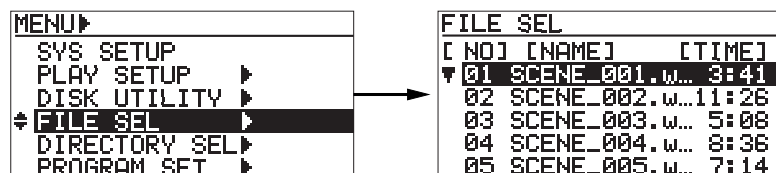
MENU モードへ入り、メイン・メニューを選択する画面に変わります。



< MENU モードの画面 >

**(2) [MENU] ダイアルで“ FILE SEL ▶ ”にカーソルを移動して [ENTER/YES] キーを押します。**

上記 [FILE SEL/ DIR SEL] キーを押したときと同様、ファイル・セレクト・モードの画面に変わります。



**(3) [MENU] ダイアル(または [SKIP/CURSOR |◀◀ ▶▶|] キー)で希望の曲を選択して [ENTER/YES] キーを押します。**

選択した曲の Home 画面に変わり、再生が可能になります。



## 第6章 再生 / ロケート

ここでは、CR500を使った多彩な再生方法や、ロケートの方法について記載しています。本機で記録したCD-R/CD-RWディスク以外に、市販のオーディオCDも同様の操作で再生 / ロケートが可能です。

### 目次

プレイ・モードについて.....	54
ALL PLAYモードによる再生.....	55
SINGLE PLAYモードによる再生.....	55
キューイング / デジタル・スクラブでの再生.....	56
CUEモードによる再生(キューイング).....	56
スクラブ・モードによる再生.....	56
PROGRAM PLAYモードによる再生.....	57
プレイ・リストの登録.....	58
プレイ・リストから任意の曲を削除.....	60
プレイ・リストから全ての曲を削除.....	60
MEMORY PLAYモードによる再生.....	61
メモリー・データの登録.....	62
メモリー・データの置き換え.....	63
メモリー・ネームの編集.....	64
再生時間 / 終了時間を入力して編集.....	64
デジタル・スクラブで微調整して再生時間 / 終了時間を編集.....	65
任意のメモリー・データを削除.....	66
ISO9660フォーマット・ディスクの再生.....	67
ロケート / スキップ機能.....	68
オーディオ・ファイル(オーディオ・トラック)単位のロケート.....	68
オーディオ・ファイル(オーディオ・トラック)単位のスキップ.....	69
ABSタイムのロケート.....	69
任意のタイム・データを入力してロケート.....	70



# プレイ・モードについて

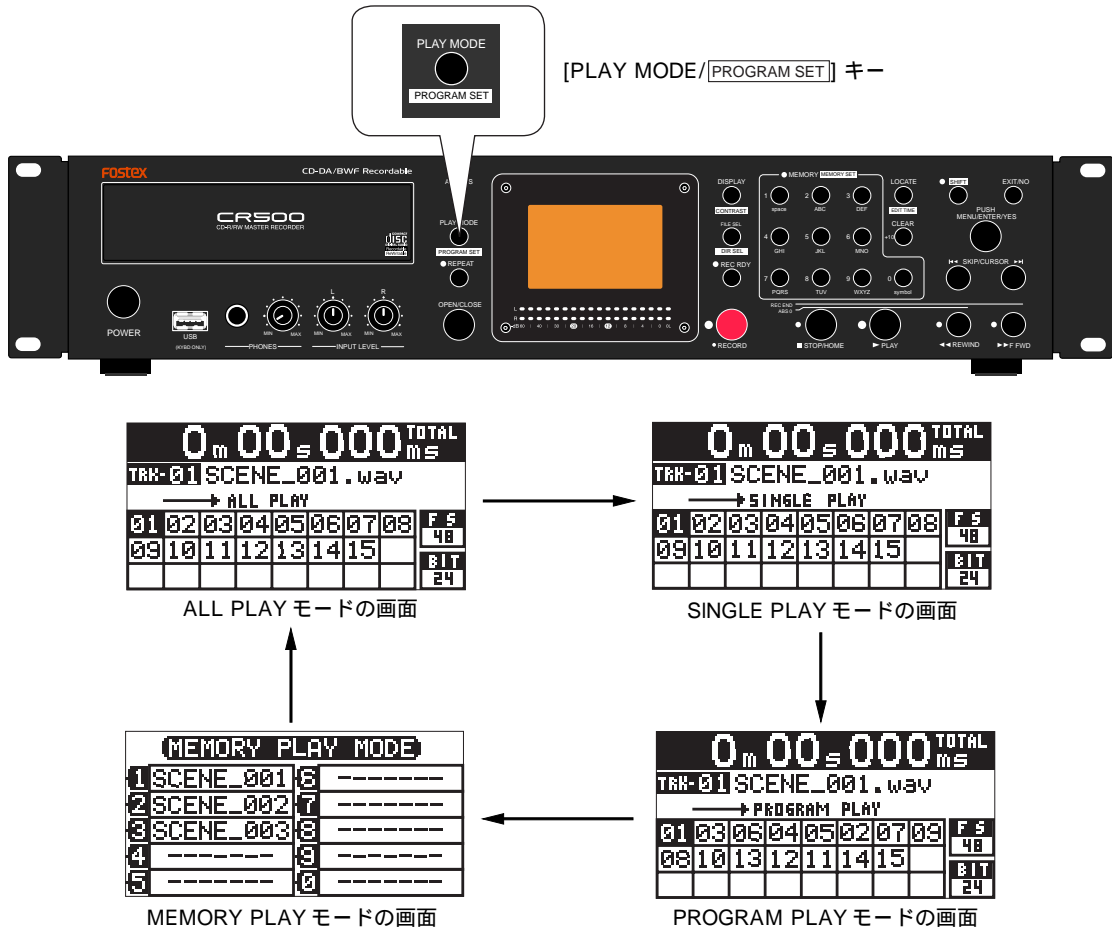
本機には4つのプレイ・モードを搭載し、用途に応じてご利用いただけます。  
通常、本機で記録したCD-R/RWディスクや市販のオーディオ・ディスクを再生するには、下記“ALL PLAY”モード、または“SINGLE PLAY”モードを使用します。

プレイ・モードは、停止状態で [PLAY MODE/[PROGRAM SET]] キーを押していくと下記順で切り換えることができます。下記 PROGRAM PLAY モードと MEMORY PLAY モードの画面は、PROGRAM PLAY に必要なプレイ・リストや MEMORY PLAY に必要なメモリ・データが登録されていることを前提にしています。

<注意>：本体メモリーに何もオーディオ・データが登録されていない状態で“MEMORY PLAY モード”に切り換えると、下記画面が表示されて実行できません。メモリー・データの登録については62ページを参照してください。

MEMORY PLAY MODE			
1	---	6	---
2	---	7	---
3	---	8	---
4	---	9	---
5	---	0	---

<注意>：“PROGRAM PLAY”を実行するために必要なプレイ・リストが登録されていない状態で“PROGRAM PLAYモード”に切り換えると、“No Play List!”が点灯した後、“ALL PLAYモード”の画面に戻ります（プレイ・リストの登録については58ページを参照してください）。



<ヒント>：プレイ・モードの切り換えは、[PLAY MODE/[PROGRAM SET]] キーの操作以外にMENUモードの“PLAY SETUP”メニューにある“Play Mode”でも設定できます（83ページ）。

## ALL PLAY モードによる再生

ALL PLAY モードの画面が表示されている状態で [PLAY] キーを押すと、ディスクに記録されているすべての曲を、記録順に連続再生します（ランダムに再生したい場合は、後述の“PROGRAM PLAY”モードを使います）。一番最後にある曲の再生が終了すると、終了位置で停止します。

0 m 00 s 000 TOTAL										ms
TRK-01 SCENE_001.wav										
→ ALL PLAY										
01	02	03	04	05	06	07	08	F 5		48
09	10	11	12	13	14	15		BIT		24

< ALL PLAY モードの画面 >

**<ヒント1>**：リピート機能を併用すると、[STOP/HOME] キーを押すまで連続再生を繰り返します。リピート機能は [REPEAT] キーでオン/オフするか、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Repeat”で設定します（ 83 ページ）。

**<ヒント2>**：連続再生のスタート曲は、つぎのいずれかの操作でセレクトできます。

- (1) [MEMORY] キーと [CLEAR/+10] キーで曲番を指定する（ 50/68 ページ）。
- (2) [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを押す（ 50/69 ページ）。
- (3) ファイル・セレクト機能でセレクトする（ 51 ページ）。

**<注意>**：先頭以外の曲をスタート曲にセレクトした場合、セレクトした曲以前の曲は再生できません。例えば、上記画面において“05”をセレクトして再生させると、05～15までのみを再生します。なお、途中の曲からスタートしても、最後の曲が終了した位置で停止します。また、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Auto Play”が、初期設定で“On”になっているため、上記 [MEMORY] キーでセレクトしたときは自動的にセレクトした曲の再生を開始します。

## SINGLE PLAY モードによる再生

SINGLE PLAY モードの画面が表示されている状態で [PLAY] キーを押すと、現在セレクトされている曲のみを再生して停止します。

0 m 00 s 000 TOTAL										ms
TRK-01 SCENE_001.wav										
→ SINGLE PLAY										
01	02	03	04	05	06	07	08	F 5		48
09	10	11	12	13	14	15		BIT		24

< SINGLE PLAY モードの画面 >

**<ヒント1>**：リピート機能を併用すると、[STOP/HOME] キーを押すまで同じ曲の再生を繰り返します。リピート機能は [REPEAT] キーでオン/オフするか、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Repeat”で設定します（ 83 ページ）。

**<ヒント2>**：再生したい曲は、つぎのいずれかの操作でセレクトできます。

- (1) [MEMORY] キーと [CLEAR/+10] キーで曲番を指定する（ 50/68 ページ）。
- (2) [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを押す（ 50/69 ページ）。
- (3) ファイル・セレクト機能でセレクトする（ 51 ページ）。

なお、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Auto Play”が、初期設定で“On”になっているため、上記 [MEMORY] キーでセレクトしたときは自動的にセレクトした曲の再生を開始します。

## キューイング/デジタル・スクラブでの再生

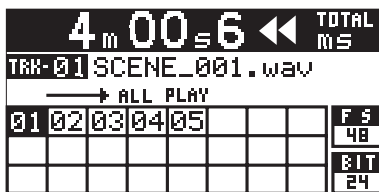
### CUEモードによる再生（キューイング）

CUEモードでは、フォワード方向（またはリwind方向）へ、最大3倍速のキューイングができます。

**<注意>**：キューイングの最大速度は、再生するディスクの記録FS/BITによって異なります。

オーディオ・ファイル（またはオーディオ・トラック）を再生中、[F FWD] キーまたは[REWIND] キーを押すと、キューイングしながらモニターすることができます。

CUEモードから通常の再生に戻すには、[PLAY] キーを押します。



<リwind方向へのキューイング>



<フォワード方向へのキューイング>

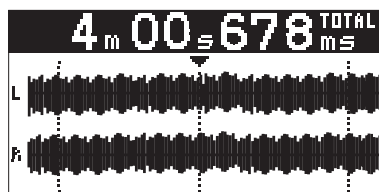
**<注意>**：キューイングは、“ALL PLAY”、“SINGLE PLAY”および“PROGRAM PLAY”モードにおいて実行できます。

### スクラブ・モードによる再生

スクラブ・モードでは、デジタル・スクラブによる再生が可能です。

停止状態で[STOP/HOME] キーを押しながら[PLAY] キーを押すと、下記例のような波形画面に変わり、[MENU] ダイヤルでデジタル・スクラブしながらモニターすることができます。

デジタル・スクラブは、約10msecステップでフォワード方向（またはリwind方向）へ実行できます。



<スクラブ・モードの画面(例)>

**<注意>**：スクラブ・モードから抜け出すには、[STOP/HOME] キー、[PLAY] キー、[EXIT/NO]、または[ENTER/YES] キーを押します。なお、[ENTER/YES] キーを押して抜け出した場合は、スクラブ・ポイント（上記画面中“ ”位置）の時刻データが[LOCATE] キーにメモリーされます。そのため、[LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押すことで再度スクラブ・ポイントへロケートできます。

**<注意>**：キューイングは、“ALL PLAY”、“SINGLE PLAY”および“PROGRAM PLAY”モードにおいて実行できます。

## PROGRAM PLAY モードによる再生

PROGRAM PLAY モードの画面が表示されている状態で [PLAY] キーを押すと、プレイ・リストに登録された順に連続再生を実行します。なお、PROGRAM PLAY モード内でのみ機能する“ALL PLAY”または“SINGLE PLAY”の設定ができます（59 ページ参照）。

PROGRAM PLAY モードを実行するには、事前にプレイ・リストの登録が必要です（次ページ参照）。

0 m 00 s 000 TOTAL									
MS									
TRK-01 SCENE_001.wav									
PROGRAM PLAY									
01	03	06	04	05	02	07	09	F 5	
								48	
08	10	13	12	11	14	15		317	
								24	

< PROGRAM PLAY モードの画面 >

**< ヒント 1 >**：リピート機能を併用すると、[STOP/HOME] キーを押すまで連続再生を繰り返します。リピート機能は、[REPEAT] キーでオン/オフするか、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Repeat”で設定できます（83 ページ）。

**< ヒント 2 >**：再生するスタート曲は、つぎのいずれかの操作でセレクトできます。

- (1) [MEMORY] キーと [CLEAR/+10] キーで曲番を指定する（50/68 ページ）。
- (2) [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを押す（50/69 ページ）。
- (3) ファイル・セレクト機能でセレクトする（51 ページ）。

**< 注意 >**：先頭以外の曲をスタート曲にセレクトした場合、セレクトした曲以前の曲は再生できません。つまり、上記画面において“05”をセレクトして再生させると、05～15までのみを再生し、01～04は再生しません。なお、途中の曲からスタートしても、最後の曲が終了するとともに終了位置で停止します。また、MENU モードの“PLAY SETUP”メニューにある“Auto Play”が、初期設定で“On”になっているため、上記 [MEMORY] キーでセレクトしたときは自動的にセレクトした曲の再生を開始します。

**< 注意 >**：[MEMORY] キーでセレクトする際、登録されていない番号のキーを押しても“Illegal No.\*”（\*は番号）を表示して、操作は無効となります。また、同一番号の曲がプレイ・リストに複数登録されているときは、一番最初に登録されている曲がセレクトされます。例えば、プレイ・リストに“02”、“05”、“08”、“02”、“07”の順に登録されている場合、[MEMORY] キーの [2/ABC] を押すと、必ず一番先頭の“02”がセレクトされます。そのため、4 曲めの“02”を選択するには、上記 (2) または (3) でセレクトしてください。

**< 注意 >**：PROGRAM PLAY に必要なプレイ・リストは、本体のシステム・メモリーに最大ディスク 100 枚分記録することが可能です。しかし、それ以上のプレイ・リストを登録したときは、最も古いプレイ・リストを削除し、自動的に新しい情報に書き換えられます。なお、システム・メモリーから削除されたプレイ・リストが設定されているディスクを再ロードすると、そのプレイ・リストは最新情報として再度システム・メモリーに記録されます。

**< 注意 >**：MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Sys Initial Memorie>”を実行することで、全てのプレイ・リストが初期化されます（80 ページ）。

## プレイ・リストの登録

ここからの操作は、複数の WAV ファイルがディスクに記録されていることを前提にしています。CD-DA のディスクでも同じ要領で登録できます。

<注意> : プレイ・リストの登録は、MENU モードの “ PROGRAM SET ” メニューでも同様に設定できます。MENU モードから設定画面に入るには、つぎの操作を行ってください。

- 1) 停止状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。
- 2) [MENU] ダイアルでカーソルを画面下の “ PROGRAM SET ▶ ” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
PROGRAM PLAY に必要なプレイ・リストを設定するための画面に変わりますので、この後記載されている方法と同じ要領でプレイ・リストを設定します。

- 1) [SHIFT] キーを押して、Shift モードをオンにした後 [PLAY MODE/PROGRAM SET] キーを押します。  
プレイ・リストを登録する画面に変わります。

```
PROGRAM SET
TOTAL TIME: 000m00s
[PN][TN][NAME] [TIME]
▼ 01 -----
<PLAY MODE>:ALL
<SAVE>
<ALL CLEAR>
```

- 2) [ENTER/YES] キーを押します。  
プレイ・リストに選曲する画面に変わります。

```
PROGRAM SET▶TRACK SEL
TOTAL TIME: 000m00s
[TN][NAME] [TIME]
▼ 01 SCENE_001.w... 3:08
02 SCENE_002.w... 2:51
03 SCENE_003.w... 4:27
04 SCENE_004.w... 6:04
```

- 3) [MENU] ダイアルで希望の曲を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
選択した曲が、プレイ・リスト 01 に登録されます (下記図はファイル 03 の登録例です)

```
PROGRAM SET▶TRACK SEL
TOTAL TIME: 000m00s
[TN][NAME] [TIME]
01 SCENE_001.w... 3:08
02 SCENE_002.w... 2:51
◆ 03 SCENE_003.w... 4:27
04 SCENE_004.w... 6:04
```

```
PROGRAM SET
TOTAL TIME: 004m27s
[PN][TN][NAME] [TIME]
▼ 01 03 SCENE_0... 4:27
02 -----
<PLAY MODE>:ALL
<SAVE>
```

<注意> : 登録を間違えた場合は、上記のように反転している状態で [CLEAR/+10] キーを押すと削除できます ( 60 ページ )

- 4) [MENU] ダイアルでカーソルを “ 02 ” へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
前回と同様、プレイ・リストに選曲する画面に変わります。

```
PROGRAM SET
TOTAL TIME: 004m27s
[PN][TN][NAME] [TIME]
01 03 SCENE_0... 4:27
◆ 02 -----
<PLAY MODE>:ALL
<SAVE>
```

```
PROGRAM SET▶TRACK SEL
TOTAL TIME: 004m27s
[TN][NAME] [TIME]
▼ 01 SCENE_001.w... 3:08
02 SCENE_002.w... 2:51
03 SCENE_003.w... 4:27
04 SCENE_004.w... 6:04
```

- 5) 操作-3と同様、登録したい曲を選択して、**[ENTER/YES]** キーを押します。  
 選択した曲がプレイ・リスト02に登録されます。引き続き、同じ要領で再生したい曲をプレイ・リストに登録していきます。

<リスト間に挿入するには>

例として、下記リスト・ナンバー PN 01 とPN 02の間に、他の曲を挿入する場合は、リスト・ナンバー 02にカーソルを移動して **[ENTER/YES]** キーを押します。

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 019m19s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
▼	01	03 SCENE_0...	7:08
	02	01 SCENE_0...	4:25
	03	05 SCENE_0...	3:21
	04	02 SCENE_0...	4:25

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 019m19s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
	01	03 SCENE_0...	7:08
⇨	02	01 SCENE_0...	4:25
	03	05 SCENE_0...	3:21
	04	02 SCENE_0...	4:25

PROGRAM SET▶TRACK SEL			
TOTAL TIME: 004m27s			
[TN]	[NAME]	[TIME]	
▼	01	SCENE_001.w...	3:08
	02	SCENE_002.w...	2:51
	03	SCENE_003.w...	4:27
	04	SCENE_004.w...	6:04

前述同様、セレクト一覧画面から挿入したい曲を選択して **[ENTER/YES]** キーを押すと、PN 01の後に新たな曲が挿入されます。

下記画面は、リスト 01 と 02 の間にトラック・ナンバー 04 (SCENE\_004.wav) を挿入した場合の例です。

PROGRAM SET▶TRACK SEL			
TOTAL TIME: 004m27s			
[TN]	[NAME]	[TIME]	
	01	SCENE_001.w...	3:08
	02	SCENE_002.w...	2:51
	03	SCENE_003.w...	4:27
⇨	04	SCENE_004.w...	6:04

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 025m23s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
▼	01	03 SCENE_0...	7:08
→	02	04 SCENE_0...	6:04
	03	01 SCENE_0...	4:25
	04	05 SCENE_0...	3:21

なお、一旦セーブしたリストに挿入したときは、再セーブの操作が必要です。

プレイ・リストの登録がすべて終了したら、つぎの操作で、プレイ・モードを設定します。

- 6) **[MENU]** ダイアルでカーソルを“<PLAY MODE>”へ移動して、**[ENTER/YES]** キーを押します。

現在設定されているプレイ・モードが点滅し、設定可能になります (初期設定: ALL)。

ここで設定するプレイ・モードは、PROGRAM PLAYモード内でのみ機能し、“ALL”または“SINGLE”が選択できます。

“ALL”: プレイ・リストの先頭から連続再生  
 “SINGLE”: 選択した曲のみを再生

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 019m19s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
	04	02 SCENE_0...	4:25
	05	---	---
⇨	<PLAY MODE>:ALL		
	<SAVE>		

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 019m19s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
	04	02 SCENE_0...	4:25
	05	---	---
	<PLAY MODE>:ALL		
	<SAVE>		

- 7) **[MENU]** ダイアルでプレイ・モードを選択して、**[ENTER/YES]** キーを押します。

選択したプレイ・モードが設定され、一つ前の画面に変わります。

- 8) **[MENU]** ダイアルでカーソルを“<SAVE>”に移動して、**[ENTER/YES]** キーを押します。

登録処理を終了した後、登録画面に入る前のHome画面に変わります。

PROGRAM SET			
TOTAL TIME: 019m19s			
[PN]	[TN]	[NAME]	[TIME]
	05	---	---
	<PLAY MODE>:ALL		
⇨	<SAVE>		
	<ALL CLEAR>		

0m		00s		000ms		TOTAL		
TRK-01 SCENE_001.wav								
→ ALL PLAY								
01	02	03	04	05	06	07	08	F.S
09	10	11	12	13	14	15		4B
								BIT
								24

作成したプレイ・リストを確認するには、**[PLAY MODE/PROGRAM SET]** キーを押していき、“PROGRAM PLAY”モードの画面に切り換えます。

0m		00s		000ms		TOTAL		
TRK-03 SCENE_003.wav								
→ PROGRAM PLAY								
03	01	05	02				F.S	
								4B
								BIT
								24

作成したプレイ・リストは本体メモリーに保存されます。そのため、再度このディスクを本機にロードしてPROGRAM PLAYモードに切り替えると、自動的に上記画面が表示されます。



## MEMORY PLAY モードによる再生

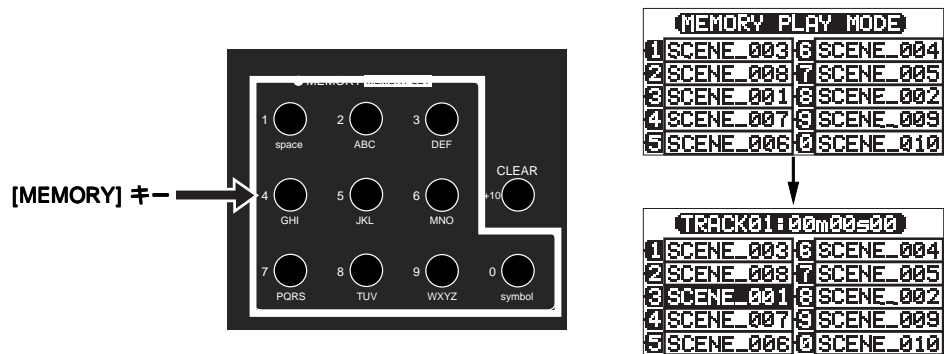
MEMORY PLAY モードの画面が表示されている状態では、メモリー・ナンバーと同じ番号の [MEMORY] キーを押すと、本体メモリーに登録された曲のインスタント・スタートを実行します。PROGRAM PLAY モードでは、インスタント・スタートの再生開始時間と終了時間を任意に設定できます。MEMORY PLAY モードを実行するには、事前にプレイ・リストの登録が必要です（下記参照）。

MEMORY PLAY MODE			
1	SCENE_003	6	SCENE_004
2	SCENE_008	7	SCENE_005
3	SCENE_001	8	SCENE_002
4	SCENE_007	9	SCENE_009
5	SCENE_006	0	SCENE_010

< MEMORY PLAY モードの画面 >

### MEMORY PLAY モード（インスタント・スタート）の実行

上記 MEMORY PLAY モードの画面が表示されている状態でメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キーを押すと、選択したメモリー・ナンバーに登録されているオーディオ・データのインスタント・スタートを実行します。下記画面は、[MEMORY] キーの [3/DEF] を押した場合の例です。



<注意>：MEMORY PLAY モードでは他のプレイ・モードと異なり、リピート機能やオート・プレイ機能は機能しません。

<注意>：MEMORY PLAY に必要なオーディオ・データのメモリー情報は、本体のシステム・メモリーに最大ディスク 100 枚分記録することが可能です。しかし、それ以上のメモリー情報を登録したときは、最も古いメモリー情報を削除し、自動的に新しい情報に書き換えられます。なお、システム・メモリーから削除されたメモリー情報が設定されているディスクを再ロードすると、そのメモリー情報は最新情報として再度システム・メモリーに記録されます。

<注意>：MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Sys Initial Memorie>”を実行することで、全てのメモリー情報が初期化されます（80 ページ）。



## メモリー・データの登録

下記操作は、ディスクに複数のWAVファイルが記録されたディスクがロードされていることを前提にしています。CD-DAのディスクでも同じ要領で登録できます。

- 1) [PLAY MODE/PROGRAM SET] キーを押しているとき、MEMORY PLAYモードに切り換えます。  
メモリー・データが何も登録されていない状態を示す画面に変わります。下記画面は、MENUモードの“PLAY SETUP”メニューにある“Play Mode”の設定でも表示できます( 81 ページ)。

MEMORY PLAY MODE	
1	6
2	7
3	8
4	9
5	0

- 2) [SHIFT] キーを押してShiftモードをオンにした後、メモリーしたい番号と同じ[MENU]キーを押します。  
例として、[MEMORY]キーの[1/space]を押すと、メモリー1にオーディオ・ファイルを登録するための画面に変わります。

MEMORY PLAY MODE	
1	6
2	7
3	8
4	9
5	0

MEMORY1 SET	
[TNO]	--
[NAME]	-----
[START]	--m--s---ms
[END]	--m--s---ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

- 3) “[TNO]”が反転している状態で、[ENTER/YES]キーを押します。  
オーディオ・ファイルを選択するための画面になり、現在ディスクに記録されているオーディオ・ファイル一覧が表示されます。

MEMORY1 SET	
[TNO]	--
[NAME]	-----
[START]	--m--s---ms
[END]	--m--s---ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

MEMORY1 SET TRACK SEL		
[TN]	[NAME]	[TIME]
01	SCENE_001.w...	3:28
02	SCENE_002.w...	5:04
03	SCENE_003.w...	2:30
04	SCENE_004.w...	7:16
05	SCENE_005.w...	1:55

- 4) [MENU]ダイヤルで希望のオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES]キーを押します。  
選択したオーディオ・ファイルがメモリー1にエントリーされ、“<SAVE>”が反転する画面に変わります。  
“<SAVE>”は、登録したメモリー内容を保存すること示しています。

MEMORY1 SET TRACK SEL		
[TN]	[NAME]	[TIME]
01	SCENE_001.w...	3:28
02	SCENE_002.w...	5:04
03	SCENE_003.w...	2:30
04	SCENE_004.w...	7:16
05	SCENE_005.w...	1:55

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<<SAVE>>	<CLEAR>

**<注意>**：セーブする前に、メモリー・ネームを編集したり、再生開始時間/終了時間を編集することが可能ですが、ここでは、メモリー・ネームや再生開始時間/終了時間は、すべて初期設定のまま登録していきます。  
メモリー・ネームの編集や、再生開始時間/終了時間の編集については、この後の説明を参照してください。

- 5) “<SAVE>”が反転している状態で [ENTER/YES]キーを押します。  
登録が完了した画面に変わります。

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<<SAVE>>	<CLEAR>

MEMORY PLAY MODE	
1	SCENE_003
2	-----
3	-----
4	-----
5	-----

同じ要領で操作を繰り返し、他のメモリー・ナンバーにも希望のオーディオ・ファイルを登録していきます。ディスク1枚で最大10個登録できます。

下記画面は、メモリー1～メモリー0までランダムに登録した場合の例です（CD-DAのディスクでは、Track01などのメモリー・ネームを初期値として表示します）。

MEMORY PLAY MODE	
1 SCENE_003	6 SCENE_004
2 SCENE_008	7 SCENE_005
3 SCENE_001	8 SCENE_002
4 SCENE_007	9 SCENE_009
5 SCENE_006	0 SCENE_010

**<注意>**：登録可能なメモリー数は、1枚のディスクあたり最大10個まで登録が可能で、登録したディスクを再ロードすることで、自動的にメモリー内容が呼び出されます。

本体フラッシュ・メモリーには最大ディスク100枚分のメモリー情報が保存できます。もし、メモリー数が100を超えるときは、最も過去に登録されたデータが削除され、代わりに新しいディスクの情報が登録されます。

## メモリー・データの置き換え

登録されているメモリー内容を、他のオーディオ・ファイルに置き換えます。

ここからの操作は、登録済みのMEMORY PLAYモード画面が立ち上がっていることを、前提としています。

- 1) [SHIFT] キーを押してShiftモードをオンした後、編集したいメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キー を押します。

例として [MEMORY] キーの [1/space] を押すと、メモリー1の登録内容が表示されます。

MEMORY PLAY MODE	
1 SCENE_003	6 SCENE_004
2 SCENE_008	7 SCENE_005
3 SCENE_001	8 SCENE_002
4 SCENE_007	9 SCENE_009
5 SCENE_006	0 SCENE_010

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

- 2) “[TNO]” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

エントリーするオーディオ・ファイルを選択する画面に変わります。

MEMORY1 SET TRACK SEL		
[TN]	[NAME]	[TIME]
▼ 01	SCENE_001.w...	3:28
02	SCENE_002.w...	5:04
03	SCENE_003.w...	2:30
04	SCENE_004.w...	7:16
05	SCENE_005.w...	1:55

- 3) [MENU] ダイアルで希望のオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

メモリー1のデータが、新たに選択したオーディオ・ファイルに置き換えられます。

他のメモリー内容を置き換えるには、同様の操作を行います。

- 4) 置き換え終了後、[MENU] ダイアルでカーソルを “<SAVE>” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

変更したメモリー・データが再保存された後、MEMORY PLAYモードの画面に変わります。

**<注意>**：編集した内容を反映させるには、必ず上記セーブを実行してください。

## メモリー・ネームの編集

メモリー・ネームを編集します。ここからの操作は、登録済みのMEMORY PLAYモード画面が立ち上がっていることを前提にしています。

- 1) [SHIFT] キーを押してShiftモードをオンにした後、編集したいメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キーを押します。

例として [MEMORY] キーの [1/space] を押すと、メモリー1の登録情報が表示されます。

MEMORY PLAY MODE	
1 SCENE_003	6 SCENE_004
2 SCENE_008	7 SCENE_005
3 SCENE_001	8 SCENE_002
4 SCENE_007	9 SCENE_009
5 SCENE_006	0 SCENE_010

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

- 2) [MENU] ダイアルでカーソルを “[NAME]” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在表示しているネームの右端が点滅して、編集可能になります。

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

点滅

- 3) 10キー/[MENU] ダイアルで希望のネームを入力します。

カーソルは [SKIP/CURSOR] キーで移動し、点滅している箇所です。10キー/[MENU] ダイアルでネームを入力します。また、左端が点滅している状態で [CLEAR/+10] キーを押していくと、すべてのネームが削除できます。

- 4) 入力後 [ENTER/YES] キーを押します。編集したネームに置き換えられます。

- 5) 編集後 [MENU] ダイアルでカーソルを “<SAVE>” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

登録の変更されたMEMORY PLAYモードの画面に変わります。

<注意> : 編集した内容を反映させるには、必ず上記セーブを実行してください。

## 再生開始時間 / 終了時間を入力して編集

任意のタイム・データを入力して、再生開始時間 / 終了時間を編集します。また、再生開始時間 / 終了時間を編集するには、デジタル・スクラブで微調整しながら編集することも可能です (次ページ参照)。ここからの操作は、登録済みのMEMORY PLAYモード画面が立ち上がっていることを、前提にしています。

- 1) [SHIFT] キーを押してShiftモードをオンにした後、編集したいメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キーを押します。

例として [MEMORY] キーの [1/space] を押すと、メモリー1の登録情報が表示されます。

MEMORY PLAY MODE	
1 SCENE_003	6 SCENE_004
2 SCENE_008	7 SCENE_005
3 SCENE_001	8 SCENE_002
4 SCENE_007	9 SCENE_009
5 SCENE_006	0 SCENE_010

MEMORY1 SET	
[TNO]	03
[NAME]	SCENE_003
[START]	00m00s000ms
[END]	02m30s223ms
<SCRUB-S>	<SCRUB-E>
<SAVE>	<CLEAR>

- 2) [MENU] ダイアルでカーソルを “[START]” または “[END]” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

再生開始時間を編集するときは “[START]” を選択し、再生終了時間を編集するときは “[END]” を選択します。

## &lt; “[START]” を選択した例 &gt;

```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```

```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```

点滅

## &lt; “[END]” を選択した例 &gt;

```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```

```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```

点滅

- 3) 10キー / [MENU] ダイアルで希望の値を入力します。

カーソルは [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーで移動でき、点滅している箇所 で値を入力します。また、[CLEAR/+10] キーを押すと、“00m 00s 000ms” にリセットできます。

- 4) 入力後 [ENTER/YES] キーを押します。編集した開始時間（または終了時間）に置き換えられます。

- 5) 編集後 [MENU] ダイアルでカーソルを “<SAVE>” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

登録の変更された MEMORY PLAY モードの画面に変わります。

<注意>：編集した内容を反映させるには、必ず上記セーブを実行してください。

## デジタル・スクラブで微調整して、再生開始時間 / 終了時間を編集

デジタル・スクラブ機能を使って、再生開始時間 / 終了時間を編集します。ここからの操作は、登録済みの MEMORY PLAY モード画面が立ち上がっていることを、前提にしています。

- 1) [SHIFT] キーを押して Shift モードをオンした後、編集したいメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キーを押します。

例として [MEMORY] キーの [1/space] を押すと、メモリー1の登録情報が表示されます。

```

MEMORY PLAY MODE
1 SCENE_003 6 SCENE_004
2 SCENE_003 7 SCENE_005
3 SCENE_001 8 SCENE_002
4 SCENE_007 9 SCENE_009
5 SCENE_008 0 SCENE_010

```

```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```

- 2) [MENU] ダイアルでカーソルを “<SCRUB-S>” または “<SCRUB-E>” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

再生開始時間を調整するには “<SCRUB-S>” を選択し、再生終了時間を調整するには “<SCRUB-E>” を選択します。

[ENTER/YES] キーを押すと下記例の画面になり、登録されているオーディオ・データ(波形)が表示されます。

この状態で [MENU] ダイアルを操作すると、デジタル・スクラブしながら最適なポイントの微調整が行なえます。画面中の “ ” が再生開始ポイント（または再生終了ポイント）を示しています

## &lt; “&lt;SCRUB-S&gt;” の選択例 &gt;

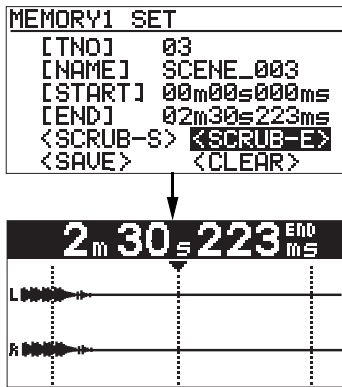
```

MEMORY1 SET
[TNO] 03
[NAME] SCENE_003
[START] 00m00s000ms
[END] 02m30s223ms
<SCRUB-S> <SCRUB-E>
<SAVE> <CLEAR>

```



< “<SCRUB-E>” の選択例 >



- 3) [MENU] ダイアルでスクラブしながら開始ポイント(または終了ポイント)を調整します。

発音ポイントにスクラブしたときは、モニター音が出力されます。

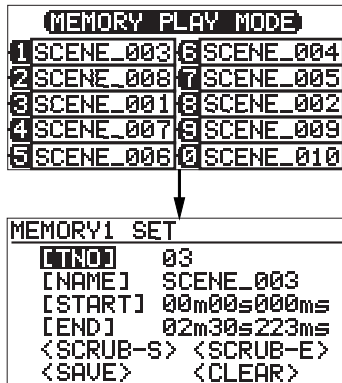
- 4) 開始ポイント(または終了ポイント)の調整後、[ENTER/YES] キーを押します。  
調整した開始ポイント(または終了ポイント)の時間が、新たな開始時間(終了時間)として置き換えられ、画面の“[START]”(または“[END]”)部分に表示されます。
- 5) 編集後カーソルを“<SAVE>”に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
登録の変更された MEMORY PLAY モードの画面に変わります。

<注意> : 編集した内容を反映させるには、必ず上記セーブを実行してください。

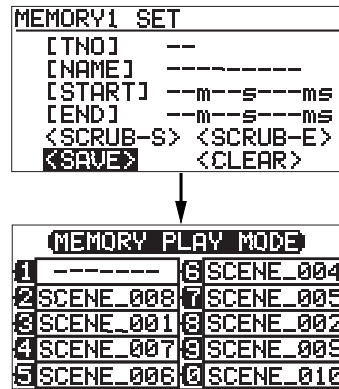
### 任意のメモリー・データを削除

登録済みのメモリー・データを削除します。ここからの操作は、登録済みの MEMORY PLAY モード画面が立ち上がっていることを、前提にしています(<注意> : 一気にすべてのメモリー・データは削除できません)。

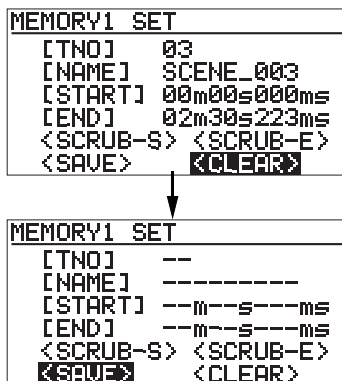
- 1) [SHIFT] キーを押してShiftモードをオンにした後、編集したいメモリー・ナンバーと同じ [MEMORY] キーを押します。  
例として [MEMORY] キーの [1/space] を押すと、メモリー1の登録情報が表示されます。



- 3) “<SAVE>” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
クリアした情報が登録され、MEMORY PLAY モードの画面に変わります。削除されたメモリー・ナンバーは、“-----” になります。



- 2) [MENU] ダイアルでカーソルを画面右下の“<CLEAR>”に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
メモリー1のデータがすべてクリアされ、カーソルが“<SAVE>”に移動します。



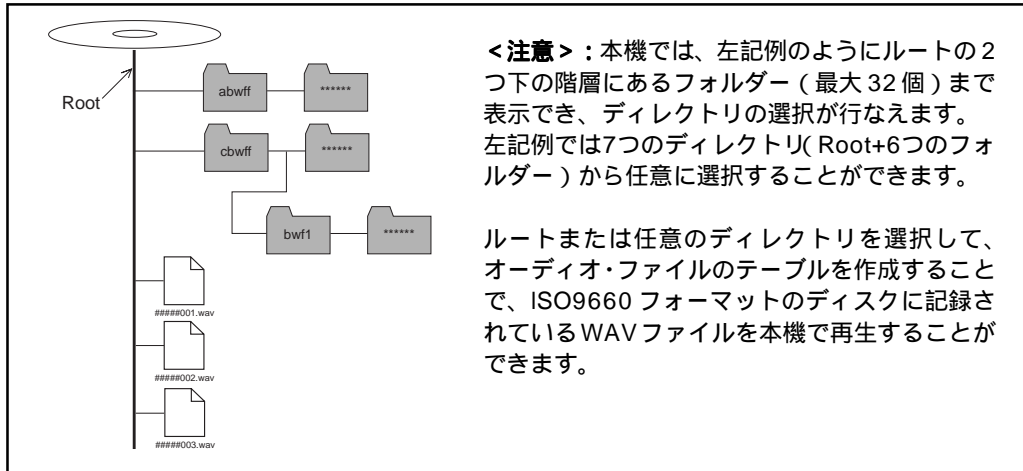
<注意> : 編集した内容を反映させるには、必ず上記セーブを実行してください。

クリアしたメモリー1に再度登録するには、前述と同じ要領で登録してください。

<注意> : 上記例のように登録されていないメモリー1のインスタント・スタートを実行しようとするとき、“Memory1 No Entry”が表示され、実行できないことを警告します。

## ISO9660 フォーマットディスクの再生

コンピュータでオーディオ・データ (WAV ファイル) を記録した ISO9660 フォーマットのディスクを本機にロードして、ルートまたはディレクトリを選択して本機で再生します。ここでの操作例は、下記図のような階層で記録された ISO9660 フォーマットのディスクを前提としています。



- 1) ISO9660フォーマットのディスクをトレイにセットして、クローズします。

ISO9660フォーマットのディスクであることを認識し、自動的に下記例のようなディレクトリのセレクト画面が立ち上がります。

```
DIRECTORY SEL
[ DIRECTORY NAME]
▼ <<Root>>
abwff
cbwff
bwf1
```

- 2) [MENU] ダイアルで、ルート (またはディレクトリ) を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

ルート (または選択したディレクトリ) のオーディオ・ファイル・テーブルが作成され、Home 画面に変わります。

```
DIRECTORY SEL
[ DIRECTORY NAME]
<<Root>>
◆ abwff
cbwff
bwf1
```

0 m 00 s 000					TOTAL
					MS
TRK-01	→ ALL PLAY				F.S
01	02	03	04	05	48
					BIT
					24

- 3) [PLAY] キーを押すと、作成されたファイル・テーブルの先頭から再生を開始します。本機で記録したディスクと同様、各種再生などが行なえます。

**<注意>** : 別のディレクトリ (またはルート) を選択するには、つぎのいずれかの操作を行ってください。

左記Home画面の状態、[SHIFT] キーを押して Shift モードを ON にした後、

[FILE SEL/ DIR SEL] キーを押します。

左記同様、ディレクトリのセレクト画面に変わり、任意に選択可能になります。

```
DIRECTORY SEL
[ DIRECTORY NAME]
▼ <<Root>>
abwff
cbwff
bwf1
```

左記Home画面の状態、[ENTER/YES] キーを押して MENU モードへ入った後、

[MENU] ダイアルで " DIRECTORY SEL ▶ " を選択して [ENTER/YES] キーを押します。

左記同様、ディレクトリのセレクト画面に変わり、任意に選択可能になります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
PLAY SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
FILE SEL ▶
◆ DIRECTORY SEL ▶
PROGRAM SET ▶
```

```
DIRECTORY SEL
[ DIRECTORY NAME]
▼ <<Root>>
abwff
cbwff
bwf1
```

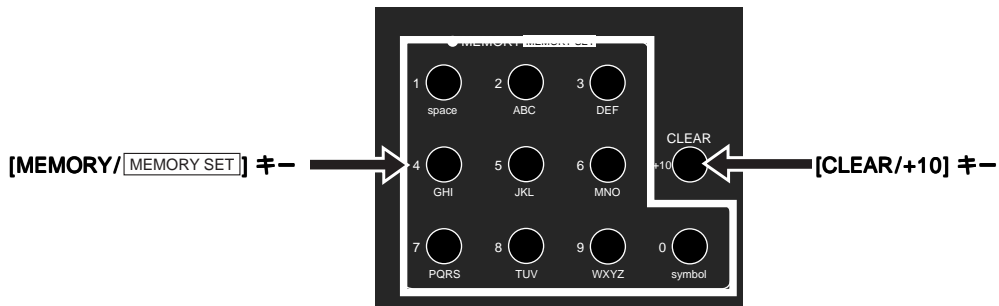
# ロケート/スキップ機能

本機には、多彩なスキップ/ロケート機能を搭載しており、用途に応じて使い分けができます。

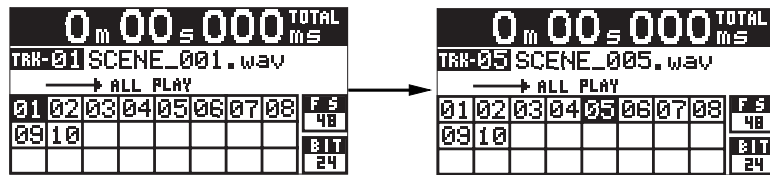
## オーディオ・ファイル（またはオーディオ・トラック）単位のロケート

CD-R/RWディスクに複数の曲（オーディオ・ファイルまたはオーディオ・トラック）が記録されているとき、速やかに再生したい曲の先頭にロケートできます。

停止状態で [MEMORY/MEMORY SET] キーの [0] ~ [9] キーを押すと、指定した曲の先頭へロケートします（10以上の曲を指定するときは [CLEAR/+10] キーも使用します）。

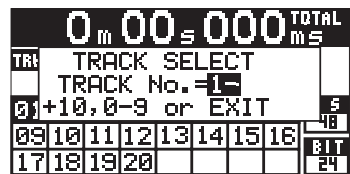


現在トラック1(01)がセレクトされている状態から [MEMORY/MEMORY SET] キーの [5/JKL] キーを押すと、トラック5 (05) の先頭にロケートした後自動的に再生します。

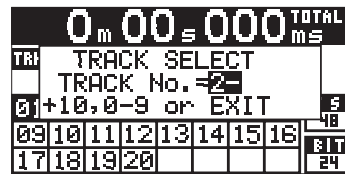


10以上のトラック・ナンバーにロケートする場合は、最初に [CLEAR/+10] キーを押した後に [MEMORY/MEMORY SET] キーの [1] ~ [0] を押します。

[CLEAR/+10] キーは一度押すとポップアップ表示に“1-”が表示され、二度押すと“2-”が表示されます。“1-”は10を示し、“2-”は20を示しており、押す回数ごとにアップしていきます。



[CLEAR/+10] キーを一度押した画面



[CLEAR/+10] キーを二度押した画面

つまり、10 ~ 19のトラックにロケートするには、[CLEAR/+10] キーを一度押した後に [MEMORY/MEMORY SET] キーの [0] ~ [9] を押し、20 ~ 29のトラックにロケートするには、[CLEAR/+10] キーを二度押した後に [MEMORY/MEMORY SET] キーの [0] ~ [9] を押します。

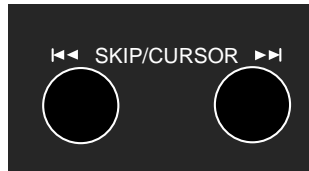
**<注意>**：ロケート動作は、プレイ・モードが“ALL PLAY”、“SINGLE PLAY”および“PROGRAM PLAY”モードのときのみ可能で、“MEMORY PLAY”モードのときはMEMORY PLAYの機能となります。

**<注意>**：MENUモードの“PLAY SETUP”メニューにある“Auto Playモード”が、初期設定で“On”になっているため、ロケート終了後自動的に再生を開始します。設定を変更するには84ページを参照してください。

## オーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)単位のスキップ

CD-R/RWディスクに複数の曲(オーディオ・ファイルまたはオーディオ・トラック)が記録されているとき、速やかに再生したい曲の先頭にスキップできます。

停止状態で [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを押すと、現在セレクトされている曲の前後にエントリーされている曲の先頭へスキップします( [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを押した回数、前後にスキップします)。再生したい曲を選択するときに便利です。



[SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キー

例として、現在1曲めがセレクトされている状態で [SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーを一度押すと、下記ポップアップ表示が点灯した後、2曲めの先頭へスキップします。

0 m 00 s 000 TOTAL ms									
TRK-01 SCENE_001.wav									
→ ALL PLAY									
01	02	03	04	05				F S	
								48	
								BIT	
								24	

0 m 00 s 000 TOTAL ms									
--SKIP TRACK--									
>>  TRACK No[02]									
01								F S	
								48	
								BIT	
								24	

0 m 00 s 000 TOTAL ms									
TRK-02 SCENE_002.wav									
→ ALL PLAY									
01	02	03	04	05				F S	
								48	
								BIT	
								24	

**<注意>** : プレイ・モードがEMORY PLAYモードになっていても、上記 [SKIP/CURSOR] キーでのスキップが実行できますが、メモリー・データをスキップしているのではなく、ALL PLAYモードにおけるスキップ動作となります。

**<ヒント>** : 再生中に上記スキップを実行すると、スキップした曲の先頭から自動的に再生を続けます。

## ABS タイムのロケート (Locate ABS 0 / Locate REC END)

停止状態で、[STOP/HOME] キーを押しながら [◀◀ REWIND] キーを押すと、ディスクの先頭 (ABS 0) へ速やかにロケート (Locate ABS 0) します。

また、停止状態で [STOP/HOME] キーを押しながら [▶▶ F FWD] キーを押すと、ディスクの最終記録位置 (REC END) へ速やかにロケート (Locate REC END) します。

**<注意>** : ABS タイムのロケートは、常にディスクの先頭(または最終記録位置)へロケートします。そのため、再生するオーディオ・ファイル(またはオーディオ・トラック)を個々にセレクトすることはできません。個々にセレクトするときは、[SKIP/CURSOR |◀◀▶▶|] キーでスキップするか、ファイル・セレクト機能をご利用ください( 51 ページ)。

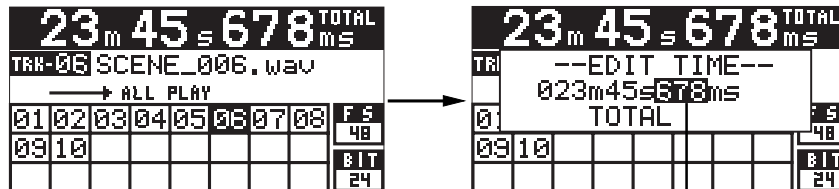


## 任意のタイム・データを入力してロケート

任意に指定するタイム・データのポジションへ、速やかにロケートします。  
 タイム・データを入力したロケートは、現在選択されているタイム表示によって、トータル時間またはトラック時間で実行できます。



- 1) 停止状態(または再生中)で、[SHIFT] キーを押して Shift モードを ON にした後、[LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押します。  
 現在の時刻がホールドされ、タイム・データのエディット・モードへ入ります。



点滅

<注意>: ホールドされるタイム・データは、現在表示されているタイム表示によってトータル時間、またはトラック時間が表示されます。上記画面は、トータル時間を表示しているときにエディット・モードに入った場合の例です。

- 2) [MENU] ダイアル(または 10 キー)で、希望のタイム・データを入力します。  
 カーソルは [SKIP/CURSOR] キーで移動できます。  
 [CLEAR/+10] キーを押すと、現在表示されているタイム・データを“000m 00s 000ms”にリセットできます。タイム・データは“000m 00s 000ms” ~ “999m 59s 999ms”の範囲で入力できます。

<注意>: 不適当なタイム・データを入力してロケートしようとする、“Out of Zone!”を表示して動作しません。正しいタイム・データを入力し直してください。

- 3) タイム・データを入力後、[LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押します。  
 入力したタイム・データのポジションへ、速やかにロケートを実行した後停止します。

<注意>: [LOCATE/[EDIT TIME]] キーでロケートしたタイム・データは、常に [LOCATE/[EDIT TIME]] キーにメモリーされます。そのため、再度 [LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押すことで、メモリーされたタイム・データへロケートすることができます。ただし、異なるタイム・データにエディットして [LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押すと、メモリーされているタイム・データは置き換えられます。

<注意>: [LOCATE/[EDIT TIME]] キーで一度もロケートしたことがないときは、[LOCATE/[EDIT TIME]] キーを押すと常にディスクの先頭へロケートして停止します。

# 第7章 MENU モード

## 目次

<b>MENUモードについて</b> .....	<b>72</b>
<b>SYS SETUPメニューの詳細</b> .....	<b>73</b>
SYS SETUPメニューの選択 / 設定手順.....	74
デフォルト・ファイル・ネームの設定( Default File Name ).....	75
入力信号の設定( Select Input ).....	76
デジタル出力のフォーマット設定( Digital Out ).....	77
ピークホールド時間の設定( Peak Hold ).....	77
リファレンス・レベルの設定( Ref. Level ).....	78
USBキーボードのタイプ設定( Keyboard Sel ).....	78
SYS SETUPデータの保存( Sys User Save ).....	79
SYS SETUPデータのロード( Sys User Load ).....	79
セットアップ・データの初期化( Sys Default Set ).....	80
フラッシュ・メモリーの初期化( Sys Initial Memory ).....	80
ROMバージョンの確認( Version ).....	81
<b>PLAY SETUPメニューの詳細</b> .....	<b>82</b>
PLAY SETUPメニューの設定手順.....	82
プレイ・モードの設定( Play Mode ).....	83
リピート・モードの設定( Repeat ).....	83
オートプレイ・モードのON/OFF設定( Auto Play ).....	84
パワーオン時のオートプレイ設定( Power On Play ).....	84
<b>DISK UTILITYメニューの詳細</b> .....	<b>85</b>
ディスクのフォーマット( Format ).....	86
ファイル・システムの再保存( Rewrite File Sys ).....	88
ファイル・ネームの編集( Edit File Name ).....	89
不要なオーディオ・ファイルの削除( Delete File ).....	90
削除したオーディオ・ファイルの復活( Restore Del. File ).....	91
ディスクのファイナライズ( Finalize ).....	92

# MENU モードについて

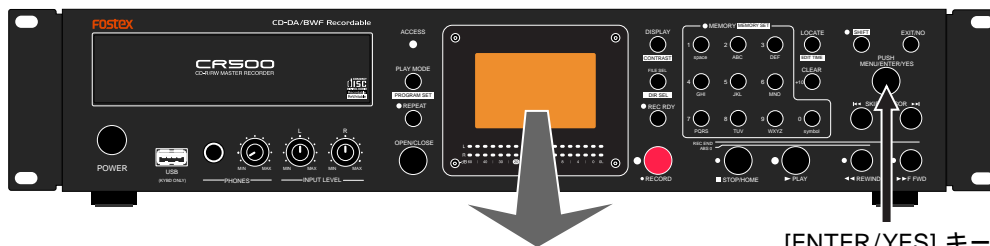
MENU モードには、CR500 をご使用いただく上で必要な各種設定メニューや、実行メニューが搭載されています。

本機が停止状態で [ENTER/YES] キーを押すと MENU モードへ入り、下記メイン・メニューを選択する画面が表示されます。

MENU モードには6つのメイン・メニューがあり、[MENU] ダイアルで任意に選択できます。

ここでは、メイン・メニューの“SYS SETUP”メニュー、“PLAY SETUP”メニューおよび“DISK UTILITY”メニューについて記載しています。

その他のメイン・メニューについては、下記表の「参照ページ」に記載してありますので、そちらをお読みください。



[ENTER/YES] キー / [MENU] ダイアル

メイン・メニュー名	機能の詳細
<b>SYS SETUP</b>	CR500の動作環境を設定するメニューで、12のサブ・メニューで構成されています（次ページからを参照）。
<b>PLAY SETUP</b>	CR500の再生モードを設定するメニューで、4つのサブ・メニューで構成されています。サブ・メニューの“Play Mode”および“Repeat”の設定は、操作パネルにある [PLAY MODE] キーおよび [REPEAT] キーの操作でも設定できます。
<b>DISK UTILITY</b>	記録メディア（CD-R/RWディスク）に関する実行メニューで、6つのサブ・メニューで構成されています。ディスクのフォーマット、ファイル・システムの再保存、オーディオ・ファイルのネーム編集、さらには不要なオーディオ・ファイルを削除したり、削除したオーディオ・ファイルの復元が実行できます（注：CD-DAのディスクではネームの変更 / 削除 / 復元が行なえません）。
<b>FILE SEL</b>	再生するオーディオ・ファイル（またはオーディオ・トラック）を選択するメニューです。このメニューは、操作パネルにある [FILE SEL] キーを押すことでも、直接入ることができます（51ページ）。
<b>DIRECTORY SEL</b>	ルートの2つ下の階層までのフォルダーを表示し、希望のディレクトリーを選択するメニューです。このメニューは、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL] キーを押すことでも、直接入ることができます（67ページ）。
<b>PROGRAM SET</b>	プログラム・プレイを実行するためのプレイ・リストを作成するメニューです。このメニューは、ShiftモードをONにした後 [PLAY MODE] キーを押すことでも、直接入ることができます（58ページ）。

## SYS SETUP メニュー

SYS SETUPメニューは12のサブ・メニューで構成されていて、本機が初期設定の状態では各サブ・メニューは下記表の項目に設定されています。

### <注意>

ここでは、下記12のサブ・メニューのうち“ Adjust RTC ”を除く11のサブ・メニューについて記載しています。“ Adjust RTC ”の詳細については14ページ記載の「リアルタイム・クロックの設定」をお読みください。

サブ・メニュー名	設 定 項 目		初期設定値
Default file name	File name mode	Date、Take、Reel	Take
	Scene Name	最大19文字まで入力可能	SCENE
	Take Number	001 ~ 999	001
Select input	Analog、Digital		Analog
Digital out	AES/EBU、S/P DIF		AES/EBU
Peak hold	0sec ~ 9sec		3sec
Ref. level	-12dB、-20dB		-12dB
Keyboard Sel	US、JAPAN		US
Sys User Save	SYS SETUP、PLAY SETUP内のSystem Memoryをセーブ		-
Sys User Load	セーブしたUser Memoryをロード		-
Sys Default Set	SYS SETUP、PLAY SETUP内のSystem Memoryを初期化		-
Sys Initial Memory	System Memoryの初期化、 および本体フラッシュ・メモリー情報を削除		-
Adjust RTC	‘ **Y **M **D **h **m **s		工場出荷時
Version	本機ROMバージョンの確認		工場出荷時

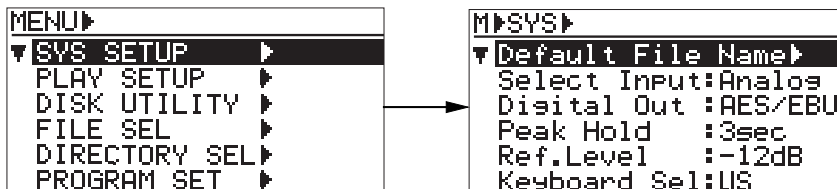
## SYS SETUP メニューの選択 / 設定手順

選択するサブ・メニューによって異なりますが、下記操作手順で設定（または実行）することができます。下記操作は、未記録または記録済みのCD-R/RWディスクが、ドライブにセットされていることを前提にしています。

- 1) **本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。**  
MENUモードへ入り、MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。  
初めてMENUモードに入ったときは、下記画面のように“SYS SETUP ▶”が反転します。



- 2) **“SYS SETUP ▶”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。**  
SYS SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります（初期設定では“Default file name ▶”が反転します）。

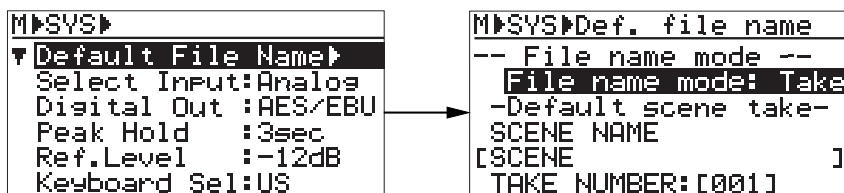


- 3) **[MENU] ダイヤルで希望のサブ・メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。**  
選択したサブ・メニューの第2階層画面に変わります。

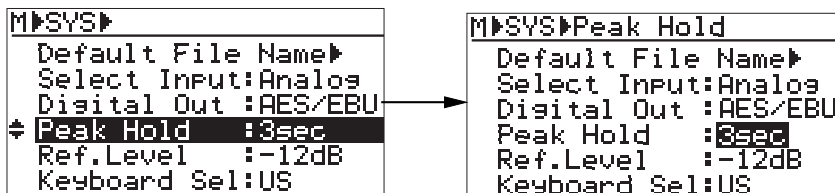
“▶”マークの付いたメニューを選択したときは次の階層へ進み、“▶”マークの付いていないメニューでは現在の設定項目が点滅し、第1階層画面上で設定ができます。

具体的な設定については次ページからを参照してください。

### 複数の階層で構成されているサブ・メニューの選択例（次の階層へ進みます）



### 第1階層画面上で設定するサブ・メニューの選択例（現在の設定項目が点滅）



[EXIT/NO] キーを押すと一つ前の階層へ戻り、更に押し続けるとMENUモードから抜け出すことができます。また、[STOP/HOME] キーを押すと、一気にMENUモードから抜け出せます。

## デフォルト・ファイル・ネームの設定 (Default file name)

BWFでフォーマットしたディスクへ記録するとき、自動的に作成されるオーディオ・ファイルのデフォルト・ファイル・ネームを設定します。デフォルト・ファイル・ネームには、日付(内蔵RTCのデータ)のネーム、Scene NameにTake Numberを付加したネーム、またはReel Numberにファイル・ナンバーを付加したいずれかのネームに設定できます(注:CD-DAのディスクに記録するときは機能しません)。

### File Name Mode の設定

サブ・メニューから“Default File Name ▶”を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、次の階層画面に変わります。

```

M▶SYS▶
▼ Default File Name▶
Select Input: Analog
Digital Out : AES/EBU
Peak Hold   : 3sec
Ref. Level  : -12dB
Keyboard Sel: US
  
```

→

```

M▶SYS▶Def. file name
-- File name mode --
File name mode: Take
-Default scene take-
SCENE NAME
[SCENE          ]
TAKE NUMBER:[001]
  
```

続けて [ENTER/YES] キーを押すと、現在設定されている File name mode が点滅して変更可能になります。初期設定では“Take”が点滅し、[MENU] ダイヤルで“Take”以外に“Date”または“Reel”が選択できます。File name mode の選択後 [ENTER/YES] キーを押して決定します。

```

M▶SYS▶Def. file name
-- File name mode --
File name mode: Take
-Default scene take-
SCENE NAME
[SCENE          ]
TAKE NUMBER:[001]
  
```

→

```

M▶SYS▶Def. file name
-- File name mode --
File name mode: Take
-Default scene take-
SCENE NAME
[SCENE          ]
TAKE NUMBER:[001]
  
```

“Take”に設定したときは、次の“Default scene take”設定へ進みます(注意:“Date”または“Reel”に設定したときは、“Default scene take”を設定しても反映されません)。

<b>Date</b>	内蔵リアルタイムクロックのデータが、ファイル・ネームに設定されます。 (例): B05h 05m 06s 10may 2006.wav など。
<b>Take</b>	次項“Default scene take”で設定する、SCENE NAME + TAKE NUMBER がファイル・ネームに設定されます。(例): SCENE_001.wav、SCENE_002.wav など。
<b>Reel</b>	フォーマット時に設定する Reel Number (=Vol.Label) + ファイル・ナンバーが、ファイル・ネームに設定されます。(例): 123_001.wav、Test_002.wav など。

### Default scene take (SCENE NAME / TAKE NUMBER) の設定

File name mode を“Take”に設定した場合、SCENE NAME と TAKE NUMBER を設定します。[MENU] ダイヤルで“SCENE NAME [SCENE]”を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、SCENE NAME の右端が点滅し、任意に SCENE NAME が入力できます。カーソルは [SKIP CURSOR ◀▶▶▶] キーで移動し、[MENU] ダイヤルまたは10キーで文字 / 記号を入力した後、[ENTER/YES] キーを押して SCENE NAME を決定します。

```

M▶SYS▶Def. file name
-- File name mode --
File name mode: Take
-Default scene take-
SCENE NAME
[SCENE          ]
TAKE NUMBER:[001]
  
```

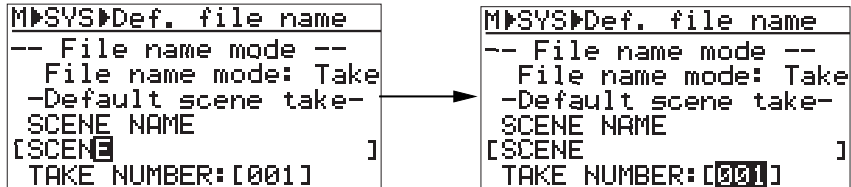
→

```

M▶SYS▶Def. file name
-- File name mode --
File name mode: Take
-Default scene take-
SCENE NAME
[SCENE          ]
TAKE NUMBER:[001]
  
```

<b>SCENE NAME</b>	アルファベットで始まる ASCII 文字で、最大 19 文字の入力が可能です。拡張子 “wav” は自動的に付加されるため、入力する必要はありません。
-------------------	---

SCENE NAME の設定後 [ENTER/YES] キーを押すと、自動的にカーソルが TAKE NUMBER の “001” に移動し、TAKE NUMBER が入力可能になります。同じ要領で [MENU] ダイアルまたは 10 キーで TAKE NUMBER を入力した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



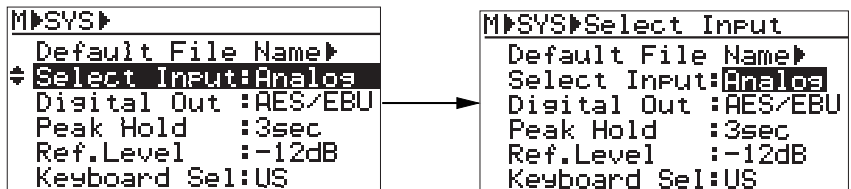
<b>TAKE NUMBER</b>	001 ~ 999 の範囲で入力が可能 (注意: 000 を入力しても 001 に設定されます)。
--------------------	---

MENU モードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## 入力信号の設定 (Select input)

記録時の入力信号 (アナログまたはデジタル) を設定します。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

サブ・メニューから “Select Input” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります (初期設定では “Analog” が点滅します)。  
[MENU] ダイアルで “Analog” または “Digital” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>Analog</b>	[ANALOG INPUT] (Balance or Unbalance) 端子が有効となり、アナログ・オーディオ信号が記録できます (初期設定)。
<b>Digital</b>	[DIGITAL INPUT] 端子が有効となり、デジタル・オーディオ信号が記録できます。

MENU モードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

設定内容は、インプットモニター画面 ([REC RDY] キーを ON) 下のステータス部 (下記矢印部分) に表示されます。

< “Analog” 設定の表示例 >

```

0 m 00 s 000 TOTAL
ms
TRK-
NEXT-R SCENE_001.wav
DISC-R 73m22s 90trks
REC MD 48/24WAV INPUT ANALOG
                    
```

< “Digital” 設定の表示例 >

```

0 m 00 s 000 TOTAL
ms
TRK-
NEXT-R 01
DISC-R 73m22s 90trks
CS: 1000040005
REC MD 44/16CD-D0 INPUT DIGITAL
                    
```

## デジタル出力のフォーマット設定 (Digital out)

[DIGITAL OUTPUT] 端子から出力する、デジタル・オーディオ信号のフォーマット (AES/EBU または S/P DIF) を設定します。

サブ・メニューから “**Digital Out**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります (初期設定では “**AES/EBU**” が点滅します)。

[MENU] ダイアルで “**AES/EBU**” または “**S/P DIF**” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。

<pre> MPSYS▶ Default File Name▶ Select Input:Analog Digital Out :AES/EBU Peak Hold   :3sec Ref.Level   :-12dB Keyboard Sel:US         </pre>	→	<pre> MPSYS▶Digital Out Default File Name▶ Select Input:Analog Digital Out :AES/EBU Peak Hold   :3sec Ref.Level   :-12dB Keyboard Sel:US         </pre>
--	---	---

<b>AES/EBU</b>	IEC 60958 (AES/EBU)フォーマットの、デジタル・オーディオ信号を出力します。
<b>S/P DIF</b>	IEC 60958 (S/P DIF)フォーマットの、デジタル・オーディオ信号を出力します。

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## ピークホールド時間の設定 (Peak hold)

レベル・メータの、ピーク・ホールド時間を設定します。

サブ・メニューから “**Peak hold**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります (初期設定では “**3sec**” が点滅します)。

[MENU] ダイアルで希望のホールド時間を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。

<pre> MPSYS▶ Default File Name▶ Select Input:Analog Digital Out :AES/EBU Peak Hold   :3sec Ref.Level   :-12dB Keyboard Sel:US         </pre>	→	<pre> MPSYS▶Peak Hold Default File Name▶ Select Input:Analog Digital Out :AES/EBU Peak Hold   :8sec Ref.Level   :-12dB Keyboard Sel:US         </pre>
--	---	---

0 ~ 9 秒の範囲で 1 秒ステップで設定可能 (初期設定 : 3 秒)

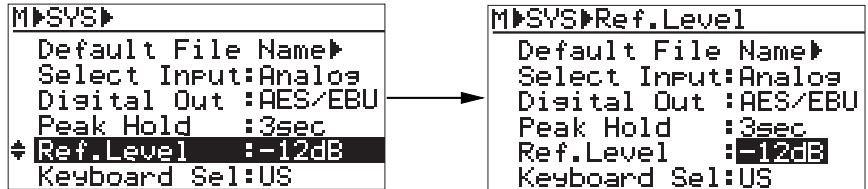
MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。



## リファレンス・レベルの設定 (Ref. Level)

本機入力の、リファレンス・レベルを設定します。リファレンス・レベルは初期設定で“-12dB”に設定されており、用途に応じて“-20dB”に設定が可能です。

サブ・メニューから“**Ref. Level**”を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では“-12dB”が点滅します）。  
 [MENU] ダイアルで“-12dB”または“-20dB”を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



“-12dB”または“-20dB”に設定可能（初期設定：-12dB）

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

設定内容は、フロント・パネルのレベル・メーター部に表示されます。

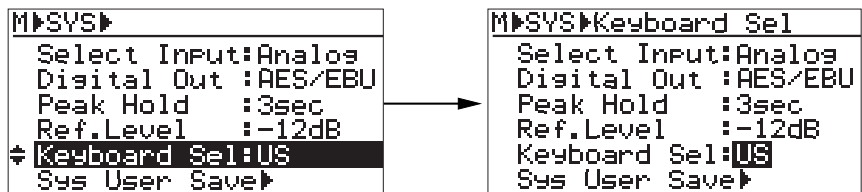
“-12dB”設定時赤く点灯します

“-20dB”設定時赤く点灯します

## USB キーボードのタイプ設定 (Keyboard Sel)

本フロント・パネル部の [USB (KYBD ONLY)] ポートに接続する、USB キーボードのタイプ（US または JAPAN）を設定します。

サブ・メニューから“**Keyboard Sel**”を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では“**US**”が点滅します）。  
 [MENU] ダイアルで希望のタイプを選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>US</b>	US 仕様の USB キーボードが使用できます（初期設定）。
<b>JAPAN</b>	JAPAN 仕様の USB キーボードが使用できます。

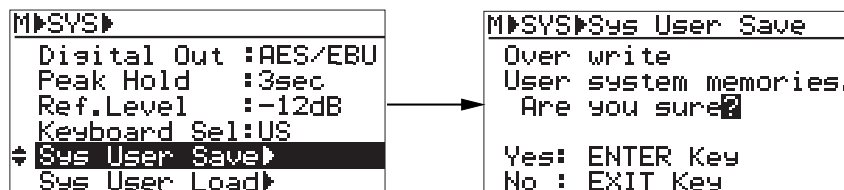
MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## SYS SETUP データの保存 (Sys User Save)

現在設定されている SYS SETUP データ、および PLAY SETUP データを、ユーザー・メモリーに保存します。保存した SYS SETUP データ / PLAY SETUP データは、用途に応じて次項 “ Sys User Load ” でロードすることが可能です。

サブ・メニューから “ **Sys User Save ▶** ” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の SYS SETUP データ / PLAY SETUP データを保存するかどうかを訊ねる画面に変わります (“ Are you sure? ” の “ ? ” が点滅します)。

保存を実行するには [ENTER/YES] キーを押し、保存しないときは [EXIT/NO] キーを押します。



**<注意>** : ユーザー・メモリーには、下記セットアップ・データが保存されます。

SYS SETUP :	( 1 ) File Name Mode	( 2 ) Select Input	( 3 ) Peak Hold Time
	( 4 ) Ref. Level	( 5 ) Keyboard Sel	( 6 ) Digital Out
PLAY SETUP :	( 1 ) Play Mode	( 2 ) Repeat	( 3 ) Auto Play
	( 4 ) Power On Play		

コントラスト・レベル

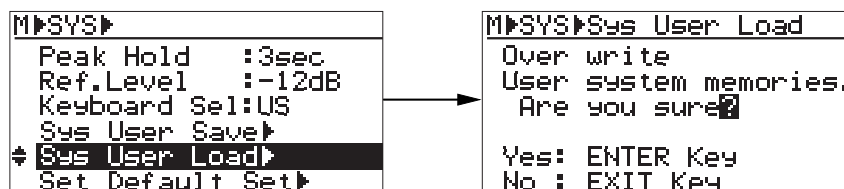
MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## SYS SETUP データのロード (Sys User Load)

ユーザー・メモリーに保存したセットアップ・データを、用途に応じてロードします。

サブ・メニューから “ **Sys User Load ▶** ” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、ユーザー・メモリーのデータに書き換えするか、しないかを尋ねる下記画面に変わります (“ Are you sure? ” の “ ? ” が点滅します)。

書き換えを実行するには [ENTER/YES] キーを押し、実行しない場合は [EXIT/NO] キーを押します。



**<注意>** : 後述の “ Sys Default Set ” (システム・メモリーの初期化) または “ Sys Initial Memory ” (フラッシュ・メモリーの初期化) を実行すると、セーブされていたセットアップ・データは初期化されるため “ Sys User Load ” を実行してもセットアップ・データはロードされません。

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

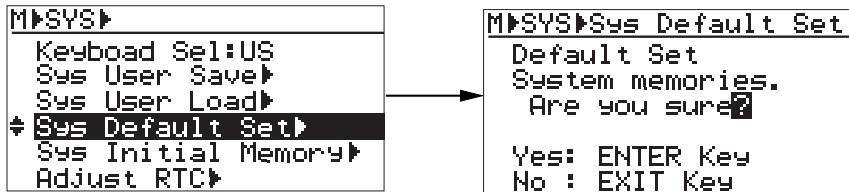
## System Memory データの初期化 (Sys Default Set)

SYS SETUP および PLAY SETUP メニュー内のセットアップ・データを、工場出荷時の初期値に設定し直します。

サブ・メニューから “**Sys Default Set ▶**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、初期化の実行を確認する画面に変わり、“Are you sure?” の “?” が点滅します。

初期化を実行するには [ENTER/YES] キーを押し、イニシャライズを中止するには [EXIT/NO] キーを押します。

[ENTER/YES] キーを押すと、初期化が実行されて一つ前の画面に変わります。



**<注意>** : 下記セットアップ・データが初期値に設定されます。

<b>SYS SETUP :</b>	( 1 ) File Name Mode	( 2 ) Select Input	( 3 ) Peak Hold Time
	( 4 ) Ref. Level	( 5 ) Keyboard Sel	( 6 ) Digital Out
<b>PLAY SETUP :</b>	( 1 ) Play Mode	( 2 ) Repeat	( 3 ) Auto Play
	( 4 ) Power On Play		
<b>コントラスト・レベル</b>	<b>ユーザー・メモリー</b>		

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

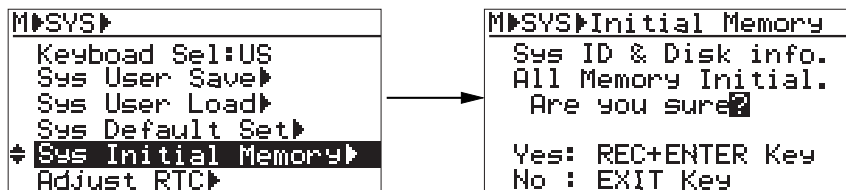
## フラッシュ・メモリーの初期化 (Sys Initial Memory)

全てのSystem Memory、“PROGRAM PLAY”を実行するためのプレイ・リスト、“MEMORY PLAY”を実行するためのメモリー・データなどのディスク情報など、本機フラッシュ・メモリーのデータを削除し、工場出荷時の初期値に設定し直します。

サブ・メニューから “**Sys Initial Memory ▶**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、イニシャライズの実行を確認する画面に変わり、“Are you sure?” の “?” が点滅します。

イニシャライズを実行するには、[RECORD] キーを押しながら [ENTER/YES] キーを押し、イニシャライズを中止するには [EXIT/NO] キーを押します。

[RECORD] キーを押しながら [ENTER/YES] キーを押すと、イニシャライズが実行されて一つ前の画面に変わります。



**<注意>** : 下記セットアップ・データが初期値に設定されます。

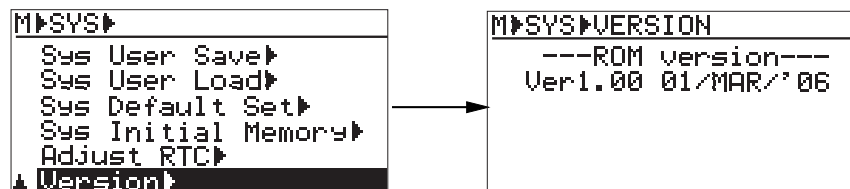
<b>SYS SETUP :</b>	( 1 ) File Name Mode	( 2 ) Select Input	( 3 ) Peak Hold Time
	( 4 ) Ref. Level	( 5 ) Keyboard Sel	( 6 ) Digital Out
<b>PLAY SETUP :</b>	( 1 ) Play Mode	( 2 ) Repeat	( 3 ) Auto Play
	( 4 ) Power On Play		
<b>MEMORY PLAY データ</b>	<b>PROGRAM PLAY のプレイ・リスト</b>	<b>コントラスト・レベル</b>	
<b>ユーザー・メモリー</b>			

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## ROM バージョンの確認 (Version)

本機搭載 ROM の、バージョンを確認します。

サブ・メニューから “ **Version ▶** ” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、本機に搭載されている ROM のバージョンが表示され、確認することができます。



MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## PLAY SETUP メニュー

PLAY SETUP メニューは4つのサブ・メニューで構成されていて、本機が初期設定の状態では各サブ・メニューは下記表の項目に設定されています。

サブ・メニュー名	実行項目	初期設定
Play Mode	プレイモードを設定します。 この設定は、操作パネルの [PLAY MODE] キーでも可能です ( 54 ページ )。	ALL
Repeat	リピートモードの ON/OFF を設定します。 この設定は、操作パネルの [REPEAT] キーでも可能です。	Off
Auto Play	[MEMORY] キーを使ってロケートした後、自動的に再生を開始するかしないかを設定します。	On
Power On Play	パワーオン時設定されているプレイモードで自動的に再生を開始するかしないかを設定します。	Off

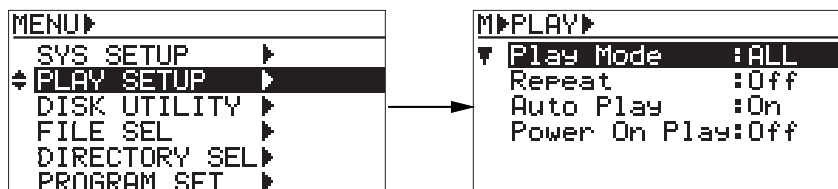
## PLAY SETUP メニューの設定手順

PLAY SETUP メニューにおいては、全てのサブ・メニューが下記操作方法で設定できます。

- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードへ入り、MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [MENU] ダイアルで“PLAY SETUP ▶”を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。  
PLAY SETUP メニューのサブ・メニューが選択可能な画面に変わります。



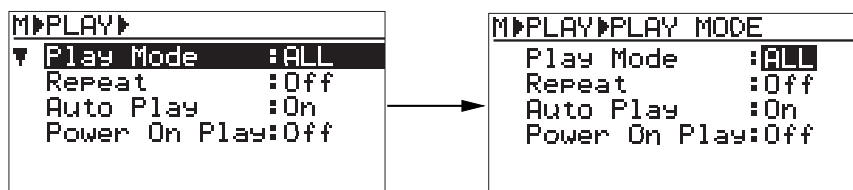
- 3) [MENU] ダイアルでサブ・メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定項目が点滅して、[MENU] ダイアルで選択可能になります。
- 4) [MENU] ダイアルで設定項目を選択し、[ENTER/YES] キーを押して決定します。

## プレイ・モードの設定 (Play Mode)

本機のプレイ・モードを設定します。

**<注意>**：この設定は、操作パネルにある [PLAY MODE/[PROGRAM SET]] キーでも行なえます。  
[PLAY MODE] キーで設定されたプレイ・モードは、自動的に Play Mode 設定画面にも反映されます。

サブ・メニューから “**Play Mode**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では “**ALL**” が点滅しますが、MENU モードに入る前に [PLAY MODE/[PROGRAM SET]] キーで設定されているプレイ・モードが点滅します）。  
[MENU] ダイアルで “**ALL**”、“**SINGLE**”、“**PROGRAM**” または “**MEMORY**” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>ALL</b>	プレイ・モードを “ALL PLAY” に設定します。
<b>SINGLE</b>	プレイ・モードを “SINGLE PLAY” に設定します。
<b>PROGRAM</b>	プレイ・モードを “PROGRAM PLAY” に設定します。 ただし、プレイ・リストが登録されていないときは設定は無視され、“ALL” に設定されます。
<b>MEMORY</b>	プレイ・モードを “MEMORY PLAY” に設定します。

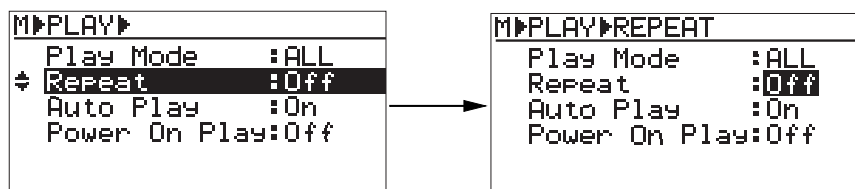
MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## リピート・モードの設定 (Repeat)

リピート・モード（繰り返し再生）のON/OFFを設定します。

**<注意>**：この設定は、操作パネルにある [REPEAT] キーでも行なえます。  
[REPEAT] キーの操作で設定されたON/OFFは、自動的に Repeat 設定画面にも反映されます。

サブ・メニューから “**Repeat**” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では “**Off**” が点滅しますが、MENU モードに入る前に [REPEAT] キーで設定されているリピート・モードの状態が点滅します）。  
[MENU] ダイアルで “**Off**” または “**On**” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>On</b>	現在設定されているプレイ・モードの動作を、停止させるまで繰り返し再生します。
<b>Off</b>	現在設定されているプレイ・モードの動作が終了すると停止します（初期設定）。

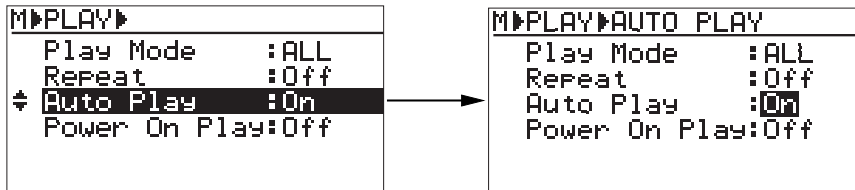
MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## オートプレイ・モードのON/OFF設定 (Auto Play)

停止中または再生中、[MEMORY] キーでロケートを実行して終了後、自動的に再生を開始するか、しないかを設定します。初期設定では、自動的に再生を開始するようになっています。

<注意>：初期設定の状態では、停止中 [SKIP/CURSOR] キーでスキップしたりファイル・セレクトを実行しても、自動的に再生することなく、スキップ（またはセレクト）した曲の先頭で停止します。ただし、再生中に行った場合は、スキップ（またはセレクト）した曲の先頭から再生を続けます。なお、“Locate ABS 0” 実行時では、オート・プレイは機能しません。

サブ・メニューから “Auto Play” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では “On” が点滅します）。  
[MENU] ダイアルで “Off” または “On” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>On</b>	ロケート / サーチ動作の終了後、自動的に再生を開始します（初期設定）。
<b>Off</b>	ロケート / サーチ動作の終了後、停止します。

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

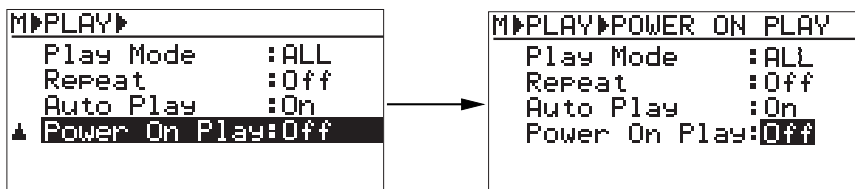
## パワーオン時のオートプレイ設定 (Power On Play)

ディスクがセットされている状態で本機の電源をオンしたとき、自動的に再生を開始するかしないかを設定します。

<注意>：この設定がONになっている状態で電源をオンすると、前回電源をオフする前に設定されていたプレイ・モードで自動的に再生を開始します。例えば、前回 “PROGRAM PLAY” モードになっていた状態で電源がオフされていた場合、電源をオンすると “PROGRAM PLAY” モードで再生を開始します。

<注意>：“Power On Play” が “On” に設定されていても、電源投入後 “MEMORY PLAY” モードの画面が立ち上がった場合は、自動的に再生されることはありません。

サブ・メニューから “Power On Play” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定項目が点滅して任意に選択可能になります（初期設定では “Off” が点滅します）。  
[MENU] ダイアルで “Off” または “On” を選択した後、[ENTER/YES] キーを押して決定します。



<b>On</b>	電源をオンすると、自動的に現在設定されているプレイ・モードで再生を開始します。
<b>Off</b>	電源をオンしても、停止した状態で立ち上がります（初期設定）。

MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

## DISK UTILITY メニュー

DISK UTILITY メニューは6つのサブ・メニューで構成されていて、ディスクのフォーマットやオーディオ・ファイルに関する編集などが実行できます。

サブ・メニュー名	実行項目
<b>Format</b>	CD-R/RW ディスクの初期フォーマット / 再フォーマットを実行します。 記録済みの CD-R ディスクは再フォーマットできません。
<b>Rewrite File Sys</b>	BWF モードのディスクに記録されたオーディオ・ファイル(WAVファイル)において、ファイル・ネームの編集やファイルの削除 / 復活など編集後のファイル・システムを再保存します (CD-DA のディスク、およびファイナライズした BWF のディスクでは機能しません)。
<b>Edit File Name</b>	BWF モードのディスクに記録されたオーディオ・ファイル(WAVファイル)のファイル・ネームを編集して、再保存します (CD-DA のディスク、およびファイナライズした BWF のディスクでは機能しません)。
<b>Delete File</b>	BWF モードのディスクに記録されたオーディオ・ファイル(WAVファイル)の中から、不要になった WAV ファイルを削除します (CD-DA のディスク、およびファイナライズした BWF のディスクでは機能しません)。
<b>Restore Del. File</b>	ファイナライズ処理前の、BWF モードのディスクから削除したオーディオ・ファイル(WAVファイル)を復元します (CD-DA のディスク、およびファイナライズした BWF のディスクでは機能しません)。
<b>Finalize</b>	BWF / CD-DA で記録した CD-R/RW ディスクをファイナライズします。 ファイナライズされた CD-DA ディスクは、他の CD プレーヤーで再生が可能になります (注意: CD-DA の CD-RW ディスクは、CD プレーヤーの機種によっては再生できない場合もあります)。



## ディスクのフォーマット (Format)

フォーマット済み (または未フォーマット) の CD-R/RW ディスクを、フォーマットします。

**<注意>** : 未フォーマットの CD-R/RW ディスクをロードしたときは、自動的に “Format” メニューの第二階層画面に入ります。詳細は 18 ページ 「ご使用になる前の準備」 を参照してください。

**<注意>** : 再フォーマットできるのは、以下の CD-R/RW ディスクです。

- (1) BWF または CD-DA で初期フォーマットした、未記録の CD-R/RW ディスク。
- (2) BWF または CD-DA で初期フォーマットした、記録済みの CD-RW ディスク。  
記録済みの CD-R ディスクは、再フォーマットすることはできません。

- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
└─SYS SETUP ▶
  PLAY SETUP ▶
  DISK UTILITY ▶
  FILE SEL ▶
  DIRECTORY SEL ▶
  PROGRAM SET ▶
    
```

- 2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY ▶” を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITY メニューのサブ・メニューが表示され、初めて DISK UTILITY メニューに入ったときは “Format ▶” が反転します。

```

MENU▶
  SYS SETUP ▶
  PLAY SETUP ▶
  ──DISK UTILITY ▶
  FILE SEL ▶
  DIRECTORY SEL ▶
  PROGRAM SET ▶
    
```

```

M▶DISK▶
└─Format▶
  Rewrite File Sys▶
  Edit File Name▶
  Delete File▶
  Restore Del.File▶
  Finalize▶
    
```

- 3) “Format ▶” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
フォーマットに必要な設定画面に変わります。  
この画面では、ディスクのボリューム・ラベル (=Reel Number) と、フォーマット・タイプ (BWF または CD-DA) を設定することができます。

ボリューム・ラベルは、BWF でフォーマットしたディスクに記録する際、オーディオ・ファイルのデフォルト・ファイル・ネームに利用できますので、必要に応じて設定することをお勧めします。

ボリューム・ラベルの編集が必要無い場合は、フォーマット・タイプの設定にお進みください。

```

M▶DISK▶
└─Format▶
  Rewrite File Sys▶
  Edit File Name▶
  Delete File▶
  Restore Del.File▶
  Finalize▶
    
```

```

M▶DISK▶Format
Vol.Label=[*****]
Audio format type
           =CD-DA

[EXECUTE]
[EXIT]
    
```

- 4) [MENU] ダイアルでカーソルを画面上の “Vol. Label” へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されているボリューム・ラベルの右端が点滅し、編集が可能になります。

```

M▶DISK▶Format
Vol.Label=[*****]
Audio format type
           =CD-DA

[EXECUTE]
[EXIT]
    
```

```

M▶DISK▶Format
Vol.Label=[*****]
Audio format type
           =CD-DA

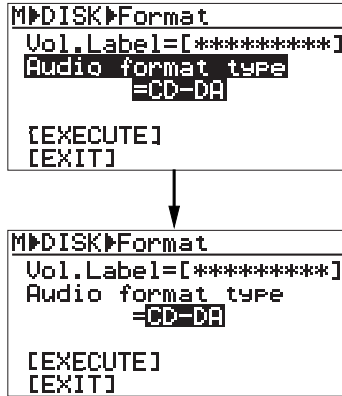
[EXECUTE]
[EXIT]
    
```

- 5) 10 キー、または [MENU] ダイアルで、ボリューム・ラベルを入力します。  
カーソルが点滅している箇所での文字 / 数字などが入力でき、カーソルは [SKIP/CURSOR ◀▶▶▶] キーで移動できます。  
また、[CLEAR/+10] キーを押すと、カーソル位置の文字 / 記号がクリアできます。

6) 入力終了後、[ENTER/YES] キーを押してボリューム・ラベルを決定します。

7) [MENU] ダイアルでカーソルを “ Audio format type ”へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します。

初期設定の “ CD-DA ”が点滅して、フォーマット・タイプが選択可能になります。



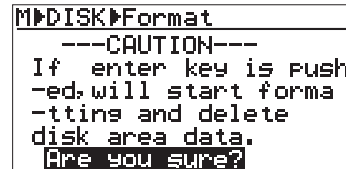
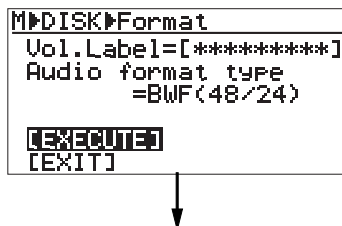
フォーマット・タイプは、初期設定の “ CD-DA ” 以外に “ BWF ” が選択できます。オーディオ CD を作成するには “ CD-DA ” を選択し、WAVファイルを記録するには記録するFS/BITに合わせて、“ BWF ”のいずれかを選択します（下記表を参照）

CD-DA ( 初期設定 ) : 44.1kHz/16Bit
BWF (44.1/16) : 44.1kHz/16Bit
BWF (44.1/24) : 44.1kHz/24Bit
BWF (48/16) : 48kHz/16Bit
BWF (48/24) : 48kHz/24Bit
BWF (88.2/24) : 88.2kHz/24Bit
BWF (96/24) : 96kHz/24Bit

8) [MENU] ダイアルで希望のフォーマット・タイプを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

9) 続いて [MENU] ダイアルでカーソルを “ [EXECUTE] ”へ移動して、[ENTER/YES] キーを押します（フォーマットしないときは “ [EXIT] ” を選択します）

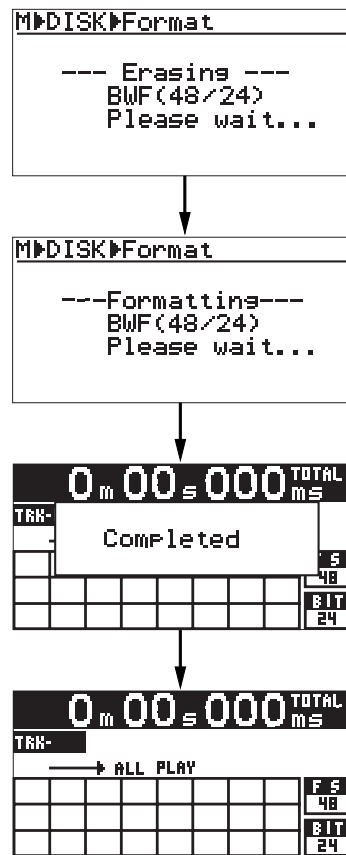
下記警告画面にvari、“ Are you sure? ” が点滅します。これは、ディスクを再フォーマットすると、ディスクに記録されているデータが削除されることを警告しています。中止するときは [EXIT/NO] キーを押してください。



10) [ENTER/YES] キーを押して、フォーマットを実行します。

BWFタイプで再フォーマットしたときは、下記例のようにデータをイレースした後フォーマットへ進みます。また、CD-DAタイプで再フォーマットしたときは、イレースのみを行います。

フォーマット（またはイレース）が終了すると “ Completed ” が点灯した後、MENUモードから抜け出して Home 画面に変わります。

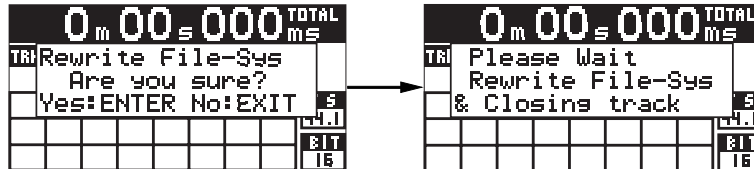


<注意> : フォーマット後、異なったフォーマット・タイプでやり直するときには、同じ操作を繰り返してください。

## ファイル・システムの再保存 (Rewrite File Sys)

ファイル・システムの再保存を実行するメニューで、BWFでフォーマットしたディスクのみ機能します（注意：CD-DAでフォーマットしたディスク、およびファイナライズしたBWFのディスクでは、このメニューに入ることができません）。BWFのディスクに記録したオーディオ・ファイル（WAVファイル）に対して、ファイル・名の編集、ファイルの削除、または削除したファイルの復活など、UDFファイル・システム上で編集を行った場合、必ずこのメニューで再保存が必要です。

<注意>：ファイル・システム上で編集を行った後、再保存しないままディスクを取り出そうとすると、Home画面上に下記ポップアップ表示が点灯し、再保存の実行を警告します。  
[ENTER/YES]キーを押すと再保存の処理画面にvari、終了後ディスクがイジェクトされます。



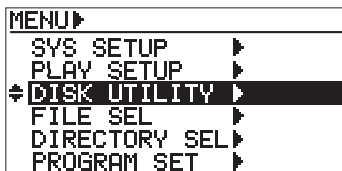
上記画面が表示されたとき [EXIT/NO]キーを押すと、再保存しないままディスクがイジェクトされます。ただし、再保存しないまま取り出したディスクは、ファイル・システム上で行った編集内容は無効となり、編集前の状態になります。

<注意>：“Rewrite File Sys”を実行するごとに、記録可能なトラック数とディスクの記録可能な領域（リメイン）が消費されます。そのため、“Rewrite File Sys”はすべてのファイル編集が終了した後に実行してください。

- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

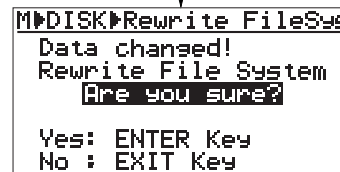


- 2) [MENU]ダイヤルで“DISK UTILITY ▶”を反転させて、[ENTER/YES]キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューが表示され、初めてDISK UTILITYメニューに入ったときは“Format ▶”が反転します。



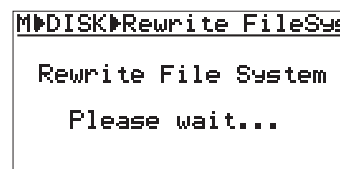
- 3) [MENU]ダイヤルで“Rewrite File Sys ▶”を反転させて、[ENTER/YES]キーを押します。

下記画面にvari、 “Are you sure?” が点滅します。再保存するには [ENTER/YES] キーを押し、再保存しないときは [EXIT/NO] キーを押すことを示しています。



<注意>：再保存済みや編集のない状態で [ENTER/YES] キーを押すと、“No data changed!”が点灯し、CD-DAのディスクでは“Void”が点灯します。

- 4) [ENTER/YES] キーを押して、再保存を実行します。  
下記処理中の画面にvari、終了後Home画面に変わります。



## ファイル・ネームの編集 (Edit File Name)

BWF のディスクに記録したオーディオ・ファイル (WAV ファイル) の、ファイル・ネームを編集して再保存します (注: CD-DA のディスク、およびファイナライズした BWF のディスクでは機能しません)。

**<注意>** : ファイル・ネームを編集した場合は、前述の “Rewrite File Sys” で、ファイル・システムの再保存を必ず実行してください。ただし、“Rewrite File Sys” を実行することで、記録可能なトラック数とディスクの記録可能な領域 (リメイン) が減少します。そのため、“Rewrite File Sys” は極力全てのファイル編集が終了した後に実行してください。なお、再保存しないままディスクをイジェクトしようとする、イジェクトする段階で再保存の要求が画面に表示されます (前ページ参照)。

- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。

MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
▼SYS SETUP ▶
PLAY SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
FILE SEL ▶
DIRECTORY SEL▶
PROGRAM SET ▶
  
```

- 2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY ▶” を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。DISK UTILITY メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
SYS SETUP ▶
PLAY SETUP ▶
◆DISK UTILITY ▶
FILE SEL ▶
DIRECTORY SEL▶
PROGRAM SET ▶
  
```

```

M▶DISK▶
▼Format▶
Rewrite File Sys▶
Edit File Name▶
Delete File▶
Restore Del.File▶
Finalize▶
  
```

- 3) [MENU] ダイアルで “Edit File Name ▶” を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。編集するオーディオ・ファイルを選択する画面に変わります。

```

M▶DISK▶
Format▶
Rewrite File Sys▶
◆Edit File Name▶
Delete File▶
Restore Del.File▶
Finalize▶
  
```

```

M▶DISK▶Edit File Name
[ NO] [NAME] [TIME]
▼01 SCENE_001.w... 3:32
02 SCENE_002.w... 8:10
03 SCENE_003.w... 3:25
04 SCENE_004.w... 4:30
05 SCENE_005.w...16:24
  
```

- 4) [MENU] ダイアルで編集するオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

選択したファイルの、ファイル・ネームが編集可能になります。

```

M▶DISK▶Edit File Name
---EDIT FILE NAME---
File No:01
[ SCENE_001].wav
  
```

- 5) 10キー、または [MENU] ダイアルで、ファイル・ネームを入力します。

カーソルが点滅している箇所まで文字 / 数字などが入力でき、カーソルは [SKIP/CURSOR] [◀▶▶▶] キーで移動できます。また、[CLEAR/+10] キーを押すと、カーソル位置から後の文字 / 記号がクリアできます。

**<注意>** : ファイル・ネームの拡張子 “.wav” は、編集したり削除しないでください。拡張子を編集したり削除したまま保存しようとする、 “Void” が点灯して入力する前の画面に戻ります。

- 5) 入力後 [ENTER/YES] キーを押します。入力したファイル・ネームが登録され、オーディオ・ファイルの選択画面に変わります。

- 6) MENU モードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。MENU モードに入る前の Home 画面に変わります。

## 不要なオーディオ・ファイルの削除 (Delete File)

BWFのディスクに記録したオーディオ・ファイル(WAVファイル)の中から、不要になったオーディオ・ファイルを削除します(注: CD-DAのディスク、およびファイナライズしたBWFのディスクでは機能しません)。

**<注意>** : オーディオ・ファイルを削除した場合は、前述の“Rewrite File Sys”で、ファイル・システムの再保存を必ず実行してください。ただし、“Rewrite File Sys”を実行することで、記録可能なトラック数とディスクの記録可能な領域(リメイン)が減少します。そのため、“Rewrite File Sys”は極力全てのファイル編集が終了した後に実行してください。なお、再保存しないままディスクをイジェクトしようとする、イジェクトする段階で再保存の要求が画面に表示されます(86ページ参照)。

**<注意>** : “Delete File”で削除したオーディオ・ファイルは、ディスク上に“Hidden File”(隠しファイル)として残っています。この“Hidden File”は、次項の“Restore Del. File”で復元することが可能です。

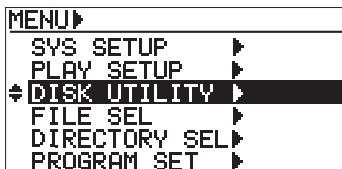
- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。

MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



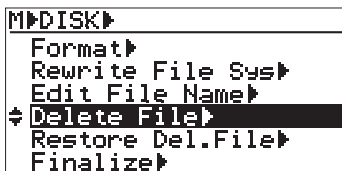
- 2) [MENU] ダイヤルで“DISK UTILITY ▶”を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。

DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで“Delete File ▶”を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。

削除したいオーディオ・ファイルを選択する画面に変わります。



- 4) [MENU] ダイヤルで削除したいオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

削除するか、しないかを尋ねる画面になり、“?” が点滅します。

削除するには [ENTER/YES] キーを押し、削除しないときは [EXIT/NO] キーを押します。



- 5) [ENTER/YES] キーを押して、削除を実行します。

選択したオーディオ・ファイルが削除され、ファイルの選択画面に変わります。

- 6) MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

MENUモードに入る前のHome画面に変わります。

**<注意>** : MENUモードに入る前にセレクトされていたオーディオ・ファイルを削除したときは、削除したファイルの後にエントリーされているファイルのHome画面に変わります。

## 削除したオーディオ・ファイルの復活 (Restore Del. File)

前述の“Delete File”で削除したオーディオ・ファイル(“Hidden File”としてディスク上に残っています)を、復活させます(注:CD-DAのディスク、およびファイナライズしたBWFのディスクでは機能しません)。

**<注意>**: 削除したオーディオ・ファイルを復活させた場合は、前述の“Rewrite File Sys”で、ファイル・システムの再保存を必ず実行してください。ただし、“Rewrite File Sys”を実行することで、記録可能なトラック数とディスクの記録可能な領域(リメイン)が減少します。そのため、“Rewrite File Sys”は極力全てのファイル編集が終了した後に実行してください。なお、再保存しないままディスクをイジェクトしようとする、イジェクトする段階で再保存の要求が画面に表示されます(86ページ参照)。

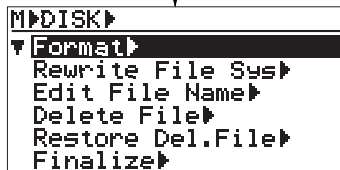
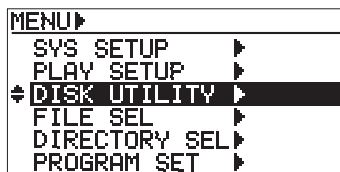
- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。

MENUモードのメイン・メニューを選択する画面になります。



- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY ▶”を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。

DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面になります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Restore Del. File ▶”を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。

削除したファイルを選択する画面になります。



[ NO ]	[ NAME ]	[ TIME ]
01	SCENE_001.w...	3:32
02	SCENE_002.w...	8:10
03	SCENE_003.w...	3:25

- 4) [MENU] ダイアルで復活させたいオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

復活処理を示す画面の後“Completed”が点灯し、削除されたオーディオ・ファイルの選択画面になります。

- 5) MENUモードから抜け出すには、[STOP/HOME] キーを押します。

MENUモードに入る前のHome画面になります。

## ディスクのファイナライズ (Finalize)

BWF/CD-DA で記録した CD-R/RW ディスクをファイナライズします。ファイナライズした CD-DA のディスクは、PC へ取り込んだり他の CD プレーヤーで再生が可能になります（**注意：CD-DA で記録した CD-RW ディスクは、CD プレーヤーで再生できない場合があります**）。なお、CD-DA で記録したディスクのファイナライズは、記録後ディスクをイジェクトしようとしたときでも行なえます（49 ページ）。

**<注意>** : CD-DA で記録した CD-R/RW ディスクをファイナライズ処理した場合、TOC (Table Of Contents) が記録されてディスクが閉じられるため、追記録は不可能になります。また、WAV ファイルを記録した CD-R/RW ディスクでも、このメニューを使ってファイナライズ処理すると、追記録やファイルの編集ができなくなりますので、ご注意ください。

- 1) 本機が停止している状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
└─SYS SETUP  ▶
  PLAY SETUP ▶
  DISK UTILITY▶
  FILE SEL   ▶
  DIRECTORY SEL▶
  PROGRAM SET▶
    
```

- 2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY ▶” を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITY メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
SYS SETUP  ▶
PLAY SETUP ▶
◆DISK UTILITY▶
FILE SEL   ▶
DIRECTORY SEL▶
PROGRAM SET▶
    
```

```

M▶DISK▶
└─Format▶
  Rewrite File Sys▶
  Edit File Name▶
  Delete File▶
  Restore Del.File▶
  Finalize▶
    
```

- 3) [MENU] ダイアルで “Finalize ▶” を反転させて、[ENTER/YES] キーを押します。  
“Are you sure?” が点滅する、警告画面に変わります。

```

M▶DISK▶
Format▶
Rewrite File Sys▶
Edit File Name▶
Delete File▶
Restore Del.File▶
▲Finalize▶
    
```

```

M▶DISK▶Finalize
---CAUTION---
If enter key is push
-ed, will start final
-izing and data can't
be added.
Are you sure?
    
```

- 4) [ENTER/YES] キーを押して、ファイナライズを実行します。  
ファイナライズ処理中を示す画面の後 “Completed” が点灯する画面に変わります。

```

M▶DISK▶Finalize
----- FINALIZING -----
Please wait...
    
```

```

M▶DISK▶Finalize
----- FINALIZING -----
Completed...
Push any keys
    
```

- 5) 画面の指示に従って、いずれかの操作キーを押します。  
MENU モードに入る前の Home 画面に変わります。

**<注意>** : ファイナライズした CD-R/RW ディスクに追記録しようとする、インプット・モニター画面上に下記ポップアップ表示が現れ、記録できないことを警告します。

```

Cannot record!
This disk is alr
-eady finalized.
    
```

## 第7章 製品の主な仕様



## CR500 の規格

### 入出力

\* 0dBu = 0.775Vrms、0dBV = 1Vrms

基準レベル：-12dBFS/-20dBFS (初期設定：-12dB、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Ref. level”で設定可能)

#### ANALOG INPUT L, R (バランス)

コネクタ	: XLR-3-31 タイプ (バランス、2 番ホット)
入力インピーダンス	: 10k 以上
基準入力レベル	: +4dBu
最大入力レベル	: +24dBu (-20dBFS)

#### ANALOG INPUT L, R (アンバランス)

コネクタ	: RCA ピンジャック
入力インピーダンス	: 10k 以上
基準入力レベル	: -10dBV
最大入力レベル	: +10dBV (-20dBFS)

#### ANALOG OUTPUT L, R (バランス)

コネクタ	: XLR-3-32 タイプ (バランス、2 番ホット)
適合負荷インピーダンス	: 10k 以上
基準出力レベル	: +4dBu
最大出力レベル	: +24dBu (-20dBFS)

#### ANALOG OUTPUT L, R (アンバランス)

コネクタ	: RCA ピンジャック
適合負荷インピーダンス	: 10k 以上
基準出力レベル	: -10dBV
最大出力レベル	: +10dBV (-20dBFS)

#### PHONES

コネクタ	: 6mm ステレオ・フォン・ジャック
適合負荷インピーダンス	: 8 以上
最大出力レベル	: 100mW (32 )

#### DIGITAL INPUT

コネクタ	: XLR-3-31 タイプ (バランス、2 番ホット)
入力フォーマット	: IEC60958 (S/P DIF) / IEC 60958 (AES/EBU)を自動判別

#### DIGITAL OUTPUT

コネクタ	: XLR-3-32 タイプ (バランス、2 番ホット)
出力フォーマット	: IEC60958 (S/P DIF) / IEC 60958 (AES/EBU)を MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Digital out” で設定

#### USB (USB キーボード接続用)

コネクタ	: USB Series A Receptacle、PC用キーボード・ポート キーボードは Default Scan Code が 2 を使用。
------	---

#### GPI (フェーダー・スタート用)

コネクタ	: 6mm フォーン・ジャック
------	-----------------

## 記録 / 再生

---

記録媒体	: ATAPI (E-IDE)規格の CD-R/RW ドライブ
サンプリング周波数 ( fs ) / 量子化 ( bit )	: fs 44.1kHz / 48kHz 16bit : fs 44.1kHz / 48kHz / 88.2kHz / 96kHz 24bit
記録トラック	: 2 (STEREO)
リファレンス・レベル	: -12dBFS/-20dBFS ( MENU モードで設定可能 )
ショックブルーフ機能	: 20 秒

## 性 能

---

\* ADC - DAC 間 ( fs: 48kHz 24bit、Ref: -12dBFS )

周波数特性 ( ADC - DAC 間 )	: 20Hz ~ 20kHz $\pm$ 1dB (fs 44.1/48kHz) : 20Hz ~ 40kHz $\pm$ 2dB (fs 88.2/96kHz)
S/N	: 100dB (Typical)
ダイナミック・レンジ ( 1kHz, -60dBFS )	: 100dB (Typical)
T. H. D. ( 1kHz, -1dBFS )	: 0.01% 以下

## 一 般

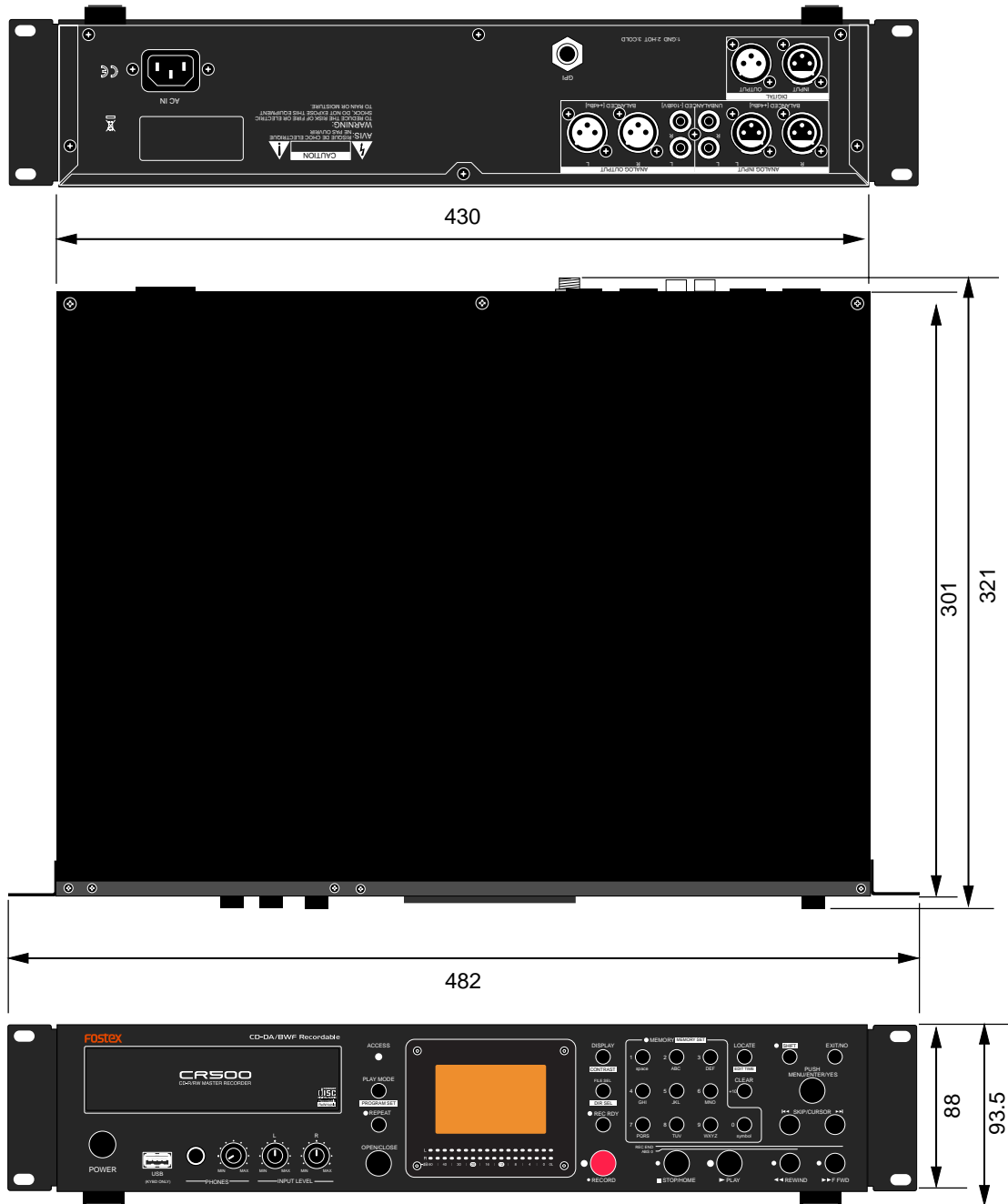
---

外形寸法	: 93.5 (H) $\times$ 482 (W) $\times$ 321 (D) mm (突出部含む)
本体質量	: 約 4.8kg
電源	: AC100V 50/60Hz
消費電力	: 約 14W

\* 製品の外観や規格は、改良のため将来予告なく変更することがあります。

\* 本書に記載されている会社名および製品名は、一般的に各社の商標または登録商標となっております。

外觀圖



# CR500 取扱説明書 (V1.10 対応 追補版)

本機ソフトウェアのバージョンアップ (V1.10) により、CD-DA の記録時に有効な「トラック・インクルメント機能」を追加しました (注意: BWF の記録時は機能しません)。

これは、CD-DA で記録中 [SHIFT] モードをオンにして [RECORD] キーを押すことで、新たなオーディオ・トラックを自動的に作成して記録する機能です。この機能を使うことで、ライブ録音のときなどに記録しながら曲ごとのオーディオ・トラックを作成することができます。

## <注意 (重要です!)>

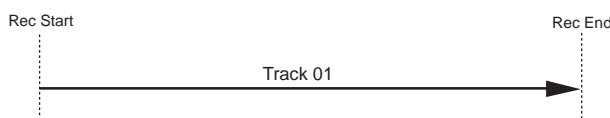
トラック・インクルメント機能を実行すると、曲間に約 100msec ミュート記録されます。そのため、この機能を使って作成したオーディオ CD を本機以外の CD プレーヤで再生すると、曲間にミュートがある状態で再生されます (ただし、CR500 で連続再生する場合は、ミュートがなくシームレスに再生されます)。そのため、ライブ録音などでこの機能を使うときは、必ず曲間や演奏の無い位置で実行するようにしてください。



<注意> : 記録中、SHIFT モードをオンにして [RECORD] キーを押すと、一旦 SHIFT モードがオフになります。複数のトラックを増やす場合には、必ず [SHIFT] キーを押して SHIFT インジケータが点灯している状態で [RECORD] キーを押してください。

## <通常の記録>

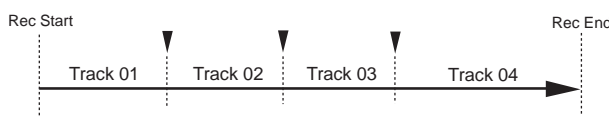
通常では、一度記録が終了することで 1 つのオーディオ・トラックがディスク上に作成されます。下記画面は、未記録のディスクへ記録終了後、REC READY をオフにしたときの画面です。



0 m 00 s 000					TOTAL
					ms
TRK-01					
→ ALL PLAY					
01					F S
					44.1
					BIT
					CDDA

## <トラック・インクルメント機能を使った記録>

トラック・インクルメント機能を使うと、一度の記録で複数のオーディオ・トラックを作成することができます。下記例のように、ライブ録音中無音の位置 (矢印) でトラック・インクルメント機能を三回実行することで、4 つのオーディオ・トラックが作成できます。下記画面は、記録終了後 REC READY をオフにしたときの画面です。



0 m 00 s 000					TOTAL
					ms
TRK-01					
→ ALL PLAY					
01	02	03	04		F S
					44.1
					BIT
					CDDA

**Fostex**<sup>®</sup>

フォステクス カンパニー

宮沢オフィス 国内営業

196-0024 東京都昭島市宮沢町512

042-545-6111 FAX. 042-546-6067